

講 義 概 要

2025年度



慈 恵 看 護 専 門 学 校

講義概要

2025年度

目 次

I.	教育理念・目的・目標	5
II.	教育計画	15
III.	科目の構成	17
IV.	学科進度	23
V.	学年別講義要綱	25
	1 年次（76 期生）	27
	基礎分野科目	29
	専門基礎分野科目	42
	専門分野科目	59
	2 年次（75 期生）	79
	専門基礎分野科目	81
	専門分野科目	88
	3 年次（74 期生）	127
	基礎分野科目	129
	専門基礎分野科目	131
	専門分野科目	133
	臨地実習	147

I．教育理念・目的・目標

Ⅰ. 教育理念・目的・目標

教育理念

本校は、明治18年 創始者 高木兼寛がナイチンゲール看護婦学校に範を得て、「つねに人びとの幸を願いそのために献身する」という慈恵の精神に基づき、看護教育を開始した、わが国最初の看護師教育機関です。以後、一貫して社会に貢献できる看護実践者を育成しています。

教育にあたっては、専門職として必要な知識・技術を身につけ、教育所開設当初より大切にしてきた、品位、礼儀、辞讓、温かな態度で対象である人間を尊重した看護を実践できる看護師を育成します。慈恵の看護教育を受けた看護師は、社会のニーズに応じて医療施設のみならず在宅および保健福祉分野に貢献できる専門職として人々の健康に寄与します。

教育目的

慈恵の精神にのっとり看護に関する専門教育を行い、人間性の涵養につとめ社会に貢献できる有能な看護師を育成することを目的とする。

教育目標

- 1) 人間の存在を尊重し、人間の理解を深めるための能力を養う
- 2) さまざまな人々と人間関係を形成するコミュニケーション能力を養う
- 3) あらゆる人々の健康状態に対応した看護を実践する基礎的能力を養う
- 4) 保健・医療・福祉を総合的に理解し、多職種と連携・協働できる能力を養う
- 5) 豊かな人間性を養い、社会人として良識ある態度を形成できる
- 6) 専門職業人として看護を探究する姿勢を養う

2. 卒業時の到達目標（ディプロマポリシー）と必要とされる能力（コンピテンシー）

慈恵の看護専門学校は、卒業時到達目標に示す目標を達成し、必要な能力を身につけた学生に卒業を認め、専門士（看護）の称号を付与する。

【必要とされる能力（コンピテンシー）】

感じる力：

人間に対する心のこもった関心と思いやりを持ち、お互いの言動の意味と考えを認知・共感する力、他者の立場に立つ力、他者の考えや感情を知る力、自己の想像力

人とかかわる力：

自分の感じていることや行動・傾向を知り、他者の感情や考え方、おかれている立場を理解する力である。また、他者の思いに傾聴および共感しながら自分の考えを正確に伝える力である。感じ取る力・聞く力・伝える力・内省する力

ケアする力：

看護に関する知識と技術を有し、臨床の場で活用し、実践する経験を通して看護観を育み、問題解決の能力や臨床判断能力を養い看護を実践する力

協働する力：

チーム医療に携わるうえで目的を達成するために他者に応援を求める力、自分及び他者の役割を知り、協力し合う力、交渉力、調整力である。

学び続ける力：

生涯にわたって専門職としてより質の高い看護を目指して自律的に最新の知識・技術を学び続ける力である。

【卒業時の到達目標（ディプロマポリシー）】

- 1) 人間を統合された存在として幅広く理解できる
- 2) 看護の対象者との信頼関係を形成するためのコミュニケーションができる
- 3) 豊かな人間性を備え社会的規範を理解し行動できる
- 4) 科学的根拠・倫理に基づきさまざまな健康状態に応じた看護を実践する
- 5) 保健・医療・福祉システムにおける看護と多職種の役割を理解し連携・協働できる
- 6) 生涯にわたり継続して専門的能力を高めていくことができる

コンピテンシー	教育目標	1 人間の存在を尊重し、 人間の理解を深めるための 能力を養う	2 さまざまな人々と人間関係を 形成するコミュニケーション能 力を養う	3 あらゆる人々の健康状態に 対応した看護を实践する基礎 的能力を養う	4 保健・医療・福祉を総合的に 理解し、多職種と連携・協働で きる能力を養う	5 豊かな人間性を養い、 社会人として良識ある態度を 形成できる	6 専門職業人として 看護を探求する能力を養う
感じる力	ディプロマポリシー 1. 人間を統合された存在とし て幅広く理解できる	◎	○	◎			
人とかがわる力	2. 看護の対象者との信頼関 係を形成するためのコミュ ニケーションができる	◎	◎	◎			
	3. 豊かな人間性を備え社会 的規範を理解し行動できる	◎	◎	◎		◎	
ケアする力	4. 科学的根拠・倫理に基づき さまざまな健康状態に応じ た看護を实践する		◎	◎	◎		○
協働する力	5. 保健・医療・福祉システムに おける看護と多職種の役割 を理解し連携・協働できる		○	◎	◎	◎	
学び続ける力	6. 生涯にわたり継続して専門 的能力を高めていくことが できる			○			◎

3. 入学者受け入れ方針（アドミッションポリシー）

慈恵の看護専門学校は、卒業時の到達目標を達成できる学生として、入学時には次のような人材を望んでいる。

- 1) 慈恵の精神に共感し、看護実践に取り組む意欲がある人
- 2) 目標に向かって自ら学び続けることができる人
- 3) 他者の意見を聞き、自分の意見を伝えて信頼関係を作ることができる人
- 4) 看護を学ぶために必要な基礎学力を持ち学習することができる人
- 5) 人に対する関心と思いやりがもてる人
- 6) 誠実で良識ある行動ができる人

4. 教育課程編成・実施の方針（カリキュラムポリシー）

慈恵の看護専門学校は社会のニーズに応じて医療施設のみならず在宅および保健医療福祉分野に貢献できる専門職を育成している。

教育課程は、教育理念、教育目標、卒業時の到達目標（ディプロマ・ポリシー）に基づいて、「基礎分野」「専門基礎分野」「専門分野」で構成する。

- 1) 基礎分野と専門基礎分野は、専門領域を学ぶ上で土台となる。専門領域の基礎看護学を核とし、あらゆる対象、健康の段階、療養の場の看護を展開でき3年間で修得すべき能力を養う為に必要な学習の順序性を考え、さらに看護基礎教育と卒後教育の橋渡しとなるようカリキュラムを構成し、配置する。
- 2) 低学年時からグループ討論、演習、実習を多く取り入れ、反復と応用、体験を繰り返せるような組み合わせで配置する。
- 3) アクティブラーニング、シミュレーション学習、ロールプレイ学習など、知識だけでなく体験を通して学べるような教育方法を積極的に取り入れる。
- 4) 日常的な体験を通して、さまざまな人々と人間関係を形成するコミュニケーション能力を養えるような機会を提供する。
- 5) 豊かな人間性と、人に対する関心と思いやりをもち、誠実で良識ある行動ができるよう教科内に留まらず、学校生活のすべての場面を学びの機会とする。
- 6) 科目目標の達成度は、多様な評価方法を用いて総合的に評価する。

各分野のねらいと構成は以下のとおりである。

(1)「**基礎分野**」は、専門基礎分野、専門分野を支える科目群である。ここでは、「科学的思考の基盤」「人間と生活・社会の理解」を学ぶ。人間愛および生命の尊厳を基盤とした人間と生活の理解に加え、科学的・論理的思考を育成し、国際化や情報化社会への対応能力（ICT 活用能力）を高め、成長発達に伴う変化や教育、世界各国の文化・社会・価値観を学び、人間と社会の関わりを理解する。これらの学びをとおして、看護を学ぶための資質を培い、豊かな感性を持ち合わせた主体性のある人間形成に寄与することをねらいとする。

(2)「**専門基礎分野**」は、基礎分野と共に、専門分野である看護学を学ぶ上で土台となる科目群である。ここでは、「人体の構造と機能」「疾病の成り立ちと回復の促進」「健康支援と社会保障制度」を学ぶ。人体の発生と構成、形態と機能について学び、人間の生命につながる営みである日常生活行動の理解を深める。人間を生活者として全人的にみつめ、看護の視点から病的状態に至る過程とその変化に注目し、回復を促進させるメカニズムを理解する。これらの学びによって、科学的根拠に基づいた看護実践に必要な臨床判断能力の基盤づくりをめざす。さらに、人々が生涯を通じて健康や障害の状態に応じて社会資源を活用できるよう、今日の保健・医療・福祉の動向と社会保障制度を学び、よりよく生きようとする社会的存在としての人間の理解を深める。これらの学びをとおして、看護を実践するために必要な専門知識を身につけることをねらいとする。

(3)「**専門分野**」は、基礎分野、専門基礎分野で学んだ土台をもとに、あらゆる人びとの健康状態に応じた看護の必要性を判断し、適切な方法で援助を実践するための能力を身につけるための科目群である。ここでは、「基礎看護学」「地域・在宅看護論」「成人看護学」「老年看護学」「小児看護学」「母性看護学」「精神看護学」「看護の統合と実践」を区分する。

「基礎看護学」では、人間のライフサイクルにおける健康の意義、保健・医療・福祉における看護の役割について理解し、看護とは何かを考え、看護実践の基礎となる知識・技術・態度を習得する。

「地域・在宅看護論」では、多様な場で生活する人々と家族の暮らしを理解し、地域包括ケアシステムのなかで健康を護り、健康障害を抱えながらも自宅で過ごす人を支えるための看護を学習する。人びとの生活の基盤は地域・在宅にあることを意識づけ、暮らしを支える視点を養うため、「基礎看護学」と同様に 1 年次の早い段階から段階的に学習できるよう構築する。

各看護学では、さまざまなライフサイクルにある人々の特徴を理解し、健康状態に応じた看護について学び、多職種と連携・協働して適切な保健・医療・福祉を提供する能力を身につける。また、それぞれの特徴や専門性を深めながら、できるだけ包括的、横断的な観点から学べるようにする。

「看護の統合と実践」では、既習の学習を統合し、より実践に近づけて看護実践力の向上を図り、生涯にわたって継続して看護を探究するための素地を養う。これらの学びをとおして、社会に貢献できる看護師としての基礎的能力を身につけることをねらいとする。

5. 主要概念の定義

慈恵の看護専門学校は、看護、人間、健康、環境 を次のように捉える。

看護とは、「その人の生命力の消耗を最小にするよう生活過程を整えることである」という、ナイチンゲールの提唱する看護に基づき、あらゆる人びとの成長と発達、健康の状態に応じて、持てる力を活用し、自立を助け、その人らしく日常生活が営めるように援助する活動である。看護は、人間関係を基盤とし、その対象に応じて教育的機能や相談・支持的機能・調整的機能を持つ。

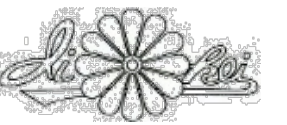
人間とは、基本的人権を有し尊重される存在である。人間は、受精から死ぬまでの生命現象を持ち、身体的・精神的・社会的・霊的に統合され、成長しつづける存在である。人間には 自然に備わった回復力、自然治癒力があり、人間は外部環境の変化に応じてバランスをとりながら内部環境を保っている存在である。

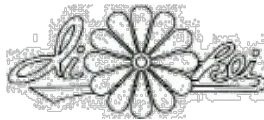
健康とは、身体的・精神的・社会的に調和がとれている状態である。健康は基本的権利の一つであり、個人の QOL に影響を与えるものである。健康とは良い状態をさすだけでなく、持てる力を十分に活用している状態で、生活過程により影響を受け、流動的かつ連続的なもので、個人の価値観に基づいて自らが創り出していくものである。

環境とは、人間を取り巻くすべてをさし、つねに相互に関連しあい、人間の成長・発達や健康に影響を及ぼしている。人間もまたその環境の一部である。

Ⅱ. 教育計画

教育計画



入学者受け入れ方針（アドミSSIONポリシー）	教育課程編成・実施の方針（カリキュラムポリシー）	教育目標		1. 人間の存在を尊重し、人間の理解を深めるための能力を養う 2. さまざまな人々と人間関係を形成するコミュニケーション能力を養う 3. あらゆる人々の健康状態に対応した看護を実践する基礎的能力を養う 4. 保健・医療・福祉を総合的に理解し、多職種と連携・協働できる能力を養う 5. 豊かな人間性を養い、社会人として良識ある態度が形成できる 6. 専門職業人として看護を探究する能力を養う						
		学年目標	①新しい環境に適応し、主体的に学習する習慣を身につける ②自己を見つめ、良い人間関係を保つ ③「看護」「人間」「環境」「健康」について関心を持ち、概念を理解する ④看護について共通する基本となる技術を習得する ⑤保健・医療・福祉システムにおける看護と多職種の役割を知る		①看護の対象・役割について理解を深める ②個性を考慮した看護の必要性がわかり「実践に繋げる」ことができる ③保健・医療・福祉システムにおける看護と多職種との連携・協働の必要性を理解する ④看護を学ぶものとして、責任のある行動がとれる ⑤自己のあり方を考え建設的に学習に取り組むことができる		①対象に応じた看護が実践できる ②看護の本質を探究し、看護の学びを深める ③保健・医療・福祉システムにおける看護と多職種との連携・協働の実践を理解する ④社会人としての自覚を持ち、責任のある行動がとれる ⑤自らの将来像を描き目標に向かって学びを深める			
			I 年次前期	I 年次後期	2 年次前期	2 年次後期	3 年次前期	3 年次後期	卒業	
		専門分野	日常生活の援助技術演習 日常生活の援助技術 看護基本技術 看護学概論	母性看護学概論 小児看護学概論 老年看護学概論 成人看護学概論 地域・在宅看護論実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅰ フィジカルアセスメント 診療に伴う援助技術演習 診療に伴う援助技術	精神疾患と治療 精神看護学概論 妊婦・産婦の看護 ライフサイクル各期の看護 健康障害をもつ子どもと家族の看護 小児の疾患と治療 健康障害のある高齢者の看護 高齢者の健康を支える看護 リハビリテーション看護 慢性期看護 周手術期看護 急性期看護 地域・在宅看護概論 地域・在宅看護の実際 看護における臨床判断Ⅰ 看護過程の展開	精神看護学実習 精神看護技術演習 精神に障害のある対象の看護 母性看護学実習 褥婦・新生児の看護 小児看護学実習 小児看護技術演習 長期に療養する高齢者の看護 成人・老年看護学実習2 成人・老年看護学実習Ⅰ 緩和・終末期看護 在宅看護技術演習 在宅療養を必要とする対象の看護 訪問看護の実際 基礎看護学実習2 看護における臨床判断2	精神看護学実習 母性看護学実習 小児看護学実習 成人・老年看護学実習4 成人・老年看護学実習3 地域・在宅看護論実習2 在宅看護における看護過程 看護研究	統合実習 医療安全と臨床看護技術 看護の統合 看護管理と国際・災害看護 看護の変遷	卒業時の到達目標（ディプロマポリシー） 看護師国家試験受験	
		専門基礎分野	医療概論 感染と免疫 栄養と食生活 生体の調節機能 生命の維持機能 人体の構造	生活科学 生体の調節機能障害と治療2 生体の調節機能障害と治療Ⅰ 生命の維持機能障害と治療 臨床薬理学 疾病総論 発達心理学	臨床心理 社会福祉 環境保健論 麻酔と手術療法	人間関係論 多職種協働の実践	医療社会学	臨床倫理 看護関係法令		
		基礎分野	生命科学 情報科学 社会学 カウンセリングの基礎 英語表現 論理学 心理学 哲学	カウンセリングの技法 英文読解 教育学 経済学 法学			文化人類学			
		単位数	39		40		23		計 102	
		教育の基盤		慈恵の精神 「つねに人びとの幸を願い そのために献身する」		ナイチンゲール看護の継承 「生命力の消耗を最小にするよう生活過程を整える」		大学の建学の精神 「病気を診ずして 病人を診よ」		

Ⅲ. 科目の構成

科目の構成

		科 目 名	単位数	時間数
基礎分野	科学的思考の基盤	論理学	1	30
		哲学	1	30
		情報科学	1	30
	人間と生活・社会の理解	生命科学	1	15
		英語表現	1	15
		英文読解	1	15
		法学	1	15
		カウンセリングの基礎	1	30
		カウンセリングの技法	1	15
		心理学	1	30
		社会学	1	30
		経済学	1	15
		文化人類学	1	15
		教育学	1	15
小 計			14	300
専門基礎分野	機能 人体の構造と	人体の構造	1	30
		生命の維持機能	1	30
		生体の調節機能	1	30
		栄養と食生活	1	30
		発達心理学	1	30
	疾病の成り立ちと回復の促進	医療概論	1	15
		感染と免疫	1	30
		疾病総論	1	30
		臨床薬理学	1	30
		生命の維持機能障害と治療	1	30
		生体の調節機能障害と治療Ⅰ	1	30
		生体の調節機能障害と治療Ⅱ	1	15
		麻酔と手術療法	1	30
		医療社会学	1	15
		臨床心理	1	15
		臨床倫理	1	30
	健康支援と 社会保障制度	生活科学	1	15
		環境保健論	1	15
		人間関係論	1	15
		社会福祉	1	30
		看護関係法令	1	15
		多職種協働の実践	1	15
小 計			22	525

		科 目 名	講 義		実 習	
			単位数	時間数	単位数	時間数
専 門 分 野	基礎看護学	看護学概論	1	30		
		看護基本技術	1	30		
		日常生活の援助技術	1	30		
		診療に伴う援助技術	1	30		
		日常生活の援助技術演習	1	45		
		診療に伴う援助技術演習	1	45		
		フィジカルアセスメント	1	15		
		看護過程の展開	1	30		
		看護における臨床判断 1	1	15		
		看護における臨床判断 2	1	15		
		看護の変遷	1	30		
		基礎看護学実習 1			1	45
		基礎看護学実習 2			2	90
	地域・在宅看護論	地域・在宅看護概論	1	15		
		地域・在宅看護の実際	1	15		
		訪問看護の実際	1	15		
		在宅療養を必要とする対象の看護	1	15		
		在宅看護技術演習	1	15		
		在宅看護における看護過程	1	15		
		地域・在宅看護論実習 1			1	30
		地域・在宅看護論実習 2			2	90
	成人看護学	成人看護学概論	1	30		
		急性期看護	1	30		
		周手術期看護	1	30		
		慢性期看護	1	30		
		リハビリテーション看護	1	30		
		緩和・終末期看護	1	30		
	老年看護学	老年看護学概論	1	30		
		高齢者の健康を支える看護	1	30		
		健康障害のある高齢者の看護	1	30		
		長年に療養する高齢者の看護	1	30		
	成人・老年看護学	成人・老年看護学実習 1			2	90
		成人・老年看護学実習 2			2	90
		成人・老年看護学実習 3			2	90
		成人・老年看護学実習 4			2	90

		科 目 名	講 義		実 習	
			単位数	時間数	単位数	時間数
専 門 分 野	小児看護学	小児看護学概論	1	30		
		小児の疾患と治療	1	15		
		健康障害をもつ子どもと家族の看護	1	30		
		小児看護技術演習	1	15		
		小児看護学実習			2	90
	母性看護学	母性看護学概論	1	15		
		ライフサイクル各期の看護	1	15		
		妊婦・産婦の看護	1	30		
		褥婦・新生児の看護	1	30		
		母性看護学実習			2	90
	精神看護学	精神看護学概論	1	30		
		精神疾患と治療	1	15		
		精神障害のある対象の看護	1	30		
		精神看護技術演習	1	15		
		精神看護学実習			2	90
	看護の統合と実践	看護管理と国際・災害看護	1	30		
		医療安全と臨床看護技術	1	30		
		看護研究	1	30		
		看護の統合	1	30		
		統合実習			3	135
小計			43	1095	23	1020
総計			102 単位／ 2940 時間			

IV. 学科進度

24 | 講義概要

24 | 講義概要

V. 学年別講義要綱

1 年次（76 期生）

基礎分野科目

専門基礎分野科目

専門分野科目

2 年次（75 期生）

専門基礎分野科目

専門分野科目

3 年次（74 期生）

基礎分野科目

専門基礎分野科目

専門分野科目

臨地実習

Ⅰ 年次

(76 期生)

論理学		単 位 数	I	時 間 数	30
I 年次 4 月開講～9 月終講					
担当講師 五十嵐ふみ代					
科目目標 1. 看護における論理的な国語力の重要性を認識する 2. 論理的に正確に明瞭に、話す力・書く力を習得する 3. 目的に応じて、適切な情報を得たり、相手の言動の意味を考えたりして、解釈・判断する力を養う					
講義内容	看護師に必要な論理的な国語力とはなにか？ 医療の現場の中核にいて、多種多様な思いの患者や異なる医療職種の人からの伝達、依頼、要望、指示等々を取り仕切り、また自らも行う。そのような日常において最も大切にされるのが正確、明瞭な伝達能力であろう。そしてその内容が論理的であることが要求される現場でもある。 本講座では、様々な「話す」「聞くこと」「読むこと」「書くこと」の活動を通して、この力をつけていきたいと思います。 論理学オリエンテーション 1. 看護における論理的思考の重要性 論理的な言語表現 1. 正確・明瞭な話し方（相手意識・場面意識・目的意識） 2. 正確・明瞭な書き方（表記・表現） 3. 論理的な文章の構造・展開 論理的に話したり、書いたりする実践 1. 文学的・説明的文章をめぐって 2. 看護における状況を設定した文章をめぐって 2 回目の講義で、「今まで読んだ本の中で一番心に残った本」を紹介してもらいます。考えておいて下さい。（絵本も可）				
使用テキスト なし。配布するプリントを綴じるファイルを準備してください。					
卒業前までに読み終えておくべき作品 『高瀬舟』森鴎外、『こころ』夏目漱石、『幸福な食卓』瀬尾麻衣子（他作品でも可）、 『風が強く吹いている』三浦しおん（他作品でも可）、『カラフル』森絵都（他作品でも可）、 『獣の奏者』上橋菜穂子（他作品でも可）、『ゲド戦記Ⅰ～Ⅲ』ル・グウィン 岩波書店、 『こころの処方箋』河合隼雄、『二つの旅の終わりに』エイダン・チェンバース					
評価方法 出席状況・授業での取り組み・課題で総合的に評価する					

哲学		単 位 数	I	時 間 数	30
I 年次 4 月開講～9 月終講					
担当講師 伊野 連					
科目目標 人間の存在、価値観、ものの見方を理解する					
講義内容 「哲学は＜驚き＞とともに始まる」。これは、アリストテレスの言葉です。私たちは日常生活において、何の疑いも持たずに生きています。ところがあるとき、自分が当然だと思っていたことが当然ではないことに「気づき」ます。そのときに、哲学は始まるのです。みなさんもこれまで生きてきて「挫折」をしたことがあるでしょう。そういうときに、自分のこれまでの過ごし方、あるいは、生きてきた道を振り返ることがあります。そこに哲学は始まります。このような「挫折」は、未来にもつながっているのです。 一見するとなぜこんなことが問題になるのかという疑問もわいてくると思います。ですが、みなさんが自分の経験に照らして、検証することが大事なのです。 それは、みなさんがこれから進む道において、「挫折」に負けることなく、再び立ち上がり生きていく力になるのです。ですから、本講義では、忙しい勉学の中で、一度先人の考えに浸ってみることが大事なのではないかと考えております。 だいたい3段階に分けて考えていきたいと思います。 この「哲学」の講義では、①このような「気づき」がどういった意味をもっていたのかを、具体的な哲学者の言葉を紹介し、検討しながら考えていきたいと思っております。 例えば、古代においてソクラテスが「汝自身を知れ」というデルフォイの神殿に書かれていた言葉を取り上げ、自らの哲学を展開しました。これが哲学の基本になるでしょう。そこから本講義は始めることにします。そして、この言葉が行き着いた道を探ります。それが、プラトン、アリストテレスへとつながっていきました。 続いて、②近代哲学の中で、バイコン、デカルト、カントを取り上げます。これらの人たちは、近代、すなわち私たちが生きている時代の初頭において、この時代の新しい、もはや後には戻れない時代であることを受け入れ、この新しさを理論的に定着させようとしてしました。 そして、③倫理学の歴史（徳の倫理、義務論、功利主義）、さらに今私たちが生きている21世紀において、1960年代から問題になり始め、大きく取り上げられるようになった「生命倫理」の問題について簡単にお話しし、一緒に考えていきたいと思います。					
使用テキスト 伊野 連 『哲学・倫理学の歴史』三恵社 伊野 連 『生命の倫理 入門編』三恵社					
評価方法 出席状況と課題レポートの結果で総合的に評価します					

情報科学		単 位 数	I	時 間 数	30
I 年次 4 月開講～9 月終講					
担当講師 坪井博之					
科目目標 1. 情報の意義について理解し、看護活動に活用できる基礎的能力を養う 2. 情報処理の基本的な考え方、方法を学び、情報リテラシーを理解する					
講義内容 1. 講義 ・情報科学 ・情報リテラシーとは ・個人情報の保護とプライバシー ・情報化について ・設計的・分析的な考え方 ・質的データと量的データの種類と取り扱い ・文献検索 ・統計学について 2. Word・Excel を使用して質的・量的データの処理の知識・技術の学習 ・データの入力方法・範囲の設定・表計算・内部・外部関数・グラフ化・印刷（表のみ、グラフのみ、表とグラフ）等 ・時系列、断面データ等を使って Excel でデータの集計とグラフ化を行い、出来上がった集計結果とグラフから、結果を読み取り考察を行う。 3. 学習した知識・技術を活用して実際のデータの処理とまとめ 実際の看護業務のデータに学習した知識・技術を適用して情報を処理し、その結果を分析して考察を行いまとめる。 ①データ収集の方法と分析手法 ②表の作成と計算（内部関数・外部関数の活用） ③グラフ化 ④結果の読み取りと考察の記述 ⑤論文形式でまとめ、印刷 提出					
使用テキスト 太田勝正 前田樹海 編著 エッセンシャル看護情報学 医歯薬出版					
評価方法 演習課題と出席により総合的に評価する					
留意事項 ・データ処理に関する授業には、それぞれ関連があるので、やむをえない事情を除いてできる限り継続して授業に出席して欲しい。					

生命科学		単 位 数	1	時 間 数	15
Ⅰ 年次 4 月開講～7 月終講					
担当講師 山田陽子					
科目目標 生きものとしての人間（ヒト）が、他の生物とどこまでが同じで、どこが異なるのか。 それを知るためには生命の誕生からヒトにいたる進化の歴史と、その産物としての細胞と 人体の基本的な仕組みを知らなければならない。 それによって人間の生命のかけがえのない尊さを知ってほしい。					
講義内容 遺伝学の父と呼ばれるメンデルが「植物雑種の実験」という論文のなかで因子を提唱しました。 ウィリアム・ヨハンセン（1909 年）がこれを遺伝子（gene）と名付けました。20 世紀半ば までにこの遺伝子（gene）の化学的正体は DNA であることが解明されました。 従来、タンパク質の設計図となるもの、すなわちタンパク質あるいはポリペプチドをコード する部分のみを「遺伝子」と呼んできました。近年の急速な DNA 解析の進展により、タンパ ク質あるいはポリペプチドをコードする部分のみを「遺伝子」と呼ぶことが適切であるのかと いうことも考えられています。 タンパク質あるいはポリペプチドをコードする部分のみを「遺伝子」と呼ぶ時には、それ以 外の領域の DNA を「ジャンク DNA」とひとまとめに呼んでいました。ゲノムプロジェクト によりヒトの DNA 上の従来の「遺伝子」は 2% 余りであることが多くの驚きがありました。 現在はこの「遺伝子」以外の領域を非コード（ノンコーディング）DNA と呼ぶようになって きています。この非コード DNA とはタンパク質をコードしていない領域ですが、RNA に 転写されている場合と、RNA に転写されていない場合があります。非コード DNA は細胞の機能、 特に遺伝子の活性を制御するのに重要な役割を担っていることが明らかになってきています。 このようなことを含め、この授業では、まだまだどうやって生きているのかわからないこと ばかりの生物について、DNA を中心に基礎を学びます。 1. 遺伝情報の化学的正体 2. DNA と RNA について 3. 非コード DNA ・ RNA 4. 遺伝子の発現の制御 5. エピジェネティクス					
使用テキスト 特になし					
評価方法 課題等で評価する					

英語表現		単 位 数	1	時 間 数	15
Ⅰ 年次 4 月開講～7 月終講					
担当講師 飯室千恵子					
科目目標 1. 看護に関する英語の文献を読み、基礎的な英文読解力をつける 2. 語彙・文法・会話表現などの英語の知識を習得する					
講義内容 本講義は、看護師にとって実際に役に立つ英語を身につけることを目標に、学習を進めていきます。教科書の他、配布プリントや視聴覚教材も利用しながら会話練習等を行い、物怖じせずに英語で会話できるように訓練していきます。看護に関する英語特有の表現や語彙などの知識を増やすとともに、相手に自分の意思を伝えることのできる英語が身につくよう練習していく予定です。特に発音練習に関しては重点的に行います。 より高いコミュニケーション能力を身につけるために、異文化に接する際にどのような態度をとるべきか、ということも考察しながら進めていく予定です。 講義に際しては自発的・積極的な参加態度が望まれます。また、辞書は毎回忘れずに持参してください。 1. Introduction and admissions 2. Assessing patients and body parts 3. Pain assessment 4. Pain and other symptoms 5. Symptoms and injuries 6. Vital signs 1 7. Vital signs 2 8. Wound management and roundup					
使用テキスト Ros Wright / Maria S. Symonds 著 English for Nursing 2 (Pearson) 辞書を必ず持参すること					
評価方法 終講試験（100 点満点）と平常点により総合的に評価する					

英文読解		単 位 数	1	時 間 数	15
1 年次 9 月開講～12 月終講					
担当講師 栗岩 愛					
科目目標 看護に関する文献の基礎的読解力を養う					
講義内容	様々なテーマに沿って英文を読んでいます。使用するテキストのリーディング・セクションは医療、健康、社会、生活など身近な話題について基礎的な英文で書かれ、特に看護や医療に視点を置いたものがテーマとして選ばれています。英語で読むことによって英文に慣れ、今まで身に付けてきた英語力をより確かなものとしていきます。 そして英語の文献を精読する力を養うだけでなく、看護の仕事に直結した実践的な応用能力を身に付けることを目標とします。 医療関係の用語は、馴染みのない語が多く最初は覚えづらいかもしれませんが、練習問題などで繰り返し学び、リーディングだけでなく、ライティング、リスニング、スピーキング等の包括的な英語活動を通して理解を深めていきます。そして英語という言葉を知識として学ぶだけでなく、異文化理解から視野を広めてグローバルかつ多様な環境で主体的に活動する力を付けることを目指します。 <Titles from the Textbook> 1. What Worries Barbara? 2. That’ s Mama’ s Hair 3. How to Give First Aid 4. Giving Blood 5. Living a Healthy Life 6. Is the Treatment Different or Not? 7. Is Hepatitis B Curable? 8. Foreign Nurses Struggle for the Japanese Language				
使用テキスト 笹島 茂・山崎朝子 共著 Take Care ! : Communicative English for Nursing and Healthcare (医療と看護の総合英語 [三訂版]) 三修社					
英和辞書を必ず持参すること。					
評価方法 12 月終講試験と平常点により総合的に評価する。					

法学		単 位 数	1	時 間 数	15
Ⅰ 年次 Ⅹ 月開講～Ⅻ 月終講					
担当講師 小澤隆一					
科目目標 日本国憲法の形成と発展過程の概要を知る 日本国憲法と社会生活を営むうえで関連する法律についてその目的と意義を学ぶ					
講義内容 Ⅰ. 法とは何か Ⅰ) 人間の生活と法 Ⅱ) 権利と義務 Ⅲ) 法と倫理 Ⅱ. 日本国憲法とは Ⅰ) 近代立憲主義とは一大日本帝国憲法と日本国憲法 Ⅱ) 日本国憲法の成立過程 Ⅲ) 日本国憲法の原理（そのⅠ）—平和主義 Ⅳ) 日本国憲法の原理（そのⅡ）—国民主権と権力分立 Ⅴ) 日本国憲法の原理（そのⅢ）—基本的人権の尊重 Ⅲ. 現代日本における法の状況 Ⅰ) 民事法 Ⅱ) 刑事法 Ⅲ) 行政法 Ⅳ) 司法の役割など Ⅳ. まとめ - 医療者として法を学ぶ意義					
使用テキスト 小澤隆一編「クローズアップ憲法」（法律文化社） 参考文献 野崎和義、柳井圭子「看護のための法学」第2版（ミネルヴァ書房）					
学習上の注意 毎日のニュースに関心をもち、新聞（特に第Ⅰ面）に目を通してください。					
評価方法 課題により評価する。					

カウンセリングの基礎		単 位 数	I	時 間 数	30
I 年次 4 月開講～9 月終講					
担当講師 村上志保					
科目目標 1. 人間関係成立におけるコミュニケーションの意義と方法が理解できる 2. 看護におけるコミュニケーションの意義が理解でき、実践につなげられる					
講義内容	看護ふれあい学講座 1. 看護者の神話とコミュニケーションにおこりやすいずれ 看護ふれあい学（ゴードンメソッド）とは 1・2 章 2. よりよい人間関係を築くもっとも重要な法則（行動の四角形と 問題所有の原則） 3・4 章 3. 心の声を表現しやすくなる能動的な聞き方 5・6 章 4. 能動的な聞き方の実例とその効果 7 章 5. 出産・誕生時のかかわり 患者の沈黙やはげしい否定的感情に出会う時 8・9 章 6. 患者のインフォームド・チョイスの援助 認知症患者への対応 10・11 章 7. 死と向き合う人への援助 能動的聞き方を正しく行うには 12・13 章 8. 率直な自己表現とは（わたしを主語に語る） 自分の人生を主役になって生きる人の特徴 14 章 9. 問題なし領域で効果的な4つのわたしメッセージ 15 章 10. 看護者にも受け入れられないことがある 患者の心に届く話し方と切りかえ 16 章 11. 対決のわたしメッセージと価値観に影響を与えるわたしメッセージ の実例とその効果 16・20 章 12. 環境を改善する、発達障害について考える 17 章 13. 勝者も敗者もない方法（第三法）で欲求の対立を解く 勝負なし法の実例とその効果 18 章 14. 患者同士のトラブルへのかかわり（介入的援助） プロセスコンサルタント 19 章 15. 価値観の対立をどう解くか 20 章				
使用テキスト 看護ふれあい学講座 近藤千恵監修 中井喜美子著 照林社					
評価方法 1. 毎授業後に提出するワークレポート 2. 出席状況					

カウンセリングの技法		単 位 数	1	時 間 数	15
1 年次 9 月開講～12 月終講					
担当講師 村上志保					
科目目標 1. カウンセリングを活かしたコミュニケーションの実際を学ぶ					
講義内容 1. 対話を観る（観察力を育む） 2. 分かりにくい記号を読み解く練習 （あ行トーク、サイレントトーク、ジェスチャートークの体験） 3. 能動的な聞き方のロールプレイによる練習① 4. 能動的な聞き方のロールプレイによる練習②（相手が複数のとき） 5. 問題なし領域での情報の伝え方の工夫 6. 肯定のわたしメッセージとほめ言葉の違いを体験する 7. 返事のわたしメッセージで断る練習 8. 対決のわたしメッセージと価値観に影響を与えるわたしメッセージの練習					
使用テキスト 看護ふれあい学講座 近藤千恵監修 中井喜美子著 照林社					
評価方法 1. 毎授業後に提出するワークレポート 2. 出席状況					

心理学		単 位 数	I	時 間 数	30
I 年次 4 月開講～9 月終講					
担当講師 木立静津子 進藤純平					
科目目標 人間の心と行動について学び、自分自身と他者を理解する					
講義内容 心理を「専門」とする職は、災害や事件・事故の際にメディアで取り上げられ、スクールカウンセラーとして学校の中に導入されたりしています。そのため、心理学＝カウンセリングと思っている人が少なくないかもしれません。 しかし、そもそも心理学は、人間の思考・感情・行動を科学的方法で解明しようとしてきた学問です。そして、人間の＜こころ＞を理解しようとする過程で得た知見が、医療・福祉・教育・司法などさまざまな分野で役立つことを目指しています。 本講義では、人間の＜こころ＞の働きについて、基礎的な理論を、身近なことからとりあげながら共に考えていきます。 また、看護に活かす心理学として、随時、理論や技法を紹介します。本講義の聴講や課題提出を通して、自分を理解し大切にすることを学びます。それは他者を理解し大切にすること、さらに人間を大切にすることに通じます。 講義の主な内容 1. 看護における人間理解 2. 認知からの人間理解 3. 社会心理学 4. カウンセリング理論 5. 動機づけ・防衛 6. 記憶 7. 心の健康とストレス 8. 発達心理学 9. パーソナリティー I 知能 10. パーソナリティー II 性格 11. さまざまな心の問題 12. 発達神経症 13. 遊戯療法 14. 看護に活かす心理学 15. まとめ					
使用テキスト 田中一彦・長田久雄編 新体系看護学 心理学 メヂカルフレンド社 随時、必要な資料を配布し、参考文献を紹介します。					
評価方法 課題提出およびテストによって総合的に評価します。					

社会学		単 位 数	I	時 間 数	30
I 年次 4 月開講～9 月終講					
担当講師 土屋 久					
科目目標 社会学の基礎理論及び、地域社会・職場などの生活の場を通して社会的存在としての人間を理解する					
講義内容	社会は様々な人と人との関わりのことであり、家族や友人関係など数人規模の小さなものから、都市や国際社会など大きなものまでさまざまなものがあります。社会学とは、こうした社会が成り立つしくみやあり様に着目し、解き明かしていく学問です。 目の前の他者がどのような社会を生き、いまどのような社会的状況にあるのか。こうした観点は看護師を志すみなさんにとっても重要であり、社会学的知識はその将来においても役に立つことでしょう。 本講義では、社会学の基本理論と、それをもとに、「医療」「宗教」「地域社会」といったトピックを重点的に、社会学の基本的な発想や知見について触れていきます。 講義の各回のテーマは以下を予定しています。 第1回 イントロダクション 第2回 社会学とはどういう科学か 第3回 行為論 第4回 地位と役割（相互行為） 第5回 集団と組織 第6回 全体社会 第7回 日常生活の捉え方 第8回 地域の捉え方 第9回 行気行動・病人役割・病の経験 第10回 行気行動・病人役割・病の経験Ⅱ 第11回 宗教の社会学 第12回 宗教の社会学Ⅱ（世俗化と再魔術化） 第13回 現代社会における家族の機能 第14回 ジェンダーとセクシュアリティ 第15回 総括 各回は、受講者の理解や進捗、また社会状況の変化によって、順序・回数・その内容等に変更が生じることがあります。				
参考図書	授業内で適宜指示する。				
評価方法	課題と平常点により評価する。詳細は初回授業で説明する。				

経済学		単 位 数	1	時 間 数	15
1 年次 9 月開講～12 月終講					
担当講師 萩原伸次郎					
科目目標 経済学の理論を学び、経済学的な考え方に立って、年金、医療などの経済問題について考える 基礎知識を理解する					
講義内容 私たちの生活に経済は様々な形で関与している。最近では、経済の国際化・金融化が進み、医療も国際化ということがよく言われるようになった。この講義では、人と人の関係である経済社会をグローバルにとらえ、21 世紀の医療と福祉についての基本を学ぶ。 そこで、本講義では、経済学的な立場にたって、以下の講義をすすめる。 1. 経済学入門 2. 経済成長とは何か？ 3. J.M. ケインズの考えかた 4. 大恐慌とケインズ経済 5. 戦後世界の経済体制 6. ケインズの経済社会と医療・福祉 7. ケインズの経済社会の崩壊と金融グローバリズム 8. 新自由主義とは何か？ 9. 新自由主義と福祉国家 10. 新自由主義と医療 11. アベノミクスの経済学 12. アメリカの医療制度 13. バイデン政権による新自由主義の克服策 14. 日本における「新しい資本主義」とは何か？ 15. まとめ 経済学的なものの見方から現代の福祉・年金・健康保険などについての理解を深める。					
使用テキスト 萩原伸次郎 著 『「新しい資本主義」の真実』 かもがわ出版 2023 年 参考書 萩原伸次郎 著 『金融グローバリズムの経済学』 かもがわ出版 2020 年					
評価方法 課題により評価する。					

教育学		単 位 数	1	時 間 数	15
Ⅰ 年次 Ⅹ 月開講～Ⅻ 月終講					
担当講師 芦沢柚香					
科目目標 教育学の基礎的な知識を得るとともに、その知識を、医療・看護の現場における「教育」に応用することができる					
講義内容 本講義では、学校教育にとらわれない「教育」を対象としています。 「教育」は、学校のなかだけで行われていることではありません。自身が置かれる環境や人間関係のあらゆる場面で、教育的な現象が生じています。本講義では、そのように教育を捉え、自身の経験した教育を相対化していくとともに、看護師となった際に活かせるものとして教育を理解することを目指します。 とりわけ、看護における教育的事象として、患者やその家族に対する教育・指導を取り上げ、その基礎理論と実践を学んでいきます。 講義の内容は以下の通りです。大まかな流れとして、まず、自身の「教育」を相対化することから始め、「子どもを対象とした学校教育」以外の教育に目を向けてもらいます。その後、看護と教育との接点として「患者教育」を取り上げ、その実践の土台となる成人教育学の基礎理論について学んでもらいます。 講義の形式は、前半に基礎的知識の講義を行い、後半にはそれらの知識を活用して様々な演習やグループワークに取り組んでもらいます。 なお、評価についてですが、本講義では、毎回の講義で小課題を課し、それらを総合して成績評価を行います。 【講義内容】 1. 「教育」の定義 「教育」とは何か / 「学習」とは何か 2. 看護の実践における教育 現代における「患者教育」の重要性 / 「患者教育」における実践上の課題 3. 成人教育学の基礎理論 「成人の教育」と「子どもの教育」 / 「アンドラゴジー」とは何か 4. 成人教育学の看護への応用 患者教育実践を成人教育学の視点から分析しよう					
使用テキスト テキストは指定しません。講義ごとにレジュメを配布し、それをもとに講義をします。					
評価方法 課題により評価します。					

人体の構造		単 位 数	I	時 間 数	30
I 年次 4 月開講～9 月終講					
担当講師 久保健一郎、吉永怜史、北澤彩子、重谷安代、辰巳徳史、庄野孝範、矢野十織、時本楠緒子、桑原俊男					
科目目標 1. 人体の構造について解剖用語を使って説明できる。 2. 諸器官の形態と機能を系統別に整理して説明できる。 3. 器官系間の相互連携を機能と関連づけて説明できる。 4. 正常な構造・機能が破綻した場合、どのような病態が出現するか説明できる。					
講義内容 1. 解剖学総論 2. 骨格系 3. 筋系 4. 中枢神経系 5. 末梢神経系 6. 感覚器系 7. 見学解剖実習 1 8. 見学解剖実習 2 9. 循環器系・呼吸器系 10. 血管・リンパ系・免疫 11. 消化器系 12. 泌尿器・内分泌系 13. 生殖系・発生 14. 見学解剖実習 3 15. 見学解剖実習 4 ＊全て対面による授業を予定しています。					
使用テキスト；Moodle に掲載する講義資料 【参考教科書】 1) 坂井健雄、橋本尚詞著：ぜんぶわかる人体解剖図 成美堂出版。 2) 坂井建雄、岡田隆夫、宇賀貴紀著：系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能 [1] 医学書院。 【参考動画】 医学映像教育センター「生体のしくみ」Vol.1-Vol.20.					
評価方法 終講試験 60-70%、授業への取り組み 30-40%で、評価を行う					
留意事項 1. 見学解剖実習は 15 分以上の遅刻は欠席とする 2. 配布する講義資料で当該領域の全容を把握し、参考教科書等を用いて知識を深めること 3. 知識を十分に定着させるために、復習のための学修時間は各講義あたり 60 分程度が望ましい 疑問点や理解できなかった点は、積極的に担当教員に質問して解決すること					

生命の維持機能		単 位 数	I	時 間 数	30
I 年次 4 月開講～9 月終講					
担当講師 山本慎也 福田紀男 谷端 淳 小比類巻生					
科目目標 生命の維持に必須の諸機能（植物機能）について学ぶ					
講義内容	1. 生理学とは：講義全体のオリエンテーションと生理学の語源、発達、進化、定義について学習し、生体の機能系、自動調節機構、恒常性、フィードバック・ループ、自然治癒力など生理学の基礎を理解する。 2. 血液系：人体を構成する個々の細胞の生存に必要な細胞外環境（内部環境）を恒常的に維持するための血液による 1) 物質（栄養素、水、酸素、二酸化炭素、ホルモン、老廃物など）や熱の運搬機能、2)pH 緩衝作用、3)免疫担当細胞や抗体などによる生体防御機能、4) 血液の通り道である血管が損傷した時の修復（止血）機能について学ぶ。1) が関連する機能として循環器系、呼吸器系、体温調節、腎・排泄系、消化器系、内分泌系が 2) が関連する機能として呼吸器系、腎・排泄系が密接に関連する。また、輸血の際、重要となる血液型について学ぶ。 3. 酸塩基平衡：血液の pH 恒常性を保つための仕組みを統合的に（血液系、呼吸器系、腎泌尿器系にまたがって）学習する。 4. 循環器系：肺内で一定のガス組成になった動脈血を全身に駆出する心臓のポンプ機能が効率良く規則正しく発揮される仕組みとその調節機構、動脈により血液の流れが円滑化され、環境の変化に応じて臓器や組織に供給される血液量が調節される仕組み、血圧測定法の原理、毛細血管と間質における物質交換、静脈血やリンパ液が心臓に戻る仕組みなどについて学ぶ。 5. 呼吸器系：外界より酸素を取り入れ、体内で生成された二酸化炭素を排出する呼吸運動により肺および肺内を流れる血液のガス組成が一定に保たれるメカニズム、また、末梢・中枢化学受容器（領域）を介した呼吸運動の調節について学ぶ。さらに、肺の膨らみやすさや容積（肺気量）が決定されるメカニズムや気道閉塞の要因、呼吸による血漿 pH の調節などについても学ぶ。 6. 体温調節系：体温が恒常的に維持されている機構、および体熱の産出と放散の仕組みについて学ぶ。また、体温測定手技の根拠について学ぶ。 7. 消化吸収系：外界より摂取した 3 大栄養素を小腸の粘膜を通過しうる程度まで分解し、それらを体内（血液やリンパ液）に取り入れる仕組み、ならびに消化管運動や消化液の分泌が調節される仕組みについて学ぶ。また、肝臓や胆嚢の働き、排便の仕組みについても学ぶ。 8. 腎・排泄系：体内で生成された老廃物や過剰成分の除去、体液の恒常性（体液量、浸透圧、電解質組成、pH など）が維持されるメカニズムについて学ぶ。また、排尿の仕組みについて学ぶ。				
使用テキスト 坂井建雄 他著：系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能 [I] 医学書院					
評価方法 7 月終講試験（100 点満点）により評価する。					

生体の調節機能		単 位 数	I	時 間 数	30
I 年次 4 月開講～9 月終講					
担当講師 竹森 重 山口真紀 山本慎也 山内秀樹 小比類巻 生					
科目目標 私たち動物が身体に調節して生きる仕組みを理解しよう！					
講義内容	並行する「生命の維持機能」で各臓器・組織の働きを学ぶが、これら各臓器・組織からなる私たちヒトは、想定される身体内外の変化を適切に感じ取って対処しながら健康にこの自然界を生き延びてきた。 まず私たちの身体内外の変化を感じ取るのは感覚器だ。感覚器といえば目や耳を 思い出さ だろうが、身体内の変化の感覚もある。内蔵感覚だ。自覚しないことが多いから気づかなか ったかも知れないが。 これら感覚器が感じ取った身体内変化に対しては、自律神経系と内分泌系という 二つの 仕組みが各臓器・組織に働きかける。自律神経系は素早くこまごと、内分泌系はゆっくり だが持続的に働きかける。 身体外からの変化には身体を動かす筋肉を使って運動神経系が働きかける。 様々な身体内外の変化を運動神経・自律神経・内分泌系経由の働きかけに結びつけるのが 脳をはじめとする中枢神経系だ。私たち高等動物は将来の変化を想定した判断や意志まで持つ ようになった。 ということで、生体の調節機能は三領域に分かれる。 1. 運動系：身体外の変化を感知して反応するのは主に運動神経系。想定される身体外か らの変化に適した感覚器と、その変化に適した身体運動を中枢神経系が指令して実現 する仕組みを学ぶ。 2. 自律神経系：生命維持に関わる諸機能が互いに拮抗する交感神経と副交感神経の両者 により臓器特異的に適正な範囲に調節される仕組みについて、体系的に学ぶ。また、 自律神経系の高次中枢である視床下部の役割や内臓感覚を担う自律神経求心路につい て学ぶ。 3. 内分泌系：代謝・成長・生殖などの調節を担い生命維持に重要な役割を持つ内分泌の 働きについて学ぶ。具体的には特定の分泌臓器から分泌され、血流に乗り標的臓器に 作用するホルモンにより媒介される内部環境の恒常性維持、中間代謝の調節、発育と 成長の制御、性の分化と生殖について学ぶ。				
使用テキスト 坂井建雄 他著：系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能 [I] 医学書院 授業を受ける上での注意 日々学ぶことを自らの身体にあてはめながら深めることが、医療に生きる理解への王道だ。 試験のための勉強に終わらせては時間があまりにもったいない。 使用するテキストは高校までの教科書と違って初学者に優しくないので予習にはまるで向かない。 優れた図がたくさん載っているから、講義で学び取ったことを手掛かりにまずはテキストの図に親しむ とよい。					
評価方法 9 月終講試験（100 点満点）により評価する。講義での提出物を評価の参考とする。					

栄養と食生活		単 位 数	I	時 間 数	30
I 年次 4 月開講～9 月終講					
担当講師 田原義和 種村陽子					
科目目標 1. 食物中の栄養素を消化・吸収・代謝して体を作り、動かし、調節・維持する仕組みを理解する 2. ライフステージに応じた健康づくりと食生活について理解する 3. 傷病者の栄養と食事療法について理解する					
講義内容 生体が発育・成長して生命を維持し、健全な生命活動を営むために、体外から取り入れる必須物質が栄養素である。食物中の栄養素を消化・吸収・代謝して体を作り、動かし、調節・維持する仕組みを理解することは重要である。栄養・食生活は、生命を維持し、子どもたちが健やかに成長し、また人々が健康で幸福な生活を送るために欠くことのできない営みである。身体的な健康という点からは、栄養状態を適正に保つために必要な栄養素等を摂取することが求められ、その一方で食生活は社会的、文化的な営みであり、人々の生活の質（QOL）との関わりも深い。食事は、食物や食品を獲得・選択・調理・摂取する行為であり、日常生活で食事に関係した生活を食生活という。日本人の栄養状態に関して、かつての食糧不足による単純な欠乏症にかわって、生活環境やライフスタイルの変遷に伴う新たな問題が生じている。交通手段の発達や労働環境の変化などによってエネルギー消費量が減少した一方、豊富な食品、高エネルギー食品の普及、食生活の簡便化などがいわゆる生活習慣病としての誘因になっている。他方、若年女性・傷病者・高齢者には、食糧不足ではない新たな要因による低栄養状態が出現してきている。 そこで、ライフステージに応じた健康づくりと食生活について、食品や調理に関する知識に加え、日本人の食事摂取基準についても理解した上で、傷病者の栄養と食事療法について理解する必要がある。この科目では、まず前半では5つの栄養素が（1）エネルギーを作り、（2）身体をつくり、そして（3）身体を調節することで健康を維持する代謝のしくみを学び、それに基づいて代表的な生活習慣病の基本を理解することで食事療法の理解へと繋げる。後半では、食べ物や栄養素を摂取することにより生活を営み、健康を維持・増進し、さらに疾病を予防し治療する内容としくみについて理解する。 1. 栄養素とその働き1：身体を動かす 1) 細胞のエネルギー ATP 2) 糖質 3) 脂質 4) たんぱく質 2. 栄養素とその働き2：身体をつくる 1) たんぱく質 2) 脂肪 3) 無機質（ミネラル） 3. 栄養素とその働き3：身体の働きを調節する 1) たんぱく質 2) 脂質 3) ビタミン 4) ミネラル					

栄養と食生活

4. 水と食物繊維
 - 1) 水と電解質
 - 2) 食物繊維
5. 消化と吸収
 - 1) 食物の消化
 - 2) 栄養素の吸収と体内輸送
 - 3) 栄養素の代謝 ----- ちょっと難しい「生化学」のはなし
6. 栄養素の代謝異常と生活習慣病
 - 1) 骨粗鬆症（カルシウム代謝）
 - 2) 糖尿病（糖代謝）
 - 3) 脂質異常症とメタボリックシンドローム（脂質代謝）
 - 4) 高尿酸血症と痛風（核酸代謝）
 - 5) 高血圧症（ナトリウム代謝）

1. 食事と食品
 - 1) 日本人の食事摂取基準
 - 2) 食品群とその分類
 - 3) 食品に含まれる栄養素
 - 4) 食品の調理
2. 健康づくりと食生活
 - 1) 生活習慣病の予防
 - 2) 食生活改善への施策
 - 3) 食の安全性と表示
3. 栄養ケア・マネジメント
 - 1) チームアプローチと栄養ケア・マネジメント
 - 2) 栄養スクリーニング
 - 3) 栄養アセスメント
 - 4) 栄養ケア計画と評価・判定
4. ライフステージと栄養
 - 1) 乳児期・幼児期・学童期における栄養
 - 2) 思春期・青年期・成人期における栄養
 - 3) 妊娠期・授乳期における栄養
 - 4) 更年期・老年期における栄養
5. 臨床栄養
 - 1) 病院食
 - 2) 栄養補給法（経腸栄養法・経静脈栄養法）
 - 3) 食事療法（代謝性疾患・術前術後食・嚥下障害・がん）

使用テキスト

前半（田原担当） 杉山英子・小長谷紀子・里井恵子著：基礎栄養学 化学同人（1・2章は開講前に自習）
後半（種村担当） 小野章史他：系統看護学講座 専門基礎分野 栄養学 医学書院

評価方法

9月終講試験（100点満点）により評価する。

発達心理学		単 位 数	I	時 間 数	30
I 年次 10 月開講～ 2 月終講					
担当講師 溝口奈津穂					
科目目標 本講義では人の一生を「発達段階（ライフサイクル）」という各ステージに区切りながら、それぞれの段階での認知、心理的発達について理解を深めることを目標とします。 それぞれの発達段階で、テーマとなる課題やその年代で生じやすい心の問題などがあります。それらについても概説しながら、皆さんが接する様々な年代の方への発達の理解を深めていきます。					
講義内容	1. 概説 2. 胎児期・新生児期① 3. 胎児期・新生児期② 4. 乳児期① 5. 乳児期② 6. 幼児期① 7. 幼児期② 8. 児童期 9. 発達障がい児の発達 10. 発達障がい児の支援 11. 発達評価 12. 青年期 13. 成人期・中年期・老年期① 14. 成人期・中年期・老年期② 15. 全体のまとめ				
使用テキスト 林洋一 史上最強図解 よくわかる発達心理学 ナツメ社 参考テキスト 下山晴彦・佐藤隆夫・本郷一夫 監修 発達心理学 ミネルヴァ書房					
評価方法 授業態度と 2 月終講試験（100 点満点）により評価する。					

医療概論		単 位 数	1	時 間 数	15
Ⅰ 年次 4 月開講～7 月終講					
担当講師 栗原 敏 渋谷田鶴子 東條克能					
科目目標 1. 現代医療の特徴と慈恵で学ぶ意義を理解する 2. 「いのち」について考えることができる 3. 医療を受ける対象の生命と人権の尊重および医療の倫理について理解する 4. 医療における患者と医療者の関係および患者の自己決定権について述べるができる 5. 健康と疾病のそれぞれの状態について述べるができる 6. 医療を担う専門職とその役割、連携・協働の必要性を理解する 7. 医療専門職としての役割を果たすための生涯学習の意義と必要性について学ぶ 8. 医学と看護の歴史について簡単に述べるができる					
講義内容 1. 医療を学ぶ人たちに 2. 医療の基本「人道主義・人権」について考えるー生命への畏敬 3. 医療が辿ってきた道・看護の歴史 4. 現在の医療における医療者ー患者関係の問題点とその克服について 5. 医療を担う多職種間の協働ーソーシャルワークの見地から 6. 医療の進歩と未来への展望 7. 医療安全と医療者のとるべき態度 8. 医の倫理の基礎知識ーその考え方の変遷					
使用テキスト 千代豪昭 他編 学生のための医療概論 第4版 医学書院 参考書 小坂樹徳・田村京子編 現代医療論（新体系看護学全書） メヂカルフレンド社					
評価方法 課題により評価する。					

感染と免疫		単 位 数	I	時 間 数	30
I 年次 4 月開講～9 月終講					
担当講師 岩瀬忠行 田嶋亜紀子 進士ひとみ 千葉明生 渡邊洋平 嶋田和也 岡直美 石井 梓					
科目目標 1. 病原微生物が人体に感染した場合に及ぼす影響と感染予防について理解する 2. 生体がもつ免疫という特別な働きについて理解する					
講義内容	細菌学 1. 微生物と微生物学、細菌の性質 2. 感染源・感染経路からみた感染症 3. 感染症の予防と対策 4. 各論：グラム陰性菌 5. 各論：グラム陽性菌 6. 各論：その他の細菌、感染症の治療 7. 真菌・原虫による感染症 ウイルス学、免疫学 1. ウイルス総論、皮膚・胎児・新生児のウイルス感染症 2. 免疫とは液性免疫と細胞性免疫 3. 過敏症、移植免疫、免疫疾患 4. AIDS、白血病を生じるウイルス感染 5. 肝炎ウイルス、消化器系のウイルス感染症 6. 呼吸器系のウイルス感染症 7. 中枢神経系のウイルス感染症 8. ウイルス感染の予防と治療				
	使用テキスト 辻 明良 垣内史堂著：新体系看護学全書 微生物学・感染制御学 メヂカルフレンド社 参考図書 病気がみえる vol.6 免疫・膠原病・感染症 メディックメディア 疾病のなりたちと回復の促進 [4] 微生物学 医学書院				
評価方法 9 月終講試験（100 点満点）により評価する。					

疾病総論		単 位 数	I	時 間 数	30
I 年次 9 月開講～2 月終講					
担当講師 鹿 智恵 深澤 寧 西村優基 小林賢司 久保田星歩 大谷理了 五味澤一隆					
科目目標 人体組織の形態学のおよび機能的変化を理解し、疾患の概念を総合的に把握する さらに、それらの知識を看護実践にどう応用するかを学ぶ					
講義内容 1. 病理学・病因論 (鹿 智恵) 2. 細胞傷害・先天異常 (五味澤 一隆) 3. 循環障害・炎症 (小林 賢司) 4. 免疫・感染症 (小林 賢司) 5. 腫瘍総論 (五味澤 一隆) 6. 循環器系の疾患 (西村 優基) 7. 造血器系の疾患 (綿谷 太生) 8. 呼吸器系の疾患 (久保田 星歩) 9. 消化器系の疾患 (西村 優基) 10. 泌尿器系の疾患 (大谷 理了) 11. 生殖器系と乳腺の疾患 (綿谷 太生) 12. 内分泌系の疾患 (久保田 星歩) 13. 運動器系・皮膚の疾患 (大谷 理了) 14. 脳・神経系の疾患 (深澤 寧) 15. 感覚器の疾患・全身性疾患 (鹿 智恵) ※ 但し、若干順序や内容が異なることがある。					
使用テキスト 堤 寛著：クイックマスター病理学 第2版 サイオ出版 参考書 大橋健一他著：系統看護学講座 疾病のなりたちと回復の促進〔I〕病理学 医学書院					
評価方法 2 月終講試験（100 点満点）と出席状況を合せて総合的に評価する。					

臨床薬理学		単 位 数	I	時 間 数	30
I 年次 9 月開講～2 月終講					
担当講師 西 晴久					
科目目標 薬物に関する基礎知識、各薬物の薬理作用・副作用および薬物の使い方について理解する					
講義内容 I. 総論 1. 薬とはなにか（基本的性質，使用目的） 2. 薬理作用の基本，薬理作用発現機序 3. 薬物の体内動態（薬物動態学：吸収・分布・代謝・排泄） 4. 薬効に影響する因子，薬物相互作用，薬効の個人差 5. 薬の有害作用 6. 薬に関する法律，創薬と治験，ジェネリックとバイオシミラー II. 各論 1. 抗感染症薬：抗菌・抗真菌・抗ウイルス・抗寄生虫薬，感染症治療上の問題点 2. 抗がん薬：抗がん作用の機序と抗がん薬の種類 3. 免疫治療薬：免疫系の基礎知識，免疫抑制薬，免疫増強薬・予防薬 4. 抗アレルギー薬：抗ヒスタミン薬と抗アレルギー薬 5. 抗炎症薬：炎症とは，抗炎症薬，関節リウマチ薬，痛風・高尿酸血症治療薬 6. 末梢での神経活動に作用する薬物：神経系と情報伝達の基礎知識，自律神経（交感神経 / 副交感神経）作用薬，筋弛緩薬，局所麻酔薬 7. 中枢神経系に作用する薬物：中枢神経系の基礎，全身麻酔薬，催眠薬・抗不安薬，抗精神病薬，抗うつ薬・気分安定薬，パーキンソン薬症候群治療薬，抗てんかん薬，麻薬性鎮痛薬，偏頭痛治療薬 8. 循環器系に作用する薬物：降圧薬，狭心症治療薬，強心薬，心不全治療薬，抗不整脈薬，利尿薬，血液凝固系・線溶系，脂質異常，貧血，抗血液凝固 9. 呼吸器・消化器・生殖器・泌尿器系に作用する薬物：気管支喘息治療薬，鎮咳薬，消化性潰瘍治療薬，女性 / 男性生殖器に作用する薬物，泌尿器に作用する薬物 10. 物質代謝に作用する薬物：糖尿病治療薬，甲状腺疾患治療薬，視床下部・下垂体ホルモン製剤，骨粗鬆症治療薬，ビタミン 11. 皮膚科用薬・眼科用薬：皮膚と眼の構造，皮膚用および眼用の外用薬 12. 漢方薬：漢方医学の基礎知識，漢方薬の種類，有害作用，有効性のエビデンス 13. 救急の際に用いられる薬物，消毒薬：基礎知識，急性中毒への対処					
使用テキスト 系統看護学講座・専門基礎分野・薬理学・疾病のなりたちと回復の促進（3）（医学書院） 著者：吉岡 充弘，泉 剛，井関 健，横式 尚司，菅原 満					
評価方法 2 月終講試験（100 点満点）により評価する。					
学習上の注意 薬理学（基礎薬理学／臨床薬理学）は解剖学、生理学、及び生化学を含む総合的な学問分野です。したがって、おりに触れ、解剖生理学や生化学など前期の専門基礎分野の講義で用いられた教科書にも目を通すことが「薬」を理解するために必要です。					

生命の維持機能障害と治療				単 位 数	I	時 間 数	30
I 年次 9 月開講～11 月終講							
担当講師 本郷賢一 柏木雄介 村松弘康 田上 晋 鈴木一史 坪井伸夫 丸山之雄 上田裕之 保科斉生							
科目目標 主な疾患の病態生理、検査、診断、治療を理解する							
講義内容	【循環器系の疾患】 1) 主な症状 動悸 胸痛 不整脈 浮腫 血圧異常 チアノーゼ 呼吸困難 うっ血 倦怠感 失神 2) 代表的疾患の病態生理 (1) 弁膜症・心筋症 (2) 虚血性心疾患（心筋梗塞・狭心症） (3) 心不全（右心不全・左心不全） (4) 肺性心 (5) 動静脈系疾患 (6) 先天性疾患（心房中隔欠損症・心室中隔欠損症） 3) 主な検査 心電図 Holter 心電図 トレッドミル検査 心エコー検査 心臓カテーテル検査 血行動態モニタリング 冠動脈 CT 心臓 MRI 胸部 X 線検査 血液検査 など 4) 主な治療 薬物療法 経皮的冠動脈インターベンション（PCI） カテーテルアブレーション 経皮的大動脈弁置換術 ペースメーカー埋め込み術 安静療法 食事療法 酸素療法 手術療法 * 【呼吸器系の疾患】 1) 主な症状 喀痰 血痰 咯血 咳嗽 胸痛 呼吸困難 チアノーゼ 2) 代表的疾患の病態生理 (1) 感染による気道、肺の炎症 かぜ症候群 インフルエンザ 肺炎（マイコプラズマ・細菌性） 肺結核 (2) 気道疾患 気管支喘息 肺気腫 気管支拡張症 慢性閉塞性肺疾患（COPD） (3) 肺の腫瘍 肺がん (4) 胸膜疾患 自然気胸 (5) 過換気症候群 3) 主な検査 呼吸機能検査 喀痰検査 血液ガス分析 血液検査 気管支鏡 結核関連検査 胸腔穿刺 肺生検 胸部 X 線検査 など 4) 主な治療 酸素療法 肺理学療法 人工呼吸療法 薬物療法 放射線療法 手術療法 *						

生命の維持機能障害と治療

講義内容

【血液・造血器系の疾患】

- 1) 主な症状
貧血 出血傾向 白血球増加・減少 易感染 発熱 脾腫
- 2) 代表的疾患の病態生理
 - (1) 赤血球系疾患 鉄欠乏性貧血 再生不良性貧血 溶血性貧血 悪性貧血
 - (2) 白血球系疾患 白血病
 - (3) リンパ網内疾患 悪性リンパ腫
 - (4) 異常タンパク血症 多発性骨髄腫
 - (5) 出血性疾患
- 3) 主な検査
血液検査 骨髄穿刺 骨髄生検 リンパ節生検 など
- 4) 主な治療
化学療法 輸血療法 (GVHD) 造血幹細胞移植 遺伝子治療

【腎・泌尿器系の疾患】

- 1) 主な症状
尿の異常 排尿異常 浮腫 高血圧 血液・循環器系の異常 電解質異常 尿毒症
- 2) 代表的疾患の病態生理
 - (1) 糸球体腎炎・ネフローゼ症候群
 - (2) 腎不全 (急性腎不全・慢性腎不全)
 - (3) 尿路の疾患 (前立腺肥大・結石)
 - (4) 腎・泌尿器の腫瘍 (腎がん・前立腺がん)
- 3) 主な検査
尿検査 血液検査 腎機能検査 画像検査 (造影・CT・超音波・MRI)
経尿道的検査 内視鏡検査 など
- 4) 主な治療
安静療法 食事療法 薬物療法 透析療法 手術療法 * 腎移植

【感染症】

- 1) 代表的疾患の特徴と治療
 - (1) ウィルス性感染症
 - (2) 細菌感染症
 - (3) 真菌感染症
 - (4) 寄生虫感染症
- 2) 個人および集団の感染症予防対策

使用テキスト

系統看護学講座	専門分野	成人看護学 3	循環器	医学書院
系統看護学講座	専門分野	成人看護学 2	呼吸器	医学書院
系統看護学講座	専門分野	成人看護学 4	血液・造血器	医学書院
系統看護学講座	専門分野	成人看護学 8	腎・泌尿器	医学書院
系統看護学講座	専門分野	成人看護学 I I	アレルギー・膠原病・感染症	医学書院

評価方法

12 月終講試験 (100 点満点) により評価する。

留意事項

手術療法 * については「麻酔と手術療法」で学びます。

生体の調節機能障害と治療Ⅰ				単 位 数	Ⅰ	時 間 数	30
Ⅰ 年次 9 月開講～2 月終講							
担当講師 三村秀毅 及川恒一 的場圭一郎 光永真人 野口正朗 中野真範 作田健一 大橋謙之亮							
科目目標 主な疾患の病態生理、検査、診断、治療を理解する							
講義内容	【消化器系の疾患】 1) 主な症状 嚥下障害 嘔吐 腹痛（圧痛）吐血 下血 下痢 便秘 腹部膨満 食欲不振 腹水 黄疸 門脈圧亢進 肝性脳症 2) 代表的疾患の病態生理 (1) 上部消化管の疾患（食道がん 胃・十二指腸潰瘍 胃がん） (2) 下部消化管の疾患（潰瘍性大腸炎・イレウス・ヘルニア・ポリープ・結腸がん・直腸がん） (3) 肝臓・胆嚢の疾患（肝炎・肝硬変症・肝臓がん・胆石症・胆管がん） (4) 膵臓の疾患（膵炎・膵臓がん） 3) 主な検査 潜血検査 肝機能検査 腫瘍マーカー 消化管 X 線検査 経皮経肝胆道造影（PTC） 内視鏡的逆行性胆管膵管造影（ERCP） 内視鏡検査 組織生検 など 4) 主な治療 薬物療法 食事療法 インターフェロン療法 経皮経肝胆道ドレナージ（PTCD） 外胆汁瘻造設 イレウス管挿入 手術療法* など						
	【脳・神経系の疾患】 1) 主な症状 意識障害 高次機能障害 運動機能障害 感覚機能障害 痙攣 反射障害 頭蓋内圧亢進症状（頭痛・嘔吐・うっ血乳頭） 脳浮腫 2) 代表的疾患の病態生理 (1) 脳血管障害 クモ膜下出血 脳出血 脳梗塞 脳動脈瘤 (2) 脳腫瘍 (3) 脳神経変性・脱髄疾患 パーキンソン氏病 筋委縮性側索硬化症（ALS） 重症筋無力症 (4) 認知症 (5) 脳・神経系の感染症 脳炎 髄膜炎 3) 主な検査 神経学的検査 脳血管造影 CT・MRI・SPECT・PET 髄液検査（腰椎穿刺） 4) 主な治療 安静療法 薬物療法 理学療法 脳室ドレナージ 手術療法*						

生命の維持機能障害と治療 I

講義内容

【内分泌系の疾患】

- 1) 主な症状
体重変化（るい痩・肥満） 容貌変化 神経・筋症状 血圧異常
- 2) 代表的疾患の病態生理
 - (1) 視床下部・下垂体の疾患（巨人症、尿崩症）
 - (2) 甲状腺疾患（甲状腺機能亢進症、低下症）
 - (3) 副腎疾患（副腎皮質機能亢進症 - クッシング症候群、低下症 - アジソン病）
- 3) 主な検査
血液検査（ホルモン濃度）画像検査 など
- 4) 主な治療
薬物療法 安静療法 手術療法 *

【代謝系の疾患】

- 1) 主な症状
高血糖（口渇・多飲・多尿） 低血糖 耐糖能障害 糖尿病合併症
脂質異常 尿酸代謝異常
- 2) 代表的疾患の病態生理
 - (1) 糖尿病
 - Ⅰ型 Ⅱ型 合併症 二次性糖尿病
 - (2) 高脂血症・高尿酸血症
 - (3) メタボリックシンドローム
- 3) 主な検査
血液検査（代謝産物とその異常）インスリン分泌能評価 尿検査 など
- 4) 主な治療
食事療法 運動療法 薬物療法

【膠原病・アレルギー疾患】

- 1) 主な症状
関節痛・関節炎 レイノー現象 皮膚・粘膜症状 発熱 筋力低下 アレルギー症状
- 2) 代表的疾患の病態生理
 - (1) 関節リウマチ
 - (2) 全身性エリテマトーデス・皮膚筋炎・多発性硬化症
 - (3) シェーグレン症候群・ベーチェット病
- 3) 主な検査
血液検査（血清・免疫学的検査）病理組織学的検査 など
- 4) 主な治療
薬物療法（副腎皮質ステロイド他） 理学療法

使用テキスト

系統看護学講座	専門分野	成人看護学 5	消化器	医学書院
系統看護学講座	専門分野	成人看護学 6	内分泌・代謝	医学書院
系統看護学講座	専門分野	成人看護学 7	脳・神経	医学書院
系統看護学講座	専門分野	成人看護学 11	アレルギー・膠原病・感染症	医学書院

評価方法

2 月終講試験（100 点満点）により評価する。

留意事項

手術療法 * については「麻酔と手術療法」で学びます。

生体の調節機能障害と治療 2		単 位 数	1	時 間 数	15
Ⅰ 年次 Ⅱ 2 月開講～ 2 月終講					
担当講師 林 勝彦 櫻井結華 長岡真人 鄭 雅誠 林 孝彰 加畑好章 松崎大幸					
科目目標 主な疾患の病態生理・検査・診断・治療を理解する					
講義内容	【感覚器系の疾患：皮膚】 - 主な症状 発疹、掻痒、皮膚の老化（老人性乾皮症）など - 代表的疾患の病態生理 1) 湿疹（皮膚炎）、アトピー性皮膚炎、接触皮膚炎、 2) 蕁麻疹、薬疹 3) 熱傷 4) 褥瘡 5) 皮膚がん（悪性黒色腫） 6) 感染症（白癬、蜂窩織炎、単純ヘルペス、帯状疱疹、疥癬） - 主な検査 免疫・アレルギー検査（パッチテスト）、 病原微生物の検査法（細菌・真菌・ウイルス） - 主な治療 薬物療法、手術療法（植皮術、デブリドマン）				
	【感覚器系の疾患：耳・鼻・咽喉】 - 症状とその病態生理 1) 耳にあらわれる症状とその病態生理 難聴 耳鳴 耳閉感 眩暈など 2) 鼻にあらわれる症状とその病態生理 鼻閉 嗅覚障害 鼻漏 鼻出血など 3) 咽頭・喉頭にあらわれる症状とその病態生理 咽頭痛 呼吸障害 嚥下障害 音声・言語障害など - 代表的疾患の病態生理 1) 耳疾患 外耳疾患、中耳疾患、内耳・後迷路疾患 （メニエール病、感音性難聴、突発性難聴） 2) 鼻疾患 鼻腔疾患（アレルギー性鼻炎）、 副鼻腔疾患（副鼻腔炎、嗅覚障害） 3) 咽喉頭疾患 咽頭疾患（扁桃腺炎、咽頭がん）、喉頭疾患（喉頭がん） - 主な検査 聴力検査、ウェーバー試験、平衡機能検査、嚥下機能検査 - 主な治療 薬物療法、鼓室形成術、鼻腔内視鏡手術（ESS） 喉頭全摘術、永久気管孔、喉頭微細手術、扁桃摘出術				

生体の調節機能障害と治療 2

講義内容	【歯・口腔系の疾患】				
	1. 症状とその病態生理 1) 口腔症状とその病態生理 歯痛・口腔粘膜の痛み・腫脹・局所的な出血・歯の欠損 2. 代表的疾患の病態生理と検査・治療等 1) 歯の異常と疾患 齲蝕疾患および歯髓疾患 2) 口腔領域の炎症 歯肉炎・歯周炎・口底炎 3) 口腔ケア 口腔ケアの基本、補綴・義歯治療後の口腔ケア 周術期口腔機能管理				
	【感覚器系の疾患：眼】				
	1. 症状とその病態生理 視力障害、視野異常、充血、流涙、眼脂、羞明など 2. 代表的疾患の病態生理 1) 結膜・角膜の疾患 流行性角結膜炎など 2) 水晶体の疾患 老人性白内障、先天性白内障 3) 緑内障 原発閉隅角緑内障、正常眼圧緑内障（緑内障手術） 4) 網膜の疾患 網膜剥離（網膜復位術）、 網膜症（糖尿病網膜症、高血圧性網膜症）、加齢黄斑変性 3. 主な検査 眼底検査 眼圧検査 4. 主な治療 薬物療法（点眼）、網膜復位術、白内障手術、緑内障手術				
使用テキスト					
系統看護学講座	専門分野	成人看護学Ⅰ 2	皮膚	医学書院	
系統看護学講座	専門分野	成人看護学Ⅰ 3	眼	医学書院	
系統看護学講座	専門分野	成人看護学Ⅰ 4	耳鼻咽喉	医学書院	
系統看護学講座	専門分野	成人看護学Ⅰ 5	歯・口腔	医学書院	
評価方法					
2 月終講試験（100 点満点）により評価する。					
留意事項					
手術療法＊については「麻酔と手術療法」で学びます。					

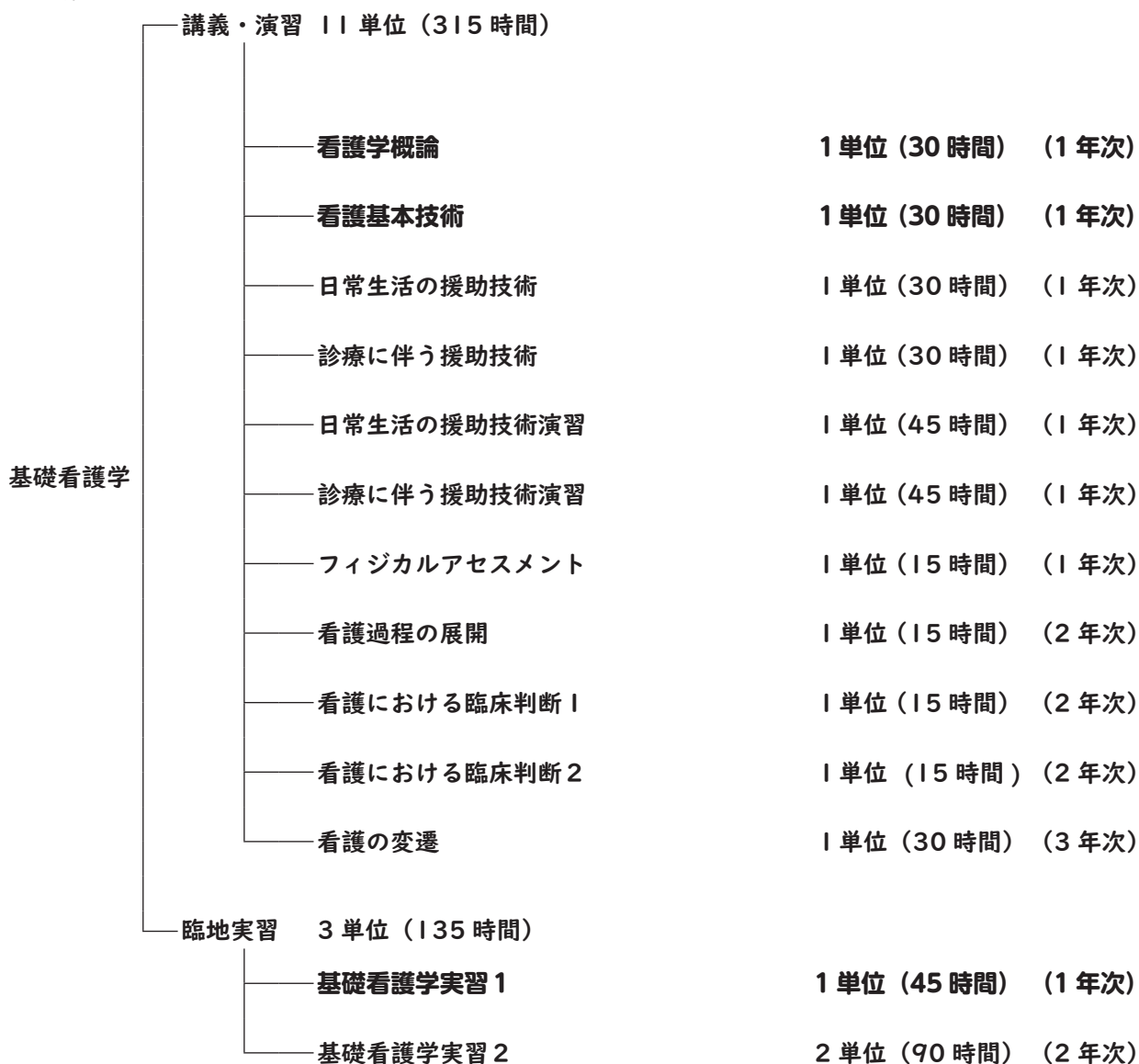
生活科学		単 位 数	1	時 間 数	15
1 年次 9 月開講～12 月終講					
担当講師 鈴木陽子					
科目目標 日常生活の様々な事象を通して住生活を理解する。					
講義内容 生活科学とは、身体と精神にかかわる諸問題を人間生活という視点から捉え直す実践的な総合科学です。本講義では、「住む」ことに関する行為や環境を学び、日常生活の意義について考えます。 「住む」ことは、人と人、人とのもの・こと、人と空間、人と環境など、様々な関わりの中で成り立っています。人はそうした関わりから、普段の生活に何が必要かに気づき、考え、地道に実践することで、社会の中で多様な価値観と向き合い、どう生きていくかという「生きる力」を育んでいきます。 みな生活者ですから、生活者としての視点を養うことは万人に求められるものですが、特に看護者には、人が健康的に生きていくための住生活のあり方を理解した上で、住環境に敏感な身体感覚を体得し、今後ますます多様化する個々の生活に対して、自ら思考し行動する能力が不可欠であるといえます。 本講義は、以下のテーマで進めます。 1) 住生活・住環境とは 2) 人と人 3) 人とモノ・コト 4) 人と空間 5) 人と環境 6) 光の環境 7) 熱と湿気の環境 8) 空気の環境					
使用テキスト First Stage シリーズ 精選住居学 実教出版					
評価方法 課題により評価する。					

基礎看護学

1. 目的 人間のライフサイクルにおける健康の意義、保健・医療・福祉における看護の役割について理解し、看護実践の基礎となる知識・技術・態度を学ぶ。

2. 目標
- 1) 看護の対象である人間を理解し、保健・医療・福祉における看護の役割を理解する。
 - 2) 看護の歴史の変遷を理解し、専門職業人としての自覚を高める。
 - 3) 看護実践の基礎となる知識・技術・態度を習得する。
 - 4) 物事を科学的、論理的に見つめる考え方を養う。
 - 5) 対象に応じた援助技術を習得する。
 - 6) 対象に応じた看護過程の必要性を理解できる。
 - 7) 看護における臨床判断のプロセスを理解できる。

3. 構成



看護学概論				単 位 数	I	時 間 数	30
I 年次 4 月開講～9 月終講							
担当講師 桶土井清美							
科目目標 看護と看護に関わる多様な概念について理解を深めつつ、看護の目的、対象、方法に関する知識や態度とこれからの看護の課題について学び、看護基礎教育課程全体の学習に発展させる礎とする							
回数	学習 形態	学習目標		学習内容			
1・2	講義 GW	看護とは何かについて学ぶ		看護の概念 看護の考え方の変遷 看護の定義			
3～5	講義	看護の目的と機能を理解する		看護の目的と機能 看護活動の場			
6～8	講義 GW	看護の対象について理解を深める		看護の対象 看護の対象である人間とは 人間の成長と発達 発達課題 看護の対象としての家族・集団・地域			
9・10	講義 GW	健康とは何かを学ぶ 健康水準向上のための保健医療活動 を理解する		健康の概念 健康とは何か 健康に影響する要因 健康の段階と看護 セルフケアとプライマリーヘルスケア			
11	講義	看護の方法について理解する		看護実践の方法 看護実践の特性 看護実践の方法としての看護過程			
12・13	講義	専門職としての看護職の教育及び キャリア開発の必要性について学 ぶ		専門職としての看護 看護職への期待 看護職の教育制度 看護職者の教育とキャリア開発			
14・15	講義 GW	看護の提供者としての責任と期待 される行動について理解する		看護の提供者としての責任と行動 倫理とは 医療と倫理 職業倫理としての看護倫理 看護職の倫理綱領			
使用テキスト 茂野香おる 編：系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔I〕 看護学概論 医学書院 野嶋佐由美 編：看護学の概念と理論 日本看護協会出版会 フローレンス・ナイチンゲール 著 湯楨ます 他訳：看護覚え書 改訳第7版 現代社 ヴァージニア・ヘンダーソン 著 湯楨ます・小玉香津子訳：看護の基本となるもの 日本看護協会出版会							
参考図書 湯楨ます 監修 薄井坦子 他 訳：ナイチンゲール著作集 第一巻～第三巻 現代社 時実利彦 著：人間であること 岩波新書							
評価方法 出席、レポート提出及び内容、筆記試験で評価する							
留意事項 学習内容をもとに使用テキスト等で予習をし授業に臨みましょう。							

看護基本技術		単 位 数	I	時 間 数	30
I 年次 4 月開講～7 月終講					
担当講師 佐藤千恵子 伊藤美鈴 平田依理					
科目目標 1. 看護実践のあらゆる場面に共通する基本的な看護技術を理解する 2. 看護活動を安全・安楽に行うための知識・技術を理解する 3. 対象のヘルスアセスメントができるための基礎的能力を養う					
回数	学習 形態	学習目標	学習内容		
I	講義	看護における技術の意味について考えることができる 看護場面に共通する基本的技術の意味について理解できる	1. 看護技術の意義 2. 看護の専門性と看護技術 3. 看護実践の構成 4. 看護技術における倫理		
2～4	講義	看護における安全・安楽の意義と重要性について理解できる 感染予防に必要な知識、技術について理解できる	1. 安全・安楽の意義 2. 安全・安楽を阻害する要因 3. 安全を守る技術 4. 感染と感染予防策		
5・6	講義	コミュニケーションの基礎的知識が理解できる 看護におけるコミュニケーションの意義について理解できる	1. コミュニケーションとは 2. 看護とコミュニケーション 3. 医療における信頼関係とコミュニケーション		
7～9	講義 グループ ワーク	看護における観察の意義、目的について理解できる 看護活動に必要な観察内容が理解できる 観察の方法について理解できる	1. 観察の意義 2. 看護における観察の目的 3. 観察の方法と手段 4. 看護のための観察の思考過程 5. 効果的な観察を行うための留意点 6. 観察の視点と内容		
10・11	講義	看護における記録・報告の意義、目的について理解できる	1. 看護における記録の意義 2. 看護記録の構成要素と形態 3. 記録の原則と留意事項 4. 報告の留意事項 5. 看護記録及び診療情報の取り扱い		
12～15	講義	バイタルサインの観察の意義と重要性について理解できる バイタルサインを観察するための援助方法について理解できる	1. バイタルサインとは 2. バイタルサイン測定の意義 3. 呼吸 4. 循環 5. 体温 6. バイタルサインの記録		
使用テキスト 深井喜代子 他：新体系看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技術 I メヂカルフレンド社					
評価方法 7 月終講試験（100 点満点）により評価する。					

日常生活の援助技術				単 位 数	I	時 間 数	30
I 年次 4 月開講～9 月終講							
担当講師 平田依理 初原由美子 田原裕美子 門脇玲子 中島暁美							
科目目標 1. 日常生活を整えるための援助の必要性について理解する 2. 対象が安全に安楽に日常生活を送るための看護の役割について理解する 3. 日常生活の援助技術について理解する							
回数	学習 形態	学習目標			学習内容		
1～4	講義	活動と休息の意義と看護の役割を学び、援助の必要性とその方法が理解できる 安楽な体位への援助の必要性、体位変換の方法が理解できる ボディメカニクスについて理解できる 移動・移送の意義と方法が理解できる。			活動と運動の意義 体位の種類と身体への影響 ボディメカニクス 活動と運動の援助 休息と睡眠の意義 睡眠の生理 睡眠の援助		
5～7	講義	人間をとりまく環境について学び、望ましい生活環境が理解できる 生活環境調整の必要性と方法が理解できる			人間を取り巻く環境 健康と生活環境 環境調整の意義 病室と病床の環境調整		
8～11	講義	清潔の意義と清潔における看護の役割を学び、援助の必要性とその方法が理解できる。 衣生活の意義と清潔における看護の役割を学び、援助の必要性とその方法が理解できる			清潔の意義 皮膚・粘膜の生理 清潔の援助 衣服の意義 衣生活の援助		
12・13	講義	食事の意義と食事における看護の役割を学び、援助の必要性とその方法が理解できる			食事の意義 食欲の生理 食事の援助		
14・15	講義	排泄の意義と排泄における看護の役割を学び、援助の必要性とその方法が理解できる			排泄の意義 排泄の生理 排泄の援助		
使用テキスト 深井 喜代子 他：新体系看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ メヂカルフレンド社 深井 喜代子 他：新体系看護学全書 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ メヂカルフレンド社 必要な資料は、随時配布します。							
評価方法 9 月終講試験（100 点満点）により評価する。							

診療に伴う援助技術				単 位 数	I	時 間 数	30
I 年次 9 月開講～12 月終講							
担当講師 山田久枝 初原由美子 田邊ひとみ 田原裕美子 門脇玲子							
科目目標 1. 診察時における看護の役割について理解する 2. 診療に伴う援助技術を理解し、対象に合わせた援助の必要性について理解できる							
回数	学習 形態	学習目標		学習内容			
1	講義	診療場面における看護の役割が理解できる 診察場面における看護の役割が理解できる		診療場面における看護と看護の役割 診察時の看護			
2	講義	検査を受ける対象の援助が理解できる		検査の意義と目的 検査の種類 検体の種類と取り扱い 検査を受ける対象への援助			
3	講義	吸引を受ける対象の援助が理解できる 穿刺を受ける対象の援助が理解できる		吸引法の種類と援助 穿刺法の種類と援助			
4	講義	電法の効果とその方法が理解できる		電法とは 温電法の効果と方法 冷電法の効果と方法			
5	講義	酸素吸入療法を受ける対象の援助が理解できる		酸素吸入療法の目的 酸素吸入療法の方法と援助			
6	講義	排尿障害のある対象の援助が理解できる		排尿障害とは 排尿に関する処置・方法 導尿実施への援助			
7	講義	排便障害のある対象の援助が理解できる		排便障害とは 排便に関する処置・方法 浣腸実施への援助			
8	講義	救急時の看護の役割及び処置・方法が理解できる		救急蘇生とは 一次救命処置の方法 救急時の看護師の役割			
9	講義	食事療法を受ける対象の援助が理解できる		食事療法とは 食事療法を必要とする対象の特徴 食事療法を受ける対象への援助			
10～ 13	講義	薬物療法を受ける対象の援助が理解できる		薬物療法の意義と目的 薬物療法に携わる職種とその役割 薬物療法における看護師の役割 薬物の吸収経路と排泄機序 薬物療法の種類 与薬時の援助			
14	講義	輸液療法を受ける対象の援助が理解できる		輸液療法の意義と目的 輸液療法を受ける対象への援助			
15	講義	輸血療法を受ける対象の援助が理解できる		輸血療法の意義と目的 輸血療法を受ける対象への援助			
使用テキスト 深井 喜代子 他：新体系看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ メヂカルフレンド社 深井 喜代子 他：新体系看護学全書 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ メヂカルフレンド社							
評価方法 12 月終講試験（100 点満点）により評価する。							

日常生活の援助技術演習		単 位 数	I	時 間 数	45
I 年次 5 月開講～9 月終講					
担当講師 千葉早希子 他					
科目目標 日常生活の援助技術を習得する。					
回数	学習目標		学習内容		
1～4	1. 基本体位の特徴を理解し、安楽な体位への援助ができる 2. ボディメカニクスを活用した移動・体位変換ができる 3. 安全・安楽な移送ができる		1. 安楽な体位の援助 2. 移動・体位変換 3. 移乗 4. 車椅子・ストレッチャー・担架を用いた移送		
5～8	1. 対象にとって寝心地良く、崩れにくいベッドの作成ができる 2. シーツ交換を必要とする患者の観察ができる 3. 患者の安全を配慮し、苦痛を与えずにシーツを交換することができる 4. 病床環境を整えることができる		1. クローズドベッド、オープンベッドの作成と崩し方 2. 臥床患者のシーツ交換 3. 環境整備		
9～17	1. 安全・安楽に配慮し、対象に応じた清潔の援助ができる		1. 臥床患者のケリーパッドを用いた洗髪 2. 臥床患者の全身清拭と寝衣交換 3. 臥床患者の歯ブラシを用いた口腔ケア 4. 臥床患者の足浴 5. 整容		
18～21	1. 安全・安楽に配慮し、バイタルサインが正確に測定できる		1. 体温・脈拍・呼吸測定 2. バイタルサイン測定		
22・23	1. 対象に応じた食事の援助ができる。		1. 臥床患者の食事の援助		
使用テキスト 深井喜代子他：新体系看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ メヂカルフレンド社 深井喜代子他：新体系看護学全書 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ メヂカルフレンド社 事前・事後学習教材 「看護基本技術」「日常生活の援助技術」で使用したノートや資料を参考にする。 図書館にある参考図書・DVD・e-ラーニング（ナースングスキル・ビジュランクラウド）を活用する。					
評価方法 9 月実技試験（100 点満点）により評価する。					
演習時の留意点 1) 事前学習をして臨む 2) 必要物品を準備し、身だしなみを整えて臨む 3) デモンストレーションでは、教員の動きや、対象への配慮をどのように行っているかを注意深く見て学ぶ 4) 適切な技術を身につけられるよう不明点や疑問点を教員に確認する 5) 看護師役、患者役を通して気づいた点を互いに意見交換する 6) 事後学習及び自己学習に励み、各単元の技術を習得したうえで次回の演習に臨む					

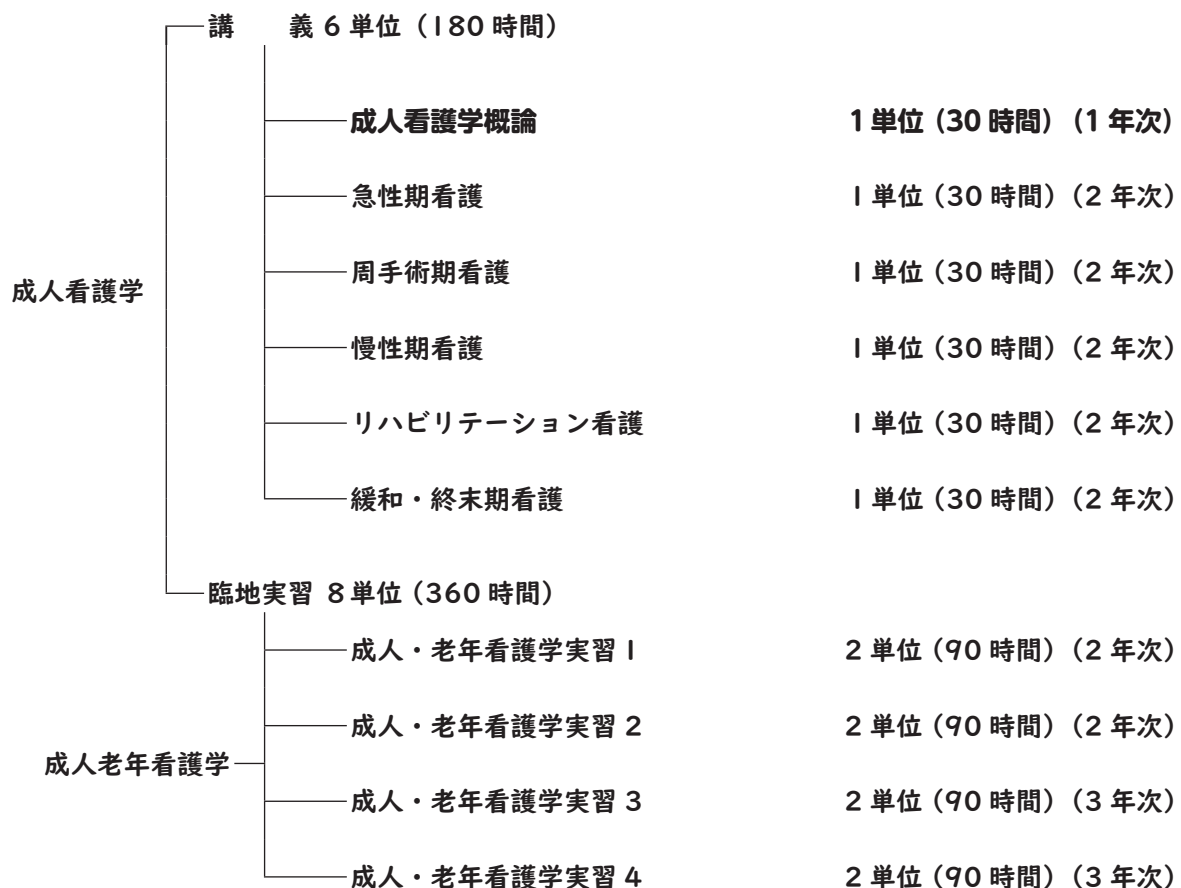
診療に伴う援助技術演習		単 位 数	I	時 間 数	45
I 年次 10 月開講～ 2 月終講					
担当講師 平田依理 他					
科目目標 診療に伴う援助技術を習得する。					
回数	学習目標		学習内容		
1・2	1. 正しい方法で手洗いができる 2. 原理原則をふまえ無菌操作ができる 3. 個人防護用具の取り扱いができる 4. 感染性廃棄物の処理方法がわかる		1. 衛生的手洗い 2. 個人防護用具の取り扱い 3. 無菌操作・滅菌物の取り扱い 4. 感染性廃棄物の処理		
3・4	1. 冷罨法を適切に実施できる 2. 温罨法を適切に実施できる		1. 氷枕・氷嚢の作成と貼用 2. 湯たんぽの作成と貼用		
5・6	1. 酸素吸入を効果的に実施できる		1. 酸素ボンベの組み立て 2. 酸素吸入療法		
7～11	1. 床上排泄の援助を適切に実施できる 2. 導尿を適切に実施できる 3. 浣腸を適切に実施できる		1. 便器を用いた床上排泄への援助 2. 尿器を用いた床上排泄への援助 3. 導尿（一時的導尿・膀胱留置カテーテル） 4. 浣腸（グリセリン浣腸）		
12・13	1. 心肺蘇生法を理解し実施できる 2. 包帯法の意義を理解し、包帯の基本的な巻き方を用いて対象に巻ける		1. 心肺蘇生法 2. 包帯法		
14・15	1. 身体測定（慎重・体重・腹囲測定）ができる。 2. 尿検査ができる。 3. 静脈血採血ができる。		1. 身長・体重・腹囲の測定 2. 尿検査 （肉眼法・試験紙法・屈折計による尿比重測定） 3. シミュレータによる静脈血採血		
16～23	1. 指示を正確に理解し、安全・安楽に経口与薬ができる。 2. 指示を正確に理解し、安全・安楽に筋肉内注射ができる。 3. 指示を正確に理解し、安全・安楽に点滴静脈内注射ができる。 4. 指示を正確に理解し、安全・安楽に直腸内与薬・点眼ができる。 5. 吸入、塗布・塗擦の方法と援助がわかる。		1. 経口与薬法 2. 筋肉内注射法 3. 点滴静脈内注射法 4. その他の与薬法 直腸内与薬法、点眼法、吸入法、塗布・塗擦法		
使用テキスト 深井 喜代子 他：新体系看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ メヂカルフレンド社 深井 喜代子 他：新体系看護学全書 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ メヂカルフレンド社 事前・事後学習資料 「看護基本技術」「日常生活の援助技術」「診療に伴う援助技術」で使用したノートや資料を参考にする。 図書館にある参考図書・DVD・ビデオ、e-ラーニング（ナースングスキル・ビジュランクラウド）を活用する。					
評価方法 2 月実技試験（100 点満点）により評価する。					
演習時の留意点 1) 事前学習をして臨む。 2) 必要物品の準備、身だしなみを整えて臨む 3) デモンストレーションでは、教員の動きや、対象への配慮をどのように行っているかを注意深く見て学ぶ 4) 適切な技術を身につけられるよう不明点や疑問点を教員に確認する 5) 看護師役、患者役を通して気づいた点を互いに意見交換する 6) 事後学習及び自己学習に励み、各単元の技術を習得したうえで次の演習に臨む					

フィジカルアセスメント				単 位 数	1	時 間 数	15
Ⅰ 年次 Ⅱ 月開講～ Ⅱ 月終講							
担当講師 松澤亜希子 佐藤千恵子 平田依理 初原由美子 他							
科目目標 Ⅰ. フィジカルアセスメントの技術を学ぶ Ⅱ. アセスメントの方法、身体検査の技術とその診査技術の意味を学ぶ							
回数	学習 形態	学習目標	学習内容				
Ⅰ	講義	看護におけるフィジカルア セスメントの意義を理解する フィジカル・イグザミネーショ ンの技術について理解する	Ⅰ. 看護におけるフィジカルアセスメント Ⅰ) フィジカルアセスメントの意義 Ⅱ. フィジカルアセスメントの基本原則 Ⅲ. フィジカルアセスメントの基本技術 Ⅰ) 5つの基本技術 Ⅱ) フィジカルアセスメントの進め方 Ⅳ. フィジカルアセスメントの実際 Ⅰ) 健康歴の聴取 Ⅱ) 一般状態のアセスメント Ⅲ) 系統別アセスメント				
2～8	演習	問診・視診・触診・打診・ 聴診によるフィジカルアセス メントの技術を学ぶ	Ⅰ. 皮膚・爪・頭頸部のフィジカルアセスメント Ⅱ. 鼻・口腔・頸部のフィジカルアセスメント Ⅲ. 眼・耳のフィジカルアセスメント Ⅳ. 胸部（呼吸）・心血管系のフィジカルアセスメント Ⅴ. 腹部、乳房、腋窩のフィジカルアセスメント Ⅵ. 関節・筋肉のフィジカルアセスメント Ⅶ. 神経系のフィジカルアセスメント				
使用テキスト 小野田千枝子：実践 フィジカル・アセスメント 金原出版 必要な資料は、随時配布します							
評価方法 Ⅱ 月筆記試験と課題を合算し 100 点満点で評価する							

成人看護学

1. 目的 成人期にある対象の健康の保持増進および健康障害における健康上の諸問題を総合的に把握し、看護を实践できる基礎的能力を養う。
2. 目標
 - 1) 成人期にある対象を身体的・精神的・社会的側面から総合的に理解する。
 - 2) 成人期の対象の看護に有用な主な理論や考え方を理解する。
 - 3) 成人期の生活過程を理解し、健康の保持増進、疾病予防のための援助を理解する。
 - 4) 急激に心身の変化をきたす対象に対して、生体の侵襲を最小にし、生命維持に必要な看護を理解する。
 - 5) 周手術期の対象に対して、手術による生体の侵襲を最小にし、健康回復のために必要な看護を理解する。
 - 6) 生涯にわたりセルフケアを必要とする対象に対して、社会生活を継続していくための看護を理解する。
 - 7) 機能障害をもつ対象に対して、リハビリテーションの意義と円滑な社会復帰をめざした看護を理解する。
 - 8) 緩和・終末期ケアを必要とする対象に対し、心身の苦痛を緩和し、残された日々を有意義に過ごすための看護を理解する。
 - 9) 成人期にある対象の特徴を理解し、健康の状態に応じた看護の实践ができる。

3. 構成



成人看護学概論				単 位 数	I	時 間 数	30
I 年次 9 月～2 月開講							
担当講師 松澤亜希子 伊藤美鈴							
科目目標 1. 成人看護の対象と特性を学び、成人看護の意義・役割を理解する 2. 成人保健の動向について学び、成人期の健康保持増進の対策と看護の意義・役割を理解する 3. 成人看護に用いられる主な看護理論を理解する							
回数	学習 形態	学習目標		学習内容			
1～3	講義	成人看護学の理念と枠組みが理解できる 成人期にある対象の成長と発達が理解できる		1. 成人看護学の枠組み 1) 健康レベルによる枠組みの概要 2. ライフサイクルからみた成人期の特性 1) 身体・生理的側面 2) 知的・認知的側面 3) 心理・社会的側面 3. 成人期の成長・発達過程と発達課題 1) 成人期の区分（青年期・壮年期・向老期） 2) エリクソン・ハヴィガースト・レビンソンの理論 4. 成人各期の特徴および健康問題			
4・5	講義	成人期の生活と健康、健康破綻と看護が理解できる		1. 成人の生活と健康問題 1) 生活習慣に関連する健康問題 2) 職業に関連する健康問題 3) ストレスに関連する健康問題			
6～8	講義 グループ ワーク	成人保健の意義と動向が理解できる 成人期の健康保持増進のための看護の意義と役割が理解できる		1. 成人保健活動の意義 1) 成人の保健行動のとらえ方 2) 成人保健を支える環境づくりの促進 3) 主体的な保健行動を促進する支援 4) 成人保健活動における看護の役割 2. 健康指標にみる成人の特徴 1) 人口静態統計からみた特徴 (1) 日本の総人口 (2) 年齢別人口 (3) 労働力人口 2) 人口動態統計からみた特徴 (1) 出生・死亡の動向 3) 現代家族の形態と機能の変化 3. 成人の保健対策の動向 (ヘルスプロモーション活動の実際) 1) 21 世紀における国民健康づくり運動 (健康日本 21) 2) 健康増進法			

成人看護学概論

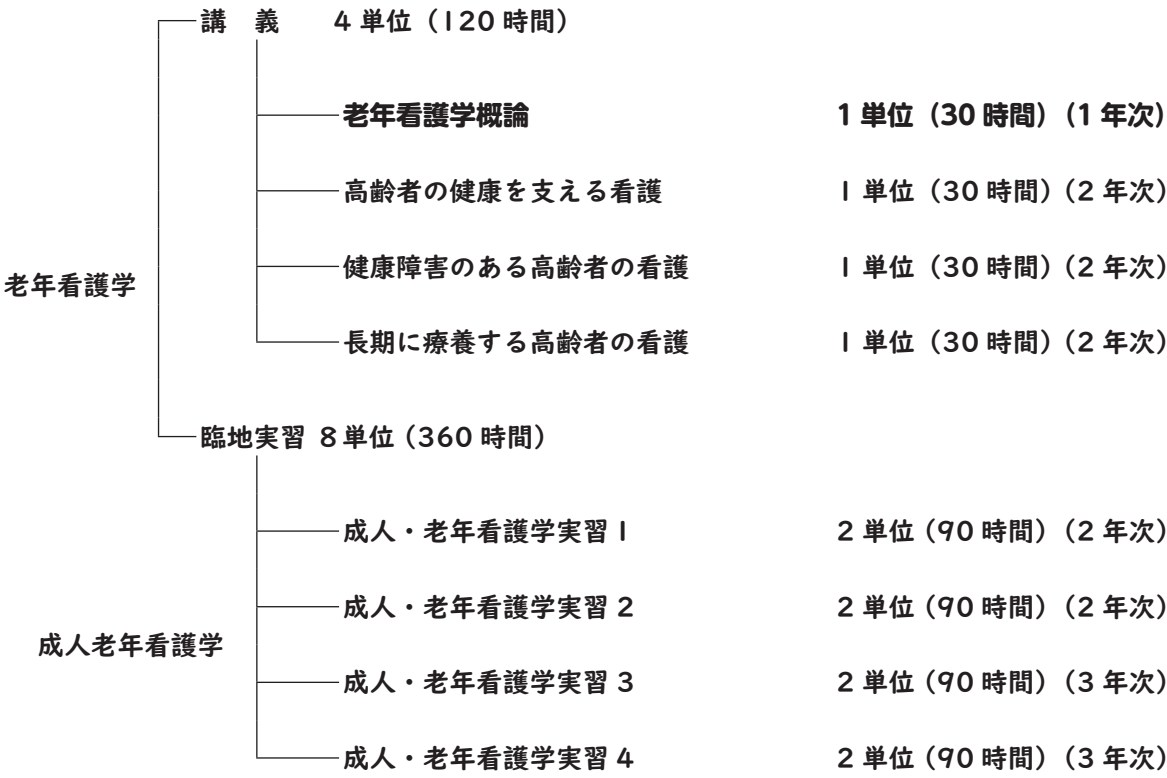
9～11	講義	成人期の保健対策の概要が理解できる	1. 成人の社会生活の動向 1) 婚姻・離婚 2) 所得 3) 成人の生活時間 4) 悩みやストレス、こころの状況 5) 食習慣・運動習慣の状況 6) 健診の受診状況 2. 成人期の保健対策の実際と看護 1) がん予防 2) 栄養・食生活 3) 身体活動・運動 4) 休養・こころの健康 5) 飲酒 6) 喫煙 7) 口腔の健康
12～15	講義	成人看護に用いられる主な看護理論が理解できる	1. 成人看護に用いられる主な理論 1) 危機 2) 適応 3) 病みの軌跡 4) セルフケア 5) 自己効力 6) アドヒアランス
使用テキスト 小松浩子 他：系統看護学 講座専門分野 成人看護学総論 厚生労働統計協会：国民衛生の動向 2025 / 2026			
評価方法 2 月終講試験（100 点満点）により評価する。			

老年看護学

1. 目的 老年期にある対象の特徴を理解し、加齢と健康障害の程度に応じた高齢者とその家族および支える人々の看護について学ぶ。

2. 目標
- 1) 生活する高齢者を総合的にとらえ、老年看護の対象を理解する。
 - 2) 社会構造の変化・高齢化に伴う高齢者の保健・医療・福祉の動向と課題を理解する。
 - 3) 加齢に伴う高齢者の健康状態の理解を深め、老年看護の機能と役割を理解する。
 - 4) 加齢・健康障害の程度に応じた高齢者と家族に必要な看護を理解する。
 - 5) 老年看護に必要な基本的な看護技術を習得する。
 - 6) 老年期にある対象の特徴と健康障害による問題を理解し、対象に応じた援助ができる。

3. 構成



老年看護学概論				単 位 数	I	時 間 数	30
I 年次 9 月開講～2 月終講							
担当講師 齊藤真梨恵 大滝佐織 桶土井清美							
科目目標 1. 生活者としての高齢者を総合的にとらえ、老年看護の対象を理解する 2. 社会構造の変化・高齢化に伴う高齢者の保健・医療・福祉の動向と課題を理解する 3. 老年看護の機能と役割を理解する							
回数	学習 形態	学習目標	学習内容				
1～2	講義	老年期を生きる人々の特徴を理解する	1. 老年期の発達と変化 1) ライフサイクルからみた高齢者 (1) 老年期の定義 (2) 加齢と老化 (3) 老年期の発達課題 2) 人口学的指標からみた高齢者 (1) 高齢者人口の推移 (2) 前期・後期高齢者人口の年代別構成 (3) 性差・地域格差 2. 加齢への適応 1) 高齢者にとっての健康と自立 2) サクセスフルエイジング 3) ノーマライゼーション 4) スピリチュアリティ 3. 高齢者のいる家族の理解 1) 家族構成とニーズの変化 2) 高齢者のいる家族の発達課題 3) 家族の機能の変化				
3	講義	老年期を生きる人々の生活を理解する	4. 高齢者の生活 1) その人らしい生活の継続 (1) 高齢者の人生と経験の多様性 (2) 高齢者の生活史 (3) 生活のリズムと生活習慣				
4～7	講義	老年期を生きる人々の健康を理解する	5. 老年期を生きる人々の健康 1) 身体機能の変化 2) 認知機能の変化 3) 心理・社会的機能の変化と健康への影響 (1) 余暇活動と生きがい・生活の満足感 (2) 住宅と環境 (3) 就労・雇用、収入・生計 4) 高齢者の健康と疾病 (1) 高齢者の健康の特徴 (2) 高齢者の健康障害の特徴				
	演習		6. 高齢者の擬似体験				

老年看護学概論

8	講義	高齢者を取りまく 保健・医療・福祉の動向 と対策を理解する	1. 高齢者を取りまく社会の理解 1) 健康指標からみた高齢者 (1) 高齢者の健康 平均寿命・疾病構造と有病率 有訴率・受療率 (2) 高齢者の死亡率・死因 2) 健康づくりの推進
9～11	講義	高齢者を取りまく ソーシャルサポート システムを理解する	2. 高齢者の保健・医療・福祉の変遷と動向 1) 高齢者の社会保障制度の変遷 2) 高齢者の暮らしを支える法律・制度 3) 高齢者のソーシャルサポートシステム 4) 介護保険制度と高齢者の生活 5) 高齢者の保健活動の意義
12・13	講義	高齢者各期の看護の 特徴を理解する	3. 高齢者の保健・医療・福祉と看護の役割 1) 在宅で療養する高齢者の看護 2) 長期療養を主とする施設や病院での看護の役割 3) 早期回復を主とする治療の場での看護の役割 4) 高齢者と家族
14	講義	高齢者の人生の質の 保証と倫理的課題を 理解する	4. 老年看護における倫理的課題 1) 権利擁護・自己決定権 2) 虐待と拘束 3) 成年後見制度
15	講義	老年看護の原理と目標を理解 する	5. 老年看護の原理・目標・特性 1) 高齢者への看護を検討する上での4つの要素 2) 老年看護の特徴 3) 老年看護に用いられる主な理論 4) 老年看護に携わる責務

使用テキスト

北川公子他：系統看護学講座 専門分野 老年看護学 医学書院
厚生統計協会：国民衛生の動向 2025 / 2026

授業を受ける際の留意点

- ・身近にいる高齢者に、生きてきた時代のこと、ライフヒストリー、身体と生活の変化などを積極的に聞くように努め、高齢者の理解を深めましょう。
- ・医療・保健・福祉を取りまく社会の動向、介護保険、医療保険、年金などの変化はめざましいので情報に関心を持つように心がけましょう。

評価方法

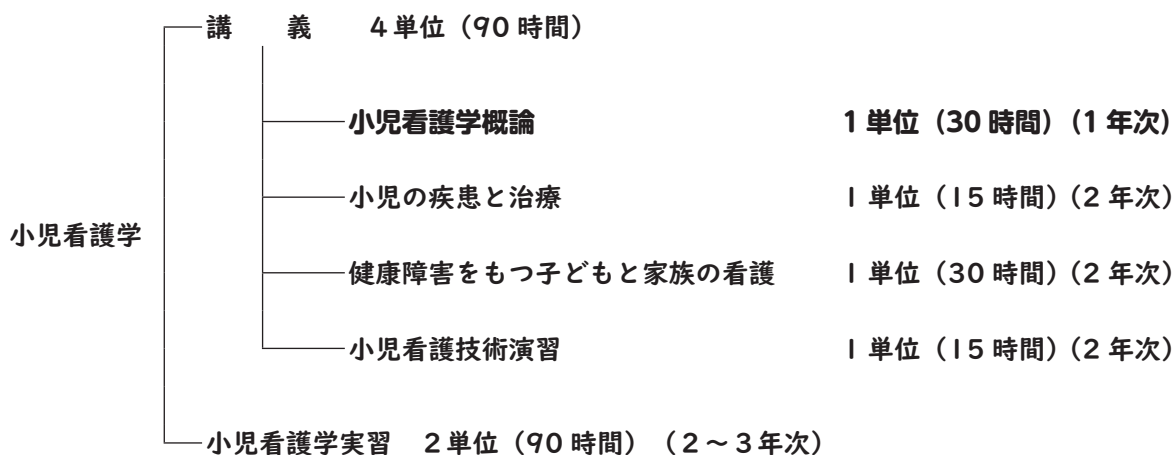
課題レポートと2月終講試験により評価する。

小児看護学

1. 目的 小児看護の対象となる子どもおよびその家族を理解し、成長発達に応じた養護と健康を障害された子どもおよびその家族に対する看護の基本となる知識、技術、態度を養う。

2. 目標
- 1) 子どもの成長発達の特徴と子どもを取り巻く環境を理解し、小児看護の目的および役割について理解する。
 - 2) 健康な子どもの日常生活の特徴を理解し、対象に応じた看護ができるための基本的知識と技術を習得する。
 - 3) 子どもに特有な健康障害の問題（疾患・主要症状）を理解する。
 - 4) 健康を障害された子どもとその家族に看護ができるように基本的知識と技術を習得する。
 - 5) 対象の特徴を理解し、成長発達を促すとともに、健康障害のある子どもとその家族への看護ができる。

3. 構成



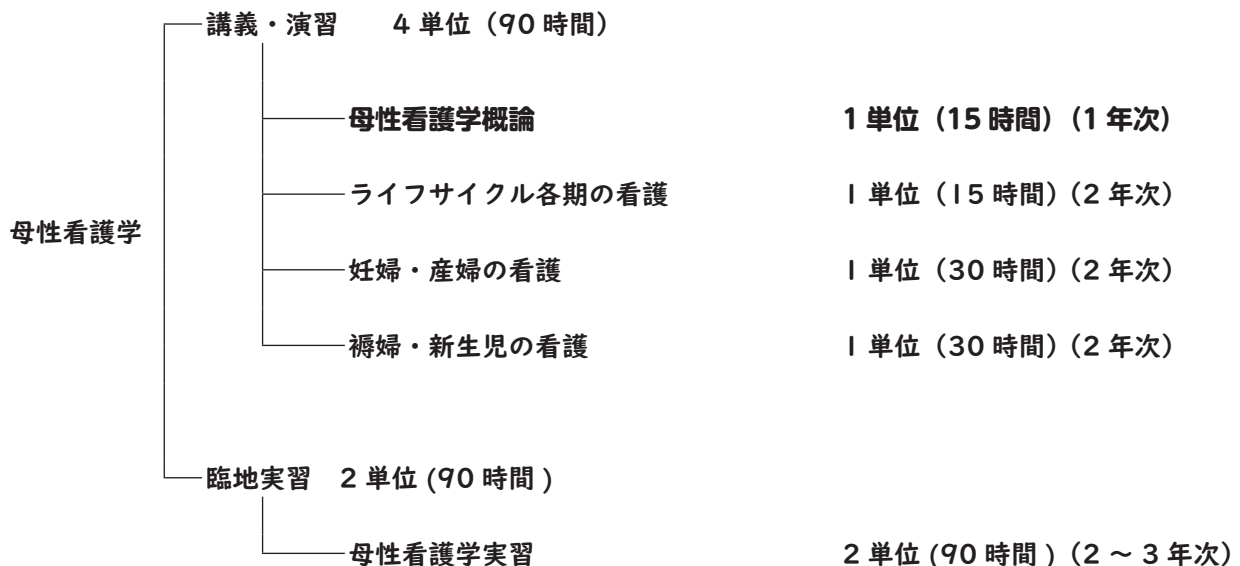
小児看護学概論				単 位 数	I	時 間 数	30
I 年次 9 月開講～2 月終講							
担当講師 吉田恵美							
科目目標 1. 小児看護の対象である子ども、子どもをとりまく環境および小児看護の目的・役割について理解する 2. 小児保健・医療の動向について学び、小児期の健康の保持増進と看護の役割について理解する 3. 小児期の成長発達について理解する 4. 小児各期の日常生活の援助について理解する							
回数	学習 形態	学習目標		学習内容			
1～3	講義	小児の特性を捉えることができる 看護・医療における法律、看護における倫理的配慮について理解できる		1. 小児の特性 2. 小児看護の変遷 3. 小児看護における倫理 4. 小児看護の課題			
4・5	講義	小児保健・医療の動向についての問題を捉え、看護の役割について理解できる		1. 小児と家族の諸統計 2. 小児看護・医療における法律 児童福祉・母子保健・予防接種・児童虐待 学校保健（不登校・引きこもり・いじめ） 3. 医療費の支援 4. 小児の事故防止と安全教育			
6～9	講義	小児各期の形態的・機能的発達の特徴が理解できる		1. 成長発達の概念と定義 小児の発達段階の区分・成長発達の原則 2. 身体生理の特徴 呼吸、循環、体温、消化器、体液の生理、黄疸、血液、免疫、神経系 3. 形態的特徴 身長・体重、頭囲、胸囲、生歯、骨の発育			
10・11	講義	小児の精神・運動機能発達の特徴が理解できる		1. 機能的特徴 運動、思考と認知、感覚、コミュニケーション 情緒・社会的機能 2. 成長・発達の評価 身体発育評価・発達スクリーニング検査 発達指数評価・肥満度 3. 養育環境が発達に与える影響			
12～15	講義	小児期の成長発達について理解し、小児各期の日常生活の援助について理解できる		1. 日常生活の自立と世話 清潔・衣服の着脱・睡眠・排泄・食事行動の発達と世話 2. 子どもの栄養・食べる機能の発達 3. 子どもの遊びの意義と支援			
使用テキスト 奈良間美保他：系統看護学講座 専門分野 小児看護学概論 小児臨床看護総論 小児看護学① 医学書院 奈良間美保他：系統看護学講座 専門分野 小児看護学各論 小児看護学② 医学書院 厚生統計協会：国民衛生の動向							
評価方法 2 月終講試験（100 点満点）により評価する。							

母性看護学

1. 目的 人のもつ種族保存の働き（生殖）とその意義、女性のライフサイクル各期における特徴と保健を理解するとともに、妊娠・分娩・産褥・新生児期にある人の看護を実践するための基礎的知識、技術、態度を養う。

2. 目標
- 1) 人の種族保存あるいは生殖の意義を理解すると共に、母性の概念および母性の特性を知り、母性看護の目的を理解する。
 - 2) 母性看護の対象となる人のライフサイクルにおける特徴と看護を理解する。
 - 3) 周産期の生理を理解し、周産期にある母性と胎児および新生児、そして家族を対象とし、健康問題を解決するための援助、および方法を理解する。
 - 4) 周産期にある母性および新生児の特徴を理解し、対象に必要な看護と保健指導を行うための基礎的能力を養う。

3. 構成



母性看護学概論				単 位 数	1	時 間 数	15
Ⅰ 年次 Ⅹ 月開講～ Ⅱ 月終講							
担当講師 今村久美子 内田貴峰							
科目目標 1. 母性の概念および意義を理解し、対象を理解する 2. 母子保健の現状と今後の動向について学び、母子保健対策の概要と看護の役割について理解する							
回数	学習 形態	学習目標	学習内容	担当			
1	講義	母性とは何かを幅広く考え、 母性をめぐる定義を理解できる 母子関係形成の重要性や親役割獲得 過程について理解できる	I. 母性看護の基盤となる概念 1. 母性看護の目的・意義・対象 2. 母性・父性・親性の定義 3. 母子関係形成と母親役割獲得過程 1) 愛着・母子相互作用と母子関係形 成 2) 親役割獲得過程（母親及び父親） 3) 家族発達	今村			
2	講義	人間の性と生殖について理解できる	4. 人間の性と生殖 1) セクシュアリティ 2) 生殖の形態と機能 3) 性アイデンティティ				
3	講義	セクシャル・リプロダクティブ・ヘル ス／ライツを踏まえた母性看護の 役割について理解できる	5. リプロダクティブ・ヘルス／ライツ 6. ヘルスプロモーション 7. 母性看護のあり方				
4	講義	母性看護における生命倫理について 考えを深めることができる	II. 母性看護における倫理 1. 母性の権利と擁護 2. 母性看護における生命倫理の問題	内田			
5	講義	母性看護の歴史的変遷をふまえ、現 在の母子保健に関する課題を考察す ることができる	III. 母性看護の歴史的変遷と現状 1. 母性看護の変遷 女性と出産の捉え方 2. 母性看護を取り巻く環境				
6	講義	母性看護に関する組織や法律、 母子保健施策の観点から、母性 看護の現状を理解できる	3. 母子保健統計から見た動向 4. 母性看護に関係する主な組織と法律 5. 母子保健施策から見た現状 6. 母性看護活動の場と職種				
7・8	個人 発表	女性の生涯にわたる健康課題を理解 しリプロダクティブヘルスケアにつ いて考えを深めることができる	IV. リプロダクティブヘルスケア 自分が関心ある女性の健康課題につ いてテーマを設定し、その背景と支援方 法をまとめ発表する。	今村			
使用テキスト 森 恵美 他：系統看護学講座 専門分野 母性看護学① 母性看護学概論 医学書院 厚生統計協会：国民衛生の動向 必要な資料は、随時配布します							
授業を受ける際の留意点 母性に関連する最新情報や動向を新聞・雑誌・テレビ・インターネット等でキャッチしてください。 自分自身の母性についても認識し、日常生活の中で健康管理できるようにしましょう。							
評価方法 2月筆記試験（80％）と個人発表（20％）により評価する。							

2 年次

(75 期生)

麻酔と手術療法				単 位 数	I	時 間 数	30
2 年次 4 月開講～9 月終講							
担当講師 川瀬和美、近藤一郎、高橋祐介、仲田健男、塩谷尚志、黒河内喬範、古川賢英、後町武志、小菅 誠、 松村洋高、中谷宣章、齋藤良介、米本圭吾、本田真理子、渡邊健太郎							
科目目標 手術療法を必要とする主な疾患の病態生理、検査、治療を理解する							
回数	学習 形態	学習目標	学習内容				
1	講義	手術療法の基礎知識が理解できる	1. 手術療法の基礎 1) 手術療法とは 2) 手術侵襲と生体反応				
2	講義		1. 全身麻酔と局所麻酔 2. 手術療法に伴う全身管理 1) 一般血液検査、呼吸機能、心機能、肝機能、腎機能 2) 呼吸・循環管理（酸素療法、体液管理 など） 3) 疼痛管理（PCA 法、術後訪問の実際）				
3	講義	麻酔法の基礎知識が理解できる。	2. 手術療法の主な合併症 1) 呼吸器合併症 2) 循環器合併症 3) 消化器合併症 4) 創傷治癒過程と創感染				
4	講義	頸部・甲状腺・乳房の手術療法が理解できる	1. 甲状腺腫瘍 1) 病態と検査 2) 主な手術と術後管理 2. 乳がん 1) 病態と検査（マンモグラフィー） 2) 主な手術と術後管理				
5	講義	肺・縦隔部の手術療法が理解できる	1. 肺がん 1) 病態と検査（胸部レントゲン・CT の特徴と見方） 2) 主な手術と術後管理 2. 縦隔腫瘍 1) 病態と検査 2) 主な手術と術後管理 3. 気胸 1) 病態と検査（胸部レントゲンの特徴と見方） 2) 胸腔ドレナージ				
6	講義	食道・胃・十二指腸の手術療法が理解できる	1. アカラシア・食道裂孔ヘルニア・食道がん 1) 病態と検査 2) 主な手術と術後管理 2. 胃がん 1) 病態と検査（腹部レントゲン・CT の特徴と見方） 2) 主な手術（開腹術・腹腔鏡）と術後管理				
7	講義	肝臓・脾臓の手術療法が理解できる	1. 肝臓がん 1) 病態と検査（腹部レントゲン・CT の特徴と見方） 2) 主な手術と術後合併症・術後管理 2. 肝移植 1) 対象となる主な疾患と術後管理 3. 脾臓摘出術 1) 対象となる主な疾患と手術				
8	講義	小腸・大腸・直腸・肛門部の手術療法が理解できる	1. 炎症性疾患（潰瘍性大腸炎、クローン病） 1) 病態と検査 2) 主な手術と術後管理 2. 結腸がん・直腸がん 1) 病態と検査（腹部レントゲン・CT の特徴と見方） 2) 主な手術と術後管理				

麻酔と手術療法

9	講義	心臓血管系の手術療法が理解できる	1. 虚血性心疾患（狭心症・心筋梗塞） 1) 病態と検査（冠動脈造影、心エコーなど） 2) 主な手術（冠動脈バイパス術・カテーテル治療 PCI）と術後管理 2. 弁膜症 1) 病態と検査 2) 主な手術（弁置換術・形成術）と術後管理 3. 大動脈瘤 1) 病態と検査 2) 主な手術（人工血管置換術、血管内治療）と術後管理
10	講義	膵臓・胆管・胆嚢の手術療法が理解できる	1. 胆石症 1) 病態と検査（腹部レントゲン・CT の特徴と見方） 2) 主な手術と術後管理 2. 膵臓がん 1) 病態と検査 2) 主な手術と術後管理
11	講義	救命救急の特性と治療が理解できる	1. 救命救急の特性 2. 主要病態に対する救急処置 出血、熱傷、外傷、ショック、けいれんなど
12	講義	女性生殖器の手術療法が理解できる	1. 子宮筋腫、子宮内膜症 1) 病態と検査 2) 主な手術と術後管理 2. 子宮がん 1) 病態と検査（内診、膣鏡診、経膣超音波検査など） 2) 主な手術と術後管理
13	講義	骨・関節・筋肉の手術療法が理解できる	1. 大腿骨頸部骨折、上腕骨骨折 1) 病態と検査（レントゲンの特徴と見方） 2) 主な手術と術後管理 2. 椎間板ヘルニア 1) 病態と検査 2) 主な手術と術後管理 3. 変形性関節症 1) 病態と検査 2) 主な手術と術後管理
14	講義	腎・泌尿器系の手術療法が理解できる	1. 腎腫瘍 1) 病態と検査 2) 主な手術と術後管理 2. 膀胱腫瘍 1) 病態と検査 2) 主な手術と術後管理 3. 前立腺肥大症、前立腺がん 1) 病態と検査 2) 主な手術と術後管理
15	講義	脳神経疾患の手術療法が理解できる	1. 頭部外傷 1) 病態と検査（頭部 CT、MRI の特徴と見方） 2) 主な手術（血腫ドレナージ）と術後合併症・術後管理 2. 脳腫瘍 1) 病態と検査（頭部 CT、MRI の特徴と見方） 2) 主な手術と術後管理 3. 脳血管疾患 1) 病態と検査（頭部 CT、MRI の特徴と見方） 2) 主な手術と術後管理（脳室ドレナージなど）

使用テキスト

系統看護学講座	別巻	臨床外科看護総論・各論	医学書院
系統看護学講座	専門分野	成人看護学 9 女性生殖器	医学書院
系統看護学講座	専門分野	成人看護学 10 運動器	医学書院
系統看護学講座	専門分野	成人看護学 8 腎泌尿器	医学書院

評価方法

9 月終講試験（100 点満点）により評価する

臨床心理	単 位 数	1	時 間 数	15
2 年次 4 月開講～ 7 月終講				
担当講師 高崎恵美				
科目目標 心の問題や葛藤をもつ人々に対しての援助的関わりを学ぶ				
講義内容	現代社会は、高度情報化や家族形態の変化に伴う人間関係の希薄さが指摘され、発達障害への対応、犯罪や虐待などによる被害者のケア、高齢者ケア、更に不況による失業者の増大に伴う中年層の自殺率増加の防止など、様々な課題を抱えている。そして、このような問題は個々人の心理的状态と深く関連している。 臨床心理学とは、問題を抱える人の心理状態を理解すること、問題の解決や改善、回復を援助することを目指す学問である。また、人々の精神的健康の増進に貢献することを目指す心理学の一分野である。つまり、「なぜ自分がこのような辛い思いをしなければならないのか？」という問いに苦しむ人の傍らにいて、その人が自分なりの答えを見出し、解決していくのを援助する学問である。 本講義で臨床心理学の基礎を学習し、心理学的援助の取り組みを看護の実践に活かしていただきたい。また、今後の自分自身のケアのための知識として、臨床心理学を利用して欲しいと考えている。 I. 臨床心理学とは 1. 臨床心理学の目的 2. 生物・心理・社会モデル 3. 臨床心理学の実践活動 II. 心理アセスメント 1. アセスメントとは何か 2. 面接法 3. 観察法 4. 検査法 5. 精神科領域でよく用いられる検査 III. 心理療法 1. 統合的視点 2. 精神分析 3. 分析心理学 4. クライエント中心療法 5. フォーカシング 6. 認知行動療法 7. 森田療法 8. 家族療法 9. コミュニティ心理学と予防 10. 危機介入とコンサルテーション 11. 心理教育・SST IV. セルフケアのための臨床心理 1. 看護師のメンタルヘルス 2. セルフケアの実践			
評価方法	終講試験（100 点満点）と出席状況で総合的に評価する			

環境保健論		単 位 数	I	時 間 数	30
2 年次 4 月開講～9 月終講					
担当講師 須賀万智 山内貴史 木戸尊將 島崎崇史 天谷亮介 坂夏美（環境保健医学講座） 柳澤裕之 古川晴子 鈴木のり子					
科目目標 人を取り巻く環境と健康の関わりを理解する 衛生学・公衆衛生・予防医学の基礎知識を修得する					
講義内容 患者に最善な医療（看護）を提供できる看護師となるため、目の前の患者が抱える問題に対して、患者を取り巻く個人的・社会的環境を踏まえ、保健・医療・福祉の制度・仕組みを活用した適切な解決策を導き出す力を身につける必要がある。このためには、医療に関する基本的知識と、衛生学・公衆衛生学に関する基本的知識を修得する必要がある。 看護師が活躍する場は病院内だけでなく、地域、学校、職場における保健活動なども含まれる。あらゆるひとの well-being の実現をめざす予防医学の考え方が重要である。 本科目は衛生学・公衆衛生・予防医学を網羅的に学べるように、テキストに準拠した下記 15 コマから構成される。そのうち 2 コマは外部講師を招聘し、保健所（地域保健）と企業（産業保健）における看護職の役割と活動について紹介いただく。 1. 公衆衛生と健康の概念、医療関係法規 2. 保健統計、疫学 3. 医療法と医療体制、医療の質 4. 社会保障と医療経済 5. 成人保健・健康増進 6. 地域保健、母子保健、学校保健 7. 高齢者保健 8. 障害者・精神保健福祉 9. 感染症対策 10. 食品保健・栄養 11. 産業保健：一般 12. 産業保健：職業病 13. 環境保健 14. 保健所（地域保健）における看護職の役割と活動 15. 企業（産業保健）における看護職の役割と活動					
使用テキスト 公衆衛生がみえる 2025-2026 医療情報科学研究所（編）メディックメディア					
評価方法 9 月終講試験（100 点満点）により評価する					

人間関係論		単 位 数	1	時 間 数	15
2 年次 4 月開講～12 月終講					
担当講師 大滝佐織 全教員					
科目目標 文献を通して自己の看護について振り返りを行い、看護についての理解を深める					
講義内容 1. 個人学習（8 時間） 1) 本文全体を読み、第 2 章、第 3 章、第 4 章を要約し、感想をノートに記載し、夏季休暇明けに提出する。 2) 基礎看護学実習 2 終了後、1) でまとめたノートに、臨地実習での体験や学びを追記して提出する。 2. グループワーク（8 時間） 1) 学生のみ（2 時間） 基礎看護学実習 2 での体験や学びを追記したノートをもとに、話し合うテーマを決定する。 2) 各担当教員が加わる（6 時間） 基礎看護学実習 2 での体験や指定文献の学びをもとに、テーマについて話し合う。 3. 個人学習とグループワークの学びをもとにレポートする。 学校指定用紙 1 枚以上を指定した期日までに提出する。					
使用文献 デビット・アウグスバーガー著：親身に聞く					
評価方法 ・要約、感想を記載したノートの内容・提出状況、グループワークの参加度、レポート内容・提出状況を合わせて評価する					
学習上の留意点 ・個人学習したノートの提出（2 回）がグループワークの出席の要件となります					

社会福祉		単 位 数	I	時 間 数	30
2 年次 4 月開講～9 月終講					
担当講師 高山直樹					
科目目標 わが国の社会保障、社会福祉の歴史・制度を理解する 看護・医療・福祉等の連携を理解する					
講義内容	本講では、保健、医療、看護、福祉の連携や多職種の連携をキーワードとして、社会保障や社会福祉の制度に関する知識を修得していく。特に、地域包括ケアの流れのなかでの社会福祉と看護のあり方を掘りさげていく。 1. オリエンテーション ～社会福祉とは何か～ 2. 現代社会における社会福祉の問題 3. 現代社会の変化と社会保障・社会福祉の動向 4. 社会福祉の分野とサービスの概要（1） 5. 社会福祉の分野とサービスの概要（2） 6. 公的扶助 ①貧困・低所得問題 7. 公的扶助 ②生活保護制度 8. 高齢者の福祉 9. 介護保険制度 10. 障がいのある人の福祉 11. 障がいのある人の自立支援 12. 児童の福祉子育て家庭の現状と子育て支援 13. 子育て家庭の現状と子育て支援地域福祉と社会福祉協議会 14. 地域福祉と社会福祉協議会社会福祉分野の専門職と多職種連携 15. 社会福祉分野の専門職と多職種連携				
使用文献 毎回、資料を配布する					
評価方法 9 月終講試験と平常点（授業内レポートと受講態度）により総合的に評価する					

多職種協働の実践				単 位 数	I	時 間 数	15
2 年次 9 月開講～12 月終講							
担当講師 松澤亜希子 他							
科目目標 1. 多職種連携・協働の必要性が理解できる 2. 保健・医療・福祉職における役割と活動内容が理解できる 3. 保健・医療・福祉職における看護職の役割を考えることができる							
回数	学習 形態	学習目標		学習内容			
1	講義	多職種連携の必要性が理解できる		・ 社会の変化と多職種連携（IPW・IPE）の基本 ・ 多職種と連携するために求められる看護職員 の能力			
2	講義	保健・医療・福祉の分野における薬剤師 の役割と責務を理解できる		・ 薬剤師の組織について ・ 薬剤師の役割と活動内容 ・ 薬剤師の多職種連携に求めるもの			
3	講義	保健・医療・福祉の分野における管理栄 養士の役割と責務を理解できる		・ 管理栄養士の組織について ・ 管理栄養士の役割と活動内容 ・ 管理栄養士の多職種連携に求めるもの			
4	講義	保健・医療・福祉の分野における理学療 法士の役割と責務を理解できる		・ 理学療法士の組織について ・ 理学療法士の役割と活動内容 ・ 理学療法士の多職種連携に求めるもの			
5	講義	保健・医療・福祉の分野における臨床工 学士の役割と責務を理解できる		・ 臨床工学士の組織について ・ 臨床工学士の役割と活動内容 ・ 臨床工学士の多職種連携に求めるもの			
6	講義	保健・医療・福祉の分野におけるメディカ ルソーシャルワーカー（MSW）の役割と責務 を理解できる		・ MSW の組織について ・ MSW の役割と活動内容 ・ MSW の多職種連携に求めるもの			
7	演習	事例検討		・ 事例をもとに援助計画の立案 ・ 多職種への依頼内容の検討			
8		ロールプレイ		事例をもとに考えた多職種への依頼内容の実施			
使用テキスト 特に指定はしない。なお、必要な資料については授業時に配布する							
評価方法 授業の出席・事例検討の参加度・レポート内容内容・提出状況等により、総合的に評価する							

基礎看護学

1. 目的

人間のライフサイクルにおける健康の意義、保健・医療・福祉における看護の役割について理解し、看護実践の基礎となる知識・技術・態度を学ぶ。
2. 目標

1) 看護の対象である人間を理解し、保健・医療・福祉における看護の役割を理解する。

2) 看護の歴史的変遷を理解し、専門職業人としての自覚を高める。

3) 看護実践の基礎となる知識・技術・感度を習得する。

4) 物事を科学的、論理的に見つめる考え方を養う。

5) 対象に応じた援助技術を習得する。

6) 対象に応じた看護過程の必要性を理解できる。

7) 看護における臨床判断のプロセスを理解できる。
3. 構成
- 基礎看護学

講義・演習 11 単位 (315 時間)

看護学概論

1 単位 (30 時間) (1 年次)

看護基本技術

1 単位 (30 時間) (1 年次)

日常生活の援助技術

1 単位 (30 時間) (1 年次)

診療に伴う援助技術

1 単位 (30 時間) (1 年次)

日常生活の援助技術演習

1 単位 (45 時間) (1 年次)

診療に伴う援助技術演習

1 単位 (45 時間) (1 年次)

フィジカルアセスメント

1 単位 (15 時間) (1 年次)

看護過程の展開

1 単位 (15 時間) (2 年次)

看護における臨床判断 1

1 単位 (15 時間) (2 年次)

看護における臨床判断 2

1 単位 (15 時間) (2 年次)

看護の変遷

1 単位 (30 時間) (3 年次)

臨地実習 3 単位 (135 時間)

基礎看護学実習 1

1 単位 (45 時間) (1 年次)

基礎看護学実習 2

2 単位 (90 時間) (2 年次)

看護過程の展開			単 位 数	I	時 間 数	30
2 年次 4 月開講～7 月終講						
担当講師 前田聡子 佐藤千恵子 他						
科目目標 看護過程の概念を理解し、看護過程展開に必要な知識・方法を学ぶ						
回数	学習 形態	学習目標	学習内容			
1～8	講義	1. 看護過程の意義と概念を理解する 2. 看護過程の展開方法を理解する	1. 看護過程の概念と意義 1) 看護過程の定義 2) 看護過程の構成要素 3) 看護過程の意義と必要性 4) 看護過程の展開に必要な技術 2. 看護過程の展開方法 1) アセスメントの目的と方法 （1）情報収集（2）情報の分析：分析の概要 2) 看護計画 （1）看護目標（2）優先度の決定 （3）看護目標の立体的構造 3) 実施 4) 評価			
9～15	演習 GW	事例を通して看護過程の展開ができる。	【アセスメント：情報収集】 1. 情報収集の内容と方法について 2. 看護日誌、医師の指示簿、カルテ（検査結果伝票・処方箋・食事箋）、体温表などからの情報収集の実際 3. 情報の記載 得た情報の整理 4. 模擬患者、家族、看護師からの情報収集 【アセスメント：分析】 1. 「対象の障害された機能が全身に及ぼす影響」から考えられる問題を挙げ、「回復過程をたどるために必要な条件」を明確にする。 2. 「日常生活の規制、患者・家族の反応、援助の方向性」を見出す。 3. 1と2を統合し優先順位を決定する。 【看護計画】 1. 対象の実現可能な上位目標を設定し、中位目標を整理する。 2. 下位目標を設定する。			
使用テキスト 薄井 坦子 科学的看護論 第3版 日本看護協会出版会 参考図書 薄井 坦子「何がなぜ看護の情報なのか」 日本看護協会出版会						
評価方法 課題提出状況、グループワークの参加度、出席を統合して評価する						

看護における臨床判断 I				単 位 数	I	時 間 数	15
2 年次 5 月開講～9 月終講							
担当講師 伊藤美鈴 千葉早希子 他							
科目目標 1. 対象に応じた指導ができるよう指導方法の基本を習得する 2. 健康障害のある対象に適した臨床判断のプロセスを学ぶ							
回数	学習 形態	学習目標		学習内容			
1	講義 グループ ワーク	看護における臨床判断とは何かについて学ぶ		1. 判断と診断 2. 看護における臨床判断 1) 臨床判断とは 2) リフレクションの重要性 3. 臨床判断のプロセス（タナーの臨床判断モデルを用いて） 1) 前提：コンテキスト・背景・関係性 2) 4つのフェーズ：「気づく」「解釈する」「反応する」「省察する」 3) 臨床判断の特性			
2				4. 事例を用いた臨床判断の実際			
3	講義	看護における指導技術について学ぶ		1. 看護の教育機能 1) 看護における患者教育 2) 看護における健康教育の重要性 2. 患者教育の基本的姿勢 3. 患者指導のプロセス 1) アセスメント 2) 看護上の問題の特定 3) 目標の設定と計画の立案 4) 実施 5) 評価 6) 記録			
4・5	演習	手術直後の患者の観察が実施できる		1. 手術帰室後の対象の援助技術 1) 帰室後の対象の観察 2) 安全・安楽な環境整備			
		早期離床の援助が実施できる		2. 手術後の対象の援助技術 1) 早期離床の援助			
6～8	ロール プレイ グループ ワーク	援助場面を通して臨床判断に至る思考が理解できる		3. 援助場面のリフレクション (1) 焦点を絞った観察 (2) 患者の状況の解釈 (3) 根拠に基づいた実践 (4) 自己の実践の振り返り			
使用テキスト 必要な資料については授業時に配布する							
評価方法 授業の出席・事例検討の参加度・レポート内容・提出状況等により、総合的に評価する							

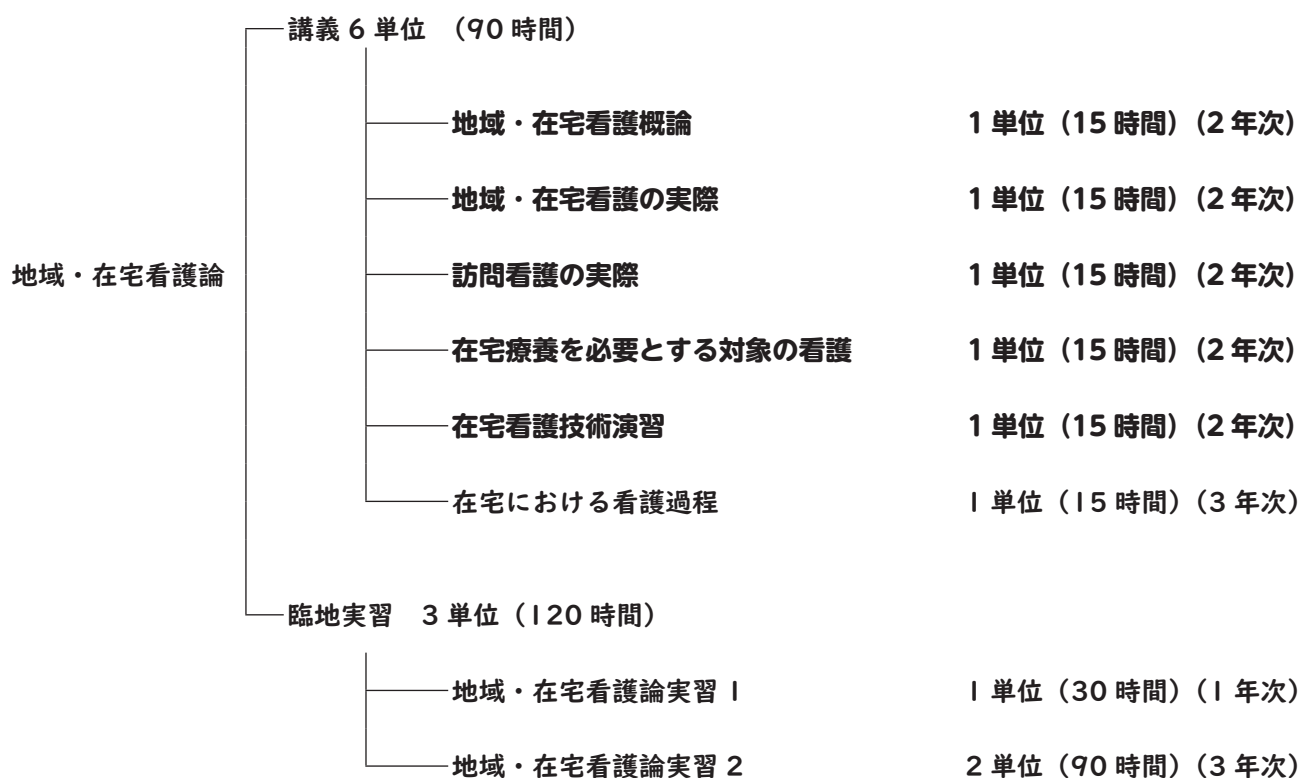
看護における臨床判断 2				単 位 数	1	時 間 数	15
2 年次 7 月開講～12 月終講							
担当講師 大滝佐織 他							
科目目標 1. 対象に応じた指導の方法について学ぶ 2. 健康障害のある対象に適した援助を学び臨床判断の能力を養う							
回数	学習 形態	学習目標		学習内容			
1	課題	食事療法・運動療法の実際について理解できる		1. 食事・運動療法の理解 1) 食事療法の実施 2) 運動療法の実施			
2	演習	血糖測定とインスリン注射の技術を習得する		1. インスリン療法を必要とする対象の看護 1) 簡易式血糖測定 2) インスリン注射			
3	グループ ワーク	糖尿病のある対象の看護における臨床判断について理解できる		1. 糖尿病のある対象の理解			
4～6	グループ ワーク 個人ワーク			2. 糖尿病のある対象に適した指導 1) 食事・運動療法、血糖測定を必要とする対象への指導計画の立案			
7	ロール プレイ			2) 食事・運動療法、血糖測定を必要とする対象への指導の実施			
8	グループ ワーク			3. 指導場面のデブリーフィング 1) 気づき・解釈・反応のデブリーフィング 2) 全体での共有			
使用テキスト 深井喜代子他：新体系 看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ メヂカルフレンド社 吉岡成人 他：系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔6〕内分泌・代謝 医学書院 日本糖尿病学会編：糖尿病食事療法のための食品交換表 第7版 文光堂							
評価方法 課題レポート、授業の参加度、出席など総合して評価する							

地域・在宅看護論

1. 目的 地域で生活する人々と生活しながら療養する人々及びその家族を理解し、在宅看護における必要な知識・技術・態度を習得する。

2. 目標
- 1) 在宅看護の意義と役割について理解する。
 - 2) 在宅看護の対象を理解する。
 - 3) 在宅におけるケアシステムと看護活動について理解する。
 - 4) 在宅看護における必要な技術を習得する。
 - 5) 対象の社会資源の活用方法と関連機関・職種との連携・協働について理解する。
 - 6) 地域で生活している人々及び療養している人と家族への看護を学ぶ。

3. 構成



地域・在宅看護概論				単 位 数	I	時 間 数	15
2 年次 4 月開講～ 6 月終講							
担当講師 森美由紀							
科目目標 1. 地域看護における在宅看護の概念と必要性を理解する 2. 在宅看護の対象と看護の役割を理解する							
回数	学習 形態	学習目標		学習内容			
1・2	講義	1. 地域看護における在宅看護の概念と 必要性を理解する		1. 地域看護の概念 1) 地域とは 2) 看護者として地域を見るときは 3) 地域保健医療福祉 4) 地域看護とは 2. 在宅看護の概念 1) 地域看護の領域と構成分野 2) 在宅看護が必要とされる背景 3) 在宅看護の目的 4) 在宅看護の特性			
3	講義	2. 地域・在宅看護の変遷を理解する		1. 地域・在宅看護の変遷 1) 地域・在宅看護の歴史			
4	講義	3. 地域・在宅看護の対象を理解する		1. 地域・在宅看護の対象 1) 地域・在宅看護の対象とは 2) 在宅療養者の状況 3) 地域・在宅看護における家族			
5・6	講義	4. 地域・在宅における看護師の役割を 理解する		1. 地域・在宅看護における看護師の役割 1) 地域包括ケアシステム 2) 治す医療から支える医療へ			
		5. 地域・在宅看護の実践活動としての 訪問看護について理解する		1. 制度に基づいた地域・在宅看護 1) 訪問看護ステーションの法的枠組み 2) 在宅看護を提供する機関			
		6. 地域・在宅看護における関係職種と 社会資源について理解する		1. 地域及び在宅療養における社会資源 1) 社会資源とは 2) 利用者・提供主体から見た社会資源 3) 社会資源活用と看護者の役割			
7・8	講義	7. 訪問看護における看護者の責務と倫 理的課題について理解する		1. 訪問看護における看護者の責務 1) 保助看法に基づく看護師の業務 2) 訪問看護師が行なう医療行為 3) 「療養上の世話」と「介護」			
		8. 地域・在宅看護の展望と今後の課題 を理解する		1. 地域・在宅看護における課題 1) 地域・在宅看護におけるチームケア 2) 地域・在宅看護におけるケアマネジメント 3) 在宅療養者と家族の権利 4) 地域・在宅看護における倫理 5) 在宅療養者の安全への援助 6) 地域・在宅看護の課題			
使用テキスト 河原加代子他：系統看護学講座 専門分野 [1] 地域・在宅看護の基盤 医学書院 河原加代子他：系統看護学講座 専門分野 [2] 地域・在宅看護の実践 医学書院							
評価方法 7 月終講試験（100 点満点）により評価する							

地域・在宅看護の実際				単 位 数	1	時 間 数	15
2 年次 7 月開講～11 月終講							
担当講師 森美由紀 千葉早希子 渡邊淳子 患者支援医療連携室看護師							
科目目標 1. 訪問看護活動の特性と機能を理解する 2. 地域医療における関係施設の役割と連携を理解する 3. 地域住民のニーズと地域活動の実際を理解する							
回数	学習 形態	学習目標	学習内容				
1	講義	1. 訪問看護活動の特性と機能を理解する	1. 訪問看護の特性と機能 1) 訪問看護の特性 ・療養者と家族の生活の場における看護 ・療養者と家族の自己決定に基づく自立支援 ・健康問題とそれに伴う生活上の問題の予測と予防 ・家族の関係調整 2) 訪問看護の特性と機能 ・訪問看護活動の実際				
2	講義		2. 療養者・家族の充実した生活を支えるために 1) 「家で生活する」こととは 2) 在宅における QOL とは 3) 療養者と家族が望む生活のために 4) 療養者・家族の「満足感」を支える要件 5) 療養者・家族の充実した生活を支えるための方策				
3		2. 地域医療を担う社会資源の役割と職種間の連携を理解する	1. 医療施設と地域の連携 1) 看護職による在宅療養に向けた退院支援 2) 退院支援看護師の専門性				
4	講義		3) 東京慈恵会医科大学附属病院における退院支援看護師の役割				
5	講義		4) 地域その他機関・他職種との連携 5) 地域医療の実際				
6	講義	3. 地域・在宅看護における診療報酬の構造を理解する	2. 地域・在宅看護と診療報酬 1) 診療報酬の土台となる社会保障の考え方 2) 診療報酬における訪問看護の位置付け 3) 在宅医療・看護に関わる診療報酬の現状				
7・8	講義	4. ボランティア活動に参加し、地域住民のニーズと活動の実際を知る	港区で実施されているボランティア活動に参加する				
使用テキスト 河原加代子他：系統看護学講座 専門分野〔1〕 地域・在宅看護の基盤 医学書院 河原加代子他：系統看護学講座 専門分野〔2〕 地域・在宅看護の実践 医学書院							
評価方法 課題により評価する							

訪問看護の実際				単 位 数	1	時 間 数	15
2 年次 10 月開講～12 月終講							
担当講師 佐藤尚子 草地亜美							
科目目標 1. 訪問看護活動の実際を理解する 2. 訪問看護に必要な基本的姿勢と看護技術を理解する							
回数	学習 形態	学習目標	学習内容				
1・2	講義	1. 訪問看護の形態を理解する	1. 訪問看護の形態 1) 訪問看護サービスの流れ ・訪問看護ステーションの概要と役割 2) 訪問看護サービスの実施者と従事者 ・訪問看護のニーズと看護師の役割 3) 訪問看護サービスの提供方法 ・訪問看護サービスの内容				
3～6	講義	2. 訪問看護のプロセスを理解する	2. 訪問看護のプロセス 1) 療養者と家族のアセスメント ・アセスメントの内容・方法 ・療養者・家族のアセスメントの特徴 2) 計画立案・実施・評価 ・訪問看護計画の立案（事例） 3) 訪問看護におけるケアマネジメント ・ケースマネジメントとケアマネジメント ・ケアマネジメントの実際（事例） 4) 訪問看護における社会資源の種類と活用方法 ・社会資源の種類と活用方法				
7・8	講義	3. 訪問看護師に必要な基本的姿勢を理解する 4. 訪問看護に必要な援助技術を理解する	1. 訪問看護に必要な基本的姿勢と援助技術 1) 訪問看護師の基本姿勢 ・訪問前の準備とマナー ・信頼関係を作る看護師に必要な資質 2) 訪問看護に必要な援助技術 ・面接・相談技術 ・指導技術				
使用テキスト 河原加代子他：系統看護学講座 専門分野〔1〕 地域・在宅看護の基盤 医学書院 河原加代子他：系統看護学講座 専門分野〔2〕 地域・在宅看護の実践 医学書院							
評価方法 12 月終講試験（100 点満点）により評価する							

在宅療養を必要とする対象の看護				単 位 数	1	時 間 数	15
2 年次 9 月開講～12 月終講							
担当講師 初原由美子 小林裕美子 山口智子 原子英樹							
科目目標 在宅療養を必要としている対象と家族への看護を理解する							
回数	学習 形態	学習目標		学習内容			
1・2	講義	1. 在宅における慢性呼吸不全の対象の看護が理解できる		1. 在宅における慢性呼吸不全のある対象の看護 1) 慢性呼吸不全のある対象の特性 2) 訪問時の観察の視点と指導内容			
3・4	講義	2. 在宅でターミナルを迎える対象の看護が理解できる		1. 在宅でターミナルを迎える対象の看護 1) 在宅におけるターミナルケアの意味 2) 在宅ターミナルケアの視点			
5・6	講義	3. 在宅における精神障害のある対象の看護が理解できる		1. 在宅における精神障害のある対象の看護 1) 社会復帰推進のための法制度 2) 地域で生活する精神障害者の特徴 3) 精神障害のある対象と家族への援助			
7	講義	4. 難病で在宅療養をしている対象の看護が理解できる		1. 難病で在宅療養をしている対象の看護 1) 難病とは 2) 難病療養者の在宅療養上の課題 3) 難病療養者と家族への看護の視点 4) 在宅における療養環境の整備 5) 家族のセルフケア能力の開発と支援 6) 難病患者の健康の段階に応じた在宅看護			
8	講義	5. 在宅における医療的ケア児の看護が理解できる		1. 在宅における医療的ケア児の看護 1) 医療的ケア児とは 2) 医療的ケア児の在宅療養上の課題 3) 医療的ケア児と家族への援助			
使用テキスト 河原加代子他：系統看護学講座 専門分野〔1〕 地域・在宅看護の基盤 医学書院 河原加代子他：系統看護学講座 専門分野〔2〕 地域・在宅看護の実践 医学書院							
評価方法 12 月終講試験（100 点満点）により評価する							

在宅看護技術演習				単 位 数	1	時 間 数	15
2 年次 10 月開講～12 月終講							
担当講師 森美由紀 千葉早希子 初原由美子 他							
科目目標 1. 在宅療養をする対象の日常生活援助を理解する 2. 在宅で医療処置を必要とする対象への援助を理解する							
回数	学習 形態	学習目標	学習内容				
1・2	演習	1. 在宅看護における日常生活の援助技術が理解できる	1. 在宅における日常生活の援助 1) 在宅療養をしている対象の洗髪援助 ・ベッドおよび和式寝具で手作りケリーパッド・平型オムツを用いて行う洗髪				
3・4			2) 片麻痺のある対象の熱布清拭と寝衣交換 ・背部熱布清拭およびパジャマの寝衣交換 3) 入浴の援助 ・在宅における入浴の介助（VTR 視聴） 4) 排便の援助 ・排便の目的 ・排便実施上の留意点 ・排便の実施（シミュレーターで実施）				
5	演習	2. 在宅で医療処置を必要とする対象の看護が理解できる	1. 在宅で医療処置を必要とする対象の看護 1) 人工呼吸器を必要とする対象の看護 ・在宅で使用される医療機器の種類と使用上の留意点 ・人工呼吸器の取り扱い ・輸液ポンプ・シリンジポンプの取り扱い				
6			2) 気道清浄化を必要とする対象の看護 ・気管カニューレの取り扱い ・中央配管吸引機とポータブル吸引器による気管内吸引 ・気管切開をしている在宅療養者への看護				
7			3) 褥瘡のある対象の看護 ・褥瘡予防への援助・褥瘡の処置方法 ・家庭における除圧のための工夫				
8			4) 在宅酸素療法を実施している対象の看護 ・在宅酸素療法の目的・意義 ・在宅酸素療法導入までの流れ ・酸素濃縮器の使用取扱い ・携帯用酸素ボンベの取り扱い				
使用テキスト		河原加代子他：系統看護学講座 河原加代子他：系統看護学講座		専門分野〔1〕	地域・在宅看護の基盤	医学書院	
				専門分野〔2〕	地域・在宅看護の実践	医学書院	
学習課題 演習前に事前・事後学習が提示される							
評価方法 演習の出席・事前の学習課題提出状況と演習の参加度・演習実施後のレポートで総合評価する							

成人看護学

1. 目的

成人期にある対象の健康の保持増進および健康障害における健康上の諸問題を総合的に把握し、看護を実践できる基礎的能力を養う。
2. 目標

1) 成人期にある対象を身体的・精神的・社会的側面から総合的に理解する。

2) 成人期の対象の看護に有用な主な理論や考え方を理解する。

3) 成人期の生活過程を理解し、健康の保持増進、疾病予防のための援助を理解する。

4) 急激に心身の変化をきたす対象に対して、生体の侵襲を最小にし、生命維持に必要な看護を理解する。

5) 周手術期の対象に対して、手術による生体の侵襲を最小にし、健康回復のために必要な看護を理解する。

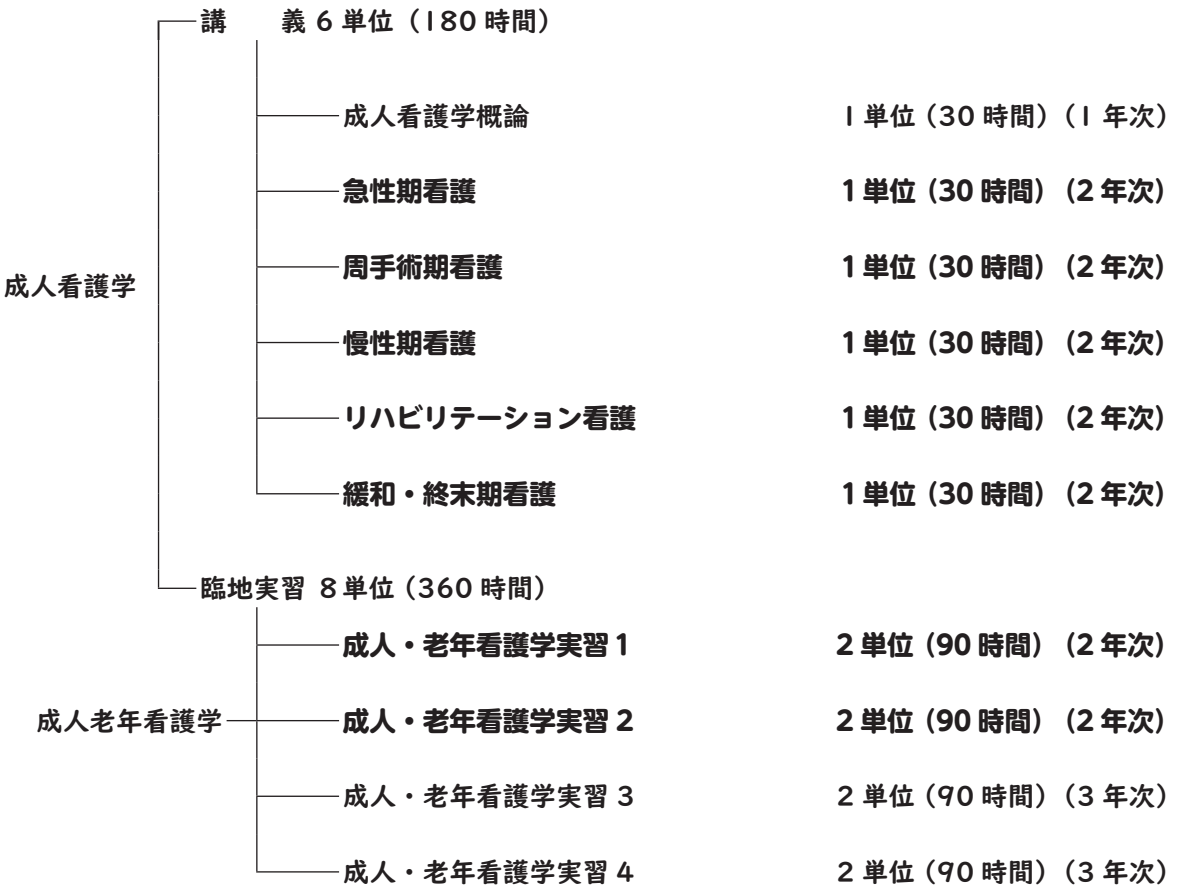
6) 生涯にわたりセルフケアを必要とする対象に対して、社会生活を継続していくための看護を理解する。

7) 機能障害をもつ対象に対して、リハビリテーションの意義と円滑な社会復帰をめざした看護を理解する。

8) 緩和・終末期ケアを必要とする対象に対して、心身の苦痛を緩和し、残された日々を有意義に過ごすための看護を理解する。

9) 成人期にある対象の特徴を理解し、健康の状態に応じた看護の実践ができる。

3. 構成



急性期看護				単 位 数	I	時 間 数	30
2 年次 4 月開講～9 月終講							
担当講師 平田依理 千葉早希子 初原由美子 山田久枝 他							
科目目標 1. 身体の危機的な状況にある対象の特徴と看護の役割を理解する 2. 重篤で急激に変化する対象の状態を身体・精神・社会的側面からアセスメントし、生命維持に必要な看護を理解する 3. 感染症に対する社会的問題をふまえ、感染症に罹患した対象の看護について理解する 4. 救急医療・看護体制をふまえ、迅速で適切な救命処置と看護について理解する							
回数	学習 形態	学習目標		学習内容			
1	講義	急性期看護の概念が理解できる 急性期看護を必要とする対象の特徴が理解できる		1. 急性期看護の考え方 1) 急性期看護とは 2) 急性期看護における倫理 2. 急性期にある対象の特徴と理解 1) 急な発症における身体的反応 2) 急な発症における心理的反応			
2	講義	急性期看護に用いられる主な概念と看護活動が理解できる		3. 急性期にある対象への看護援助 1) 急性期援助に必要な概念 2) 急性期の看護活動			
3～5	講義	急性の循環機能障害のある対象の看護が理解できる		1. 急性の循環機能障害のある対象の看護 1) 急性心筋梗塞の対象の看護 (1) 心筋梗塞の病態生理、アセスメント (2) 急性心筋梗塞の対象の看護			
6～8	講義	急性の栄養摂取・消化機能障害のある対象の看護が理解できる		1. 急性の栄養摂取・消化機能障害のある対象の看護 1) 急性の栄養摂取・消化機能障害のある対象の特徴 2) 内視鏡検査を受ける対象の看護 3) 急性膵炎の対象の看護 (1) 急性膵炎の病態生理、アセスメント (2) 急性膵炎の対象の看護 4) 消化管出血で吐血のある対象の看護 (1) 吐血の病態生理、アセスメント (2) 消化管出血で吐血のある対象の看護			
9	講義	感染症に罹患した対象の特徴と看護の役割について理解する 多剤耐性菌に罹患した対象の特徴と看護の実践が理解できる		1. 急性の生体防御機能障害・感染のある対象の看護 1) 感染症に罹患した対象の特徴 2) 感染経路別予防策 3) 多剤耐性菌に罹患した対象の看護 (1) 多剤耐性菌感染の機序、アセスメント (2) 多剤耐性菌に罹患した対象の看護			
10	講義	AIDS に罹患した対象の特徴と看護の実践が理解できる		4) AIDS に罹患した対象の看護 (1) HIV 感染の機序、アセスメント (2) HIV 感染者・AIDS 患者の療養経過 (3) HIV 感染者・AIDS 患者の看護			

急性期看護

11	講義	施設内の感染制御と感染制御看護師の役割・看護の実際が理解できる	1. 感染制御看護と院内感染 1) 院内感染とは、院内感染の分類 2) 病院内における感染制御チームの役割 3) 感染制御看護師の役割と看護の実際
12	講義		1. 救急看護の考え方 1) 救急看護の概念 2) 救急医療体制 3) 救急看護における法律と倫理 2. 救急看護を受ける対象の特徴 1) 救急患者の特徴 2) 救急患者の家族の特徴 3. 救急看護を受ける対象への看護
13 ~ 15	講義	救急看護の概念や救急看護体制、救急看護の特徴が理解できる 救急看護を必要とする対象と家族の特徴が理解できる 救命救急処置と看護が理解できる	4. 救急処置と看護 1) 心肺蘇生法（BLS と ALS） 2) 緊急時の基本処置と看護 (1) 救急患者の搬送 (2) 血管確保 (3) 輸液・輸血 (4) 止血法 (5) 創傷処置 (6) 整復固定 5. 救急看護を受ける対象の主要病態と看護 1) 意識障害 2) ショック 3) 外傷 4) 熱傷 5) 熱中症 6) 中毒

使用テキスト

大西 和子他：成人看護学 成人看護学概論 ヌーベルヒロカワ
山勢 博彰他：系統看護学講座 別巻 救急看護学 医学書院
吉田 俊子他：系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [3] 循環器 医学書院
南川 雅子他：系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [5] 消化器 医学書院
岩田健太郎他：系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [11] アレルギー 膠原病 感染症 医学書院

評価方法

9 月終講試験（100 点満点）により評価する

周手術期看護				単 位 数	I	時 間 数	30
2 年次 4 月開講～9 月終講							
担当講師 松澤亜希子 田原裕美子 門脇玲子 他							
科目目標 1. 周手術期にある対象の特徴と看護の役割を理解する 2. 周手術期にある対象の身体・精神・社会的な側面からアセスメントできる能力を養う 3. 手術による生体の侵襲を最小にし、回復に向けた看護を理解する 4. 手術による変化に適応し、社会復帰できるための看護を理解する							
回数	学習 形態	学習目標		学習内容			
1	講義	周手術期看護の理念と専門性について理解できる		1. 周手術期看護の考え方 1) 周手術期看護の専門性と看護の役割 2) インフォームドコンセントにおける看護師の役割 3) 周手術期におけるリスクマネジメント			
2・3	講義	手術を必要とする対象の特徴が理解できる 手術・麻酔による侵襲と全身への影響が理解できる		2. 周手術期にある対象の特徴と理解 1) 手術を受ける対象の心理的特徴 2) 手術を受ける対象の身体的特徴			
4	講義	心身ともに最良の状態で手術に臨むための援助が理解できる		3. 手術前の看護 1) 全身状態を整えるための援助 2) 心理状態を整えるための援助 3) 手術前日・当日の援助			
5	講義	手術室における看護の役割が理解できる		4. 手術中の看護 1) 安全な手術のための環境管理 2) 手術室における看護の展開			
6～9	講義	術後合併症を予防し、回復に向けた看護が理解できる 手術後の継続看護について理解できる		5. 手術後の看護 1) 帰室時の援助 2) 術後疼痛緩和のための援助 3) 呼吸器合併症予防のための援助 4) 循環器合併症予防のための援助 5) 消化器合併症予防のための援助 6) 術後感染症予防のための援助 7) 創傷治癒促進のための援助 6. 手術後の継続看護 1) 手術による変化・喪失の受容支援 2) 社会復帰に向けた援助			
10	講義	集中治療を受ける対象の看護が理解できる		7. 集中治療を受ける対象の看護 1) 集中治療を受ける場と対象の特徴 2) 集中治療における看護師の役割 3) 集中治療における看護の実践			
11	講義	乳房切除術を受ける対象の術前術後の看護が理解できる		8. 乳房切除術を受ける対象の看護 1) 乳房切除術を受ける対象の特徴 2) 術前・術後の援助			

周手術期看護

12	講義	開胸術を受ける対象の術前術後の看護が理解できる	9. 開胸術を受ける対象の看護 1) 開胸術を受ける対象の特徴 2) 術前・術後の援助
13	講義	開腹術を受ける対象の術前術後の看護が理解できる	10. 開腹術を受ける対象の看護 1) 開腹術を受ける対象の特徴 2) 術前・術後の援助
14	講義	広汎子宮全摘出術を受ける対象の術前術後の看護が理解できる	11. 広汎子宮全摘出術を受ける対象の看護 1) 広汎子宮全摘出術を受ける対象の特徴 2) 術前・術後の援助
15	講義	開頭術を受ける対象の術前術後の看護が理解できる	12. 開頭術を受ける対象の看護 1) 開頭術を受ける対象の特徴 2) 術前・術後の援助

使用テキスト

池上 徹 他：系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院
 北川 雄光 他：系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論 医学書院
 川村 雅文 他：系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [2] 呼吸器 医学書院
 南川 雅子 他：系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [5] 消化器 医学書院
 井手 隆文 他：系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [7] 脳・神経 医学書院
 末岡 浩 他：系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [9] 女性生殖器 医学書院

必要な資料は、随時配布します。

評価方法

9月終講試験（100点満点）により評価する

慢性期看護				単 位 数	I	時 間 数	30
2 年次 4 月開講～9 月終講							
担当講師 山田久枝 大滝佐織 森美由紀 中島暁美							
科目目標 1. 慢性期にある対象の特徴と看護の役割について理解する 2. 生涯にわたりセルフケアを必要とする対象の健康上の問題をとらえ、対象への看護を理解する 3. 社会生活を継続していくための社会資源の活用について理解する 4. 放射線療法・化学療法を受ける対象への看護を理解する							
回数	学習 形態	学習目標		学習内容			
1・2	講義	1. 慢性期看護の概念が理解できる 2. 慢性期看護を必要とする対象の特徴と看護が理解できる		1. 慢性期の考え方 1) 慢性期看護とは 2) 慢性期疾患の特徴 3) 生活習慣病の予防とヘルプ・プロモーションの促進 2. 慢性期にある対象の特徴と理解 1) 慢性期にある対象の心理・社会的特徴 2) 疾病がライフサイクルに及ぼす影響 3) 疾病の受容過程 4) 慢性期疾患をもつ対象と家族 3. 慢性期にある対象への看護援助 1) 慢性期にある対象のQOL 2) 疾病の理解と受容過程への援助 3) 自己管理への取り組みを促す援助 4) 生涯にわたる自己管理の支援 5) 療養生活を支える社会資源の活用 6) 家族への支援			
3～5	講義	3. 慢性の栄養摂取・消化機能障害のある対象の看護が理解できる		4. 慢性の栄養摂取・消化機能障害のある対象の看護 1) 栄養摂取・消化機能障害の病態生理と治療 2) 肝硬変代償期・非代償期の対象の看護 3) 肝臓の対象の看護			
6・7	講義	4. 慢性の代謝機能障害のある対象の看護が理解できる		5. 慢性の代謝機能障害のある対象の看護 1) 代謝機能障害の病態生理と治療 2) 糖尿病の対象の看護			
8・9	講義	5. 慢性の内部環境調節障害のある対象の看護が理解できる		6. 慢性の内部環境調節障害のある対象の看護 1) 内部環境調節障害の病態生理と治療 2) 慢性腎不全の対象の看護			
10・11	講義	6. 放射線療法を受ける対象の看護が理解できる		7. 放射線療法を受ける対象の看護 1) 放射線療法とは 2) 放射線防護・管理の基本 3) 放射線療法の効果と副作用（有害事象） 4) 放射線療法時の援助			
12～15	講義	7. 化学療法を受ける対象の看護が理解できる		8. 化学療法を受ける対象の看護 1) 化学療法とは 2) 抗がん剤の種類と作用機序・効果判定 3) 抗がん剤の副作用（有害事象）と看護 4) 白血病の対象の看護			

慢性期看護

使用テキスト

大西和子他 : 成人看護学 成人看護学概論 ニューヴェルヒロカワ
飯野京子他 : 系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔4〕 血液・造血器 医学書院
南川雅子他 : 系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔5〕 消化器疾患 医学書院
吉岡成人他 : 系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔6〕 内分泌・代謝 医学書院
今井亜矢子他 : 系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔8〕 腎・泌尿器 医学書院
尾尻博也他 : 系統看護学講座 別巻 臨床放射線医学 医学書院
黒川 清他 : 腎臓病食品交換表 治療食の基準 第9版 医歯薬出版
日本糖尿病学会編: 糖尿病食事療法のための食品交換表 第7版 日本糖尿病学会・文光堂

評価方法

9月終講試験(100点満点)により評価する

リハビリテーション看護				単 位 数	I	時 間 数	30
2 年次 4 月開講～9 月終講							
担当講師 伴美智子 前田聡子 伊藤美鈴 田邊ひとみ 初原由美子 他							
科目目標 1. 身体の機能や形態に障害をもつ対象の特徴と看護の役割を理解する 2. 対象の障害の受容過程を学び、障害受容への看護を理解する 3. 残存機能を最大限に生かし、生活の再構築を支援するための看護を理解する							
回数	学習 形態	学習目標	学習内容				
I	講義	リハビリテーションの概要と特徴が理解できる	1. リハビリテーションとは 1) リハビリテーションの理念・歴史・定義 2) リハビリテーションの領域 2. 障害の分類と構造 1) 障害とは 2) 社会の障害への態度 3) 国際生活機能分類 (ICF) 3. リハビリテーションにおける倫理、法律、施策 1) 障害者の定義と動向 (障害者権利宣言、障害基本法、障害者の数の推移) 2) 障害者に関する主要概念 (ノーマライゼーション、QOL 等)				
2・3	講義	リハビリテーションを必要とする対象の特徴が理解できる リハビリテーション看護の概要と特徴が理解できる	4. リハビリテーション看護の実際 1) リハビリテーション看護の定義と目的 2) リハビリテーションを必要とする対象の特徴 3) リハビリテーションチームアプローチと看護の役割 4) リハビリテーションを必要とする対象への看護 (1) 生活の再構築とは (2) 主体性回復への支援 (3) 安全・安楽の確保 (4) 代償機能の活用 (5) 障害受容への支援 (6) 社会復帰への支援 (7) 家族への支援				
4～6	講義	運動機能に障害のある対象の看護が理解できる	5. 運動機能に障害のある対象の看護 1) 骨折のある対象の看護 (1) 骨折のある対象の特徴 (2) 骨折のある対象への援助 (3) ギプス療法を受ける対象の看護 2) 脊髄損傷のある対象の看護 (1) 脊髄損傷のある対象の特徴 (2) 脊髄損傷のある対象への援助				

リハビリテーション看護

7	講義	心臓リハビリテーションを必要とする対象の看護が理解できる	6. 心臓リハビリテーションを必要とする対象の看護 1) 心臓リハビリテーションの概念と目的 2) 心臓リハビリテーションの構成要素 3) 心臓リハビリテーション看護の実際
8・9	講義	排泄経路の形態に変更をきたした対象の看護が理解できる	7. 排泄機能に障害のある対象の看護 1) ストーマ造設術を受ける対象の特徴 2) ストーマ造設術を受ける対象への援助
10	講義		3) ストーマリハビリテーションの実際 4) 院内における皮膚・排泄ケア認定看護師の役割
11・12	講義	脳・神経系に障害のある対象の看護が理解できる	8. 脳・神経機能に障害のある対象の看護 1) 筋萎縮性側索硬化症の対象の特徴 2) 筋萎縮性側索硬化症の対象への援助
13・14	講義	発声機能を喪失した対象の看護が理解できる	9. 感覚機能に障害のある対象の看護 1) 喉頭全摘出術を受ける対象の特徴 2) 喉頭全摘出術を受ける対象への援助
15	講義		3) 発声機能を喪失し生活する人の体験談

使用テキスト

奥宮暁子 他 : ナーシング・グラフィカ 成人看護学⑤ リハビリテーション看護 メディカ出版
 北島政樹 編 : 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論 医学書院
 吉田俊子 他 : 系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔3〕循環器 医学書院
 南川雅子 他 : 系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔5〕消化器疾患 医学書院
 井手隆文 他 : 系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔7〕脳・神経 医学書院
 今井亜矢子 他 : 系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔8〕腎・泌尿器 医学書院
 田中 栄 他 : 系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔10〕運動器 医学書院
 小松浩子 他 : 系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔14〕耳鼻咽喉 医学書院

評価方法

9 月終講試験（100 点満点）により評価する

緩和・終末期看護				単 位 数	I	時 間 数	30
2 年次 7 月開講～12 月終講							
担当講師 前田聡子 田原裕美子 他							
科目目標 1. 緩和・終末期にある対象を理解する 2. 家族の特徴と看護の役割について理解する 3. 死を迎える対象の QOL 向上におけた看護について理解する 4. 人間の尊厳・告知・命の重要性などについての理解を深め、自己の死生観を養う							
回数	学習 形態	学習目標		学習内容			
I	講義	緩和・終末期看護の意義が理解できる 人間の生と死の理解が深められる		I. 緩和・終末期看護「人生の最終段階における医療とケア」 1. 緩和・終末期看護の考え方 1) 終末期における緩和ケア (1) 終末期とは (2) なぜ終末期看護が必要なのか (3) 終末期医療の問題			
2	講義			II. 緩和・終末期看護の歴史と現状 1. わが国の緩和ケアの歴史 2. 緩和・終末期にある人の療養の場 1) 一般病棟における緩和・終末期看護 2) 緩和ケア病棟・ホスピスにおける緩和・終末期看護 3) 在宅における緩和・終末期看護 3. 緩和ケアの必要性			
3	講義			III. 生死をめぐる倫理的問題 1. 人間の死について 2. 日本人の死生観 3. 生死をめぐる倫理的問題 1) 死の判定・脳死・臓器移植の問題 2) 尊厳死と安楽死 3) 終末期における鎮静の問題 4) 延命治療の問題 リビングウィル 5) 死生観について			
4・5	講義	終末期にある対象の特徴が理解できる		IV. 終末期にある対象の特徴と理解 1. 患者の特徴 1) 全人的苦痛とは 2) 身体的側面からの理解 3) 心理的側面からの理解 4) 社会的側面からの理解 5) 霊的特徴からの理解 2. 家族の特徴 1) 心理的反応 2) さまざまな対処行動 3) 予期的悲嘆			
6	講義	終末期にある対象への看護の役割が理解できる		V. 終末期にある対象への援助 1. 緩和・終末期看護の機能・目的 2. 主な医療チームメンバーの構成と看護の役割 3. 最期をどこで過ごすかという調整 4. 終末期の看護に関わるということ			

緩和・終末期看護

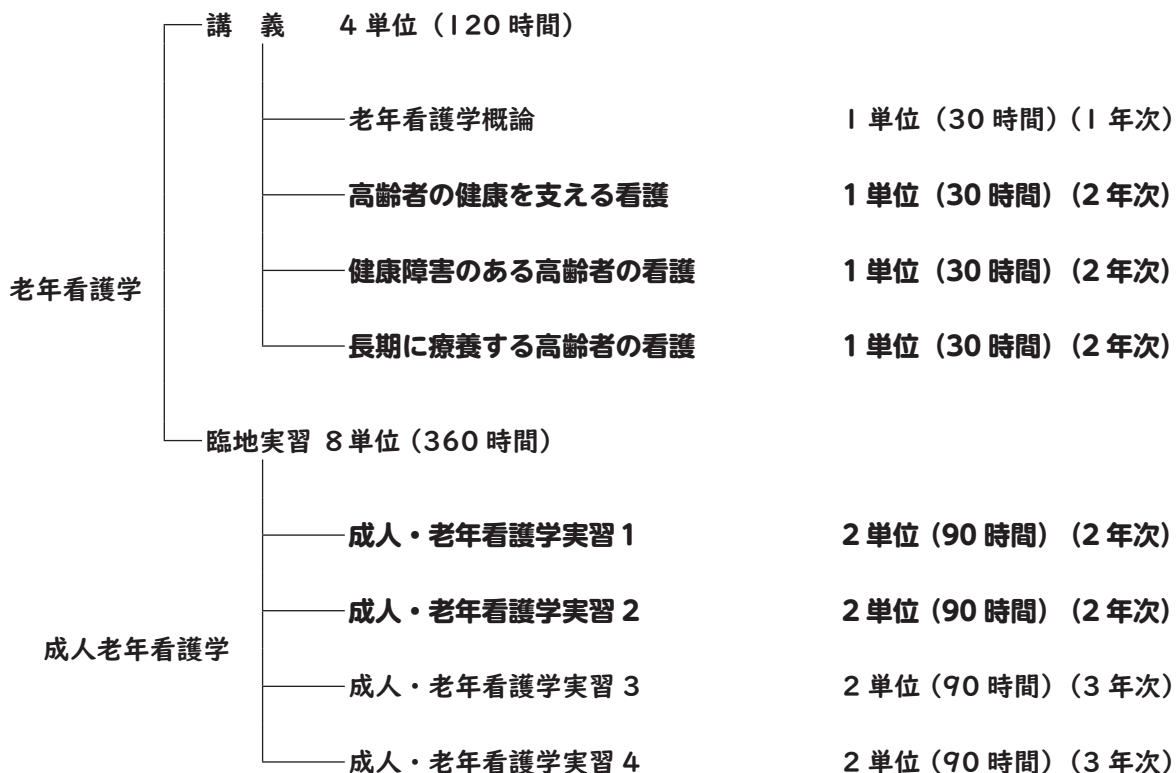
7～9	講義	身体的苦痛への援助が理解できる	VI. 終末期における緩和ケア 1. 痛みのある終末期の対象への援助 1) がん性疼痛の定義 2) がん性疼痛の分類 3) がん性疼痛に伴う全身的な反応 4) がん性疼痛の観察とアセスメント 5) WHO 方式がん疼痛治療法 6) 治療薬の種類と特徴 7) レスキュードーズ 8) オピオイド・スイッチング 9) がん性疼痛緩和のための看護
10	講義		2. 倦怠感のある終末期の対象への援助 1) 倦怠感とは 2) 倦怠感の原因 3) 倦怠感に対する援助 3. 呼吸器症状のある終末期の対象への援助 1) 呼吸困難とは 2) 呼吸困難の原因 3) 呼吸困難に対する援助
11	講義	精神的な支援が理解できる	4. 精神症状のある終末期の対象への援助 1) 終末期にある対象の不安・抑うつに対する援助 2) 終末期にある対象のせん妄に対する援助
12	講義	組織横断的に活動するチームおよびメンバーの役割について理解できる	VII. がん看護専門看護師の機能と役割 1. 病院内における緩和ケアチームの役割 2. がん看護専門看護の役割と看護の実践
13	講義	ホスピスケアについて理解を深めることができる	VIII. ホスピスケアの理念・現状 1. ホスピスケアと看護者の役割
14	講義	終末期にある対象を理解できる	IX. がんて闘病中の患者や病で愛する家族と死別を体験された家族の語り
15	講義	家族・遺族への看護について理解できる	X. 看取りと悲嘆への援助 1. 臨死期の援助 2. 臨終時の援助 3. 臨終後の家族の援助 4. 死後のケア 5. 悲嘆（グリーフ）への援助～ビリーブメントケア～ XI. 緩和・終末期看護を担うあなたへの支援
使用テキスト 田村恵子 編：経過別成人看護学④ 終末期看護：エンド・オブ・ライフ・ケア メヂカルフレンド社 参考図書 E. キューブラーロス著 川口正吉 訳：死ぬ瞬間 読売新聞社 1971年			
評価方法 12月終講試験（100点満点）により評価する			

老年看護学

1. 目的 老年期にある対象の特徴を理解し、加齢と健康障害の程度に応じた高齢者とその家族および支える人々の看護について学ぶ。

2. 目標
- 1) 生活する高齢者を総合的にとらえ、老年看護の対象を理解する。
 - 2) 社会構造の変化・高齢化に伴う高齢者の保健・医療・福祉の動向と課題を理解する。
 - 3) 加齢に伴う高齢者の健康状態の理解を深め、老年看護の機能と役割を理解する。
 - 4) 加齢・健康障害の程度に応じた高齢者と家族に必要な看護を理解する。
 - 5) 老年看護に必要な基本的な看護技術を習得する。
 - 6) 老年期にある対象の特徴と健康障害による問題を理解し、対象に応じた援助ができる。

3. 構成



高齢者の健康を支える看護				単 位 数	I	時 間 数	30
2 年次 4 月開講～9 月終講							
担当講師 大滝佐織 齊藤真梨恵 前田聡子 千葉早希子 山田久枝他							
科目目標 さまざまな健康状態にある高齢者と家族の生活および健康を支える看護を理解する							
回数	学習 形態	学習目標	学習内容				
1～4	講義	加齢・健康障害の程度に応じた看護が理解できる	1. 加齢・健康障害による日常生活の変化 2. 日常生活上の問題の特徴と看護 1) コミュニケーション 2) 環境 3) 活動と QOL 4) 睡眠と生活リズム 5) 清潔と衣生活 6) 食事と食生活 7) 排泄				
5～7	講義	高齢者に多い症状・健康状態に応じた看護が理解できる	1. 高齢者に多い症状・健康状態に応じた看護 1) 失禁 2) 脱水症・熱中症 3) 皮膚掻痒 4) 感染症 2. 外来診療・入院時の看護				
8～10	講義	認知症のある高齢者の看護が理解できる	1. 認知症高齢者の看護 1) 認知症とは 2) 認知症の分類・評価 3) 認知症高齢者への援助 4) 家族への援助 5) 社会資源の活用				
11	講義		2. 急性期医療における認知症高齢者の看護 認知症看護認定看護師の役割と実際				
12・13	講義	事故・災害に被災した高齢者の看護が理解できる	1. 高齢者の事故への看護 1) 転倒・転落 2) 誤嚥 3) 熱傷 2. 被災した際の高齢者の看護				
14・15	講義	終末期にある高齢者の看護が理解できる	1. 高齢者にとっての死 2. 意思決定への支援 1) リビングウィル・事前指示 2) アドバンス・ケア・プランニング 3) 意思決定のための看護の役割 3. 高齢者のエンド・オブ・ライフ・ケア				
使用テキスト 北川公子他：系統看護学講座 専門分野 老年看護学 医学書院 鳥羽研二他：系統看護学講座 専門分野 老年看護 病態・疾患論 医学書院 山勢博彰他：系統看護学講座 別巻 救急看護学 医学書院							
評価方法 9 月終講試験（100 点満点）により評価する							

健康障害のある高齢者の看護				単 位 数	I	時 間 数	30
2 年次 4 月開講～9 月終講							
担当講師 齊藤真梨恵 田邊ひとみ 山田久枝 初原由美子 田原裕美子 伴美智子 松澤亜希子 平田依理 他							
科目目標 1. さまざまな健康障害や受療状況にある高齢者の看護を理解する。 2. 高齢者に特有な疾患・障害の病態と要因、治療、予防と看護を理解する。							
回数	学習 形態	学習目標		学習内容			
1	講義	薬物療法や検査を受ける高齢者の看護が理解できる		1. 薬物療法を受ける高齢者の看護 2. 検査を受ける高齢者の看護			
2～4	講義	循環器系に障害のある高齢者の看護が理解できる		1. 高血圧症のある高齢者の看護 2. 慢性心不全のある高齢者の看護			
5・6	講義	呼吸器系に障害のある高齢者の看護が理解できる		1. 慢性閉塞性肺疾患のある高齢者の看護 2. 拘束性肺疾患のある高齢者の看護			
7～10	講義	脳・神経系に障害のある高齢者の看護が理解できる		1. 脳血管障害（高次脳機能障害を含む）のある高齢者の特徴 2. 各機能障害のある高齢者の看護 1) 運動障害 2) 嚥下障害 3) 高次脳機能障害（言語障害・失行） 3. パーキンソン症候群のある高齢者の看護			
11	講義	感覚器系に障害のある高齢者の看護が理解できる		1. 視覚障害のある高齢者の看護			
12	講義	免疫系に障害のある高齢者の看護が理解できる		1. 関節リウマチのある高齢者の看護			
13～15	講義	手術療法を受ける高齢者の看護が理解できる		1. 手術療法を受ける高齢者の看護			
				2. 経尿道的内視鏡術を受ける高齢者の看護			
				3. 人工骨頭置換術を受ける高齢者の看護			
使用テキスト							
北川公子他：系統看護学講座 専門分野 老年看護学 医学書院							
鳥羽研二他：系統看護学講座 専門分野 老年看護 病態・疾患論 医学書院							
浅野浩一郎他：系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔2〕呼吸器 医学書院							
吉田俊子他：系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔3〕循環器 医学書院							
井手隆文他：系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔7〕脳・神経 医学書院							
今井亜矢子他：系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔8〕腎・泌尿器 医学書院							
田中栄他：系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔10〕運動器 医学書院							
岩田健太郎他：系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔11〕アレルギー 膠原病 感染症 医学書院							
大鹿哲郎他：系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔13〕眼 医学書院							
池上徹他：系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院							
北川雄光他：系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論 医学書院							
評価方法							
9 月に筆記試験（100 点満点）を行う							

長期に療養する高齢者の看護				単 位 数	I	時 間 数	30
2 年次 9 月開講～12 月終講							
担当講師 大滝佐織 齊藤真梨恵 伴美智子 山田久枝 田原裕美子 中島暁美 桶土井清美 他							
科目目標 1. 長期にわたる療養が高齢者にもたらす影響と高齢者・家族の生活および健康を支える看護を理解する 2. 長期に療養する高齢者の看護に必要な看護技術を習得する 3. 老年看護に必要な看護過程の展開を理解する							
回数	学習 形態	学習目標		学習内容			
1～2	講義	活動の縮小が高齢者にもたらす影響を理解し、 加齢変化や障害と共に生きる高齢者への援助ができる		1. 活動の縮小による影響 1) フレイル (1) 定義・病態・疫学 (2) フレイルの指標・評価項目 (3) フレイルの予防と看護 2) 廃用症候群（生活不活発病） (1) 定義・特徴・疫学 (2) 病態とフレイルとの関係（褥瘡・骨粗鬆症） (3) 廃用症候群の予防的看護			
3	講義			2. 加齢変化や障害と共に生きる高齢者の看護 1) 生活機能障害の程度と現存する能力の評価 2) 高齢者のリハビリテーションの特徴と看護			
4 5～6	講義 演習			3) 移動動作の維持にむけたリハビリテーションの 実際 (1) 関節拘縮の予防・筋力低下予防のための自動 運動・他動運動 (2) 片麻痺のある高齢者の移動の介助			
7～8	演習			(3) 片麻痺のある高齢者の排泄・清潔の援助 ①オムツ交換・陰部洗浄 ②フットケア（爪切り）			
9～ 10	講義 個人ワーク			(4) 生活機能障害のある高齢者への運動・レクリエーションの企画・運営			
11	演習	摂食・嚥下障害のある高齢者への援助ができる		1. 摂食・嚥下障害のある高齢者への看護 1) 食事環境・摂食嚥下能力のアセスメント 2) 摂食・嚥下障害および失語症のある高齢者のリ ハビリテーションの実際			
12	講義			3) 摂食・嚥下障害看護認定看護師の役割と実際 (1) 摂食嚥下障害のある患者の口腔ケア (2) 基礎訓練（間接訓練）の方法と適応 (3) 基礎訓練（直接訓練）の方法と適応 ポジショニング・食形態・食具の選択・窒息 予防			
13 14	講義 演習			4) 摂食・嚥下障害のある高齢者の援助 (1) 経管栄養・PEGの特徴 (2) 口腔ケア・経管栄養の援助			

長期に療養する高齢者の看護

15	講義	高齢者を対象とした看護過程の展開が理解できる	高齢者の特徴をふまえた看護過程の展開 1) 目標志向型思考への転換 2) 高齢者の望む生活を目指した看護過程
使用テキスト			
泉キヨ子 他		: 看護実践のための根拠がわかる老年看護技術	メヂカルフレンド社
北川公子 他		: 系統看護学講座 専門分野 老年看護学	医学書院
鳥羽研二 他		: 系統看護学講座 専門分野 老年看護 病態・疾患論	医学書院
奥宮暁子 他		: ナーシンググラフィカ 成人看護学⑤	メディカ出版
田中栄 他		: 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [10] 運動器	医学書院
小松浩子 他		: 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [14] 耳鼻咽喉	医学書院
渋谷絹子 他		: 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [15] 歯・口腔	医学書院
評価方法			
課題学習と12月終講試験により総合的に評価する			

小児看護学

1. 目的

小児看護の対象となる子どもおよびその家族を理解し、成長発達に応じた養護と健康を障害された子どもおよびその家族に対する看護の基本となる知識、技術、態度を養う。
2. 目標

1) 子どもの成長発達の特徴と子どもを取り巻く環境を理解し、小児看護の目的および役割について理解する。

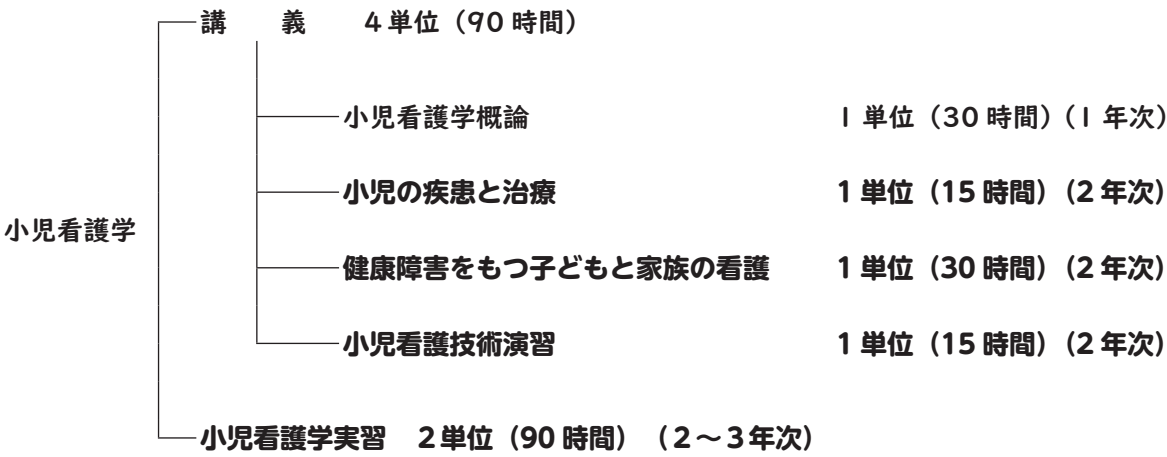
2) 健康な子どもの日常生活の特徴を理解し、対象に応じた看護ができるための基本的知識と技術を習得する。

3) 子どもに特有な健康障害の問題（疾患・主要症状）を理解する。

4) 健康を障害された子どもとその家族に看護ができるように基本的知識と技術を習得する。

5) 対象の特徴を理解し、成長発達を促すとともに、健康障害のある子どもとその家族への看護ができる。

3. 構成



小児の疾患と治療				単 位 数	I	時 間 数	15
2 年次 4 月開講～7 月終講							
担当講師 秋山政晴 小林正久 平野大志 飯倉克人 田嶋朝子 伊藤怜司 池本 智 黒部 仁							
科目目標 小児特有の疾患・症状を理解する							
回数	学習 形態	学習目標	学習内容				
1	講義	1. 小児特有の疾患・症状・治療 を理解することができる 2. 小児特有の疾患が身体に及ぼ す影響について理解できる	【先天異常・内分泌・代謝疾患】 1. 先天異常の分類・遺伝子と染色体 2. 小児糖尿病				
2	講義		【呼吸器・アレルギー疾患】 1. 乳幼児の呼吸器疾患の特徴 2. アレルギー（アナフィラキシーショック） 3. アトピー性皮膚炎 4. 小児気管支喘息				
3	講義		【血液疾患と腫瘍】 1. 小児白血病（化学療法・骨髄移植） 2. 神経芽腫 3. 血友病 4. 血管性紫斑病				
4	講義		【循環器疾患】 1. 小児循環器疾患の特徴 2. 心室中隔欠損症・心房中隔欠損症 ファロー四徴症 心内膜欠損症 動脈管開存 3. 川崎病				
5	講義		【感染症 腎・泌尿器疾患】 1. 感染症の診断 2. 細菌感染症：細菌性（化膿性）髄膜炎 3. ウイルス感染症：RS ウイルス 4. 糸球体疾患（糸球体腎炎・IgA 腎症・微小変化型ネフ ローゼ症候群） 5. 尿路感染症				
6	講義		【神経・精神疾患】 1. 脳性麻痺、熱性痙攣、小児欠神てんかん 2. 発達障害：多動性障害、自閉スペクトラム症				
7	講義		【新生児・低出生体重児の疾患】 1. 新生児仮死・呼吸窮迫症候群 2. 頭蓋内出血 3. 慢性肺疾患・無呼吸発作				
8	講義		【小児外科】 1. 幽門狭窄症・腸重積症・ヒルシュスプルング病・鎖肛 2. 先天性胆道閉鎖症 3. 二分脊椎				
使用テキスト 奈良間美保他：系統看護学講座 専門分野 小児看護学概論 小児臨床看護総論 小児看護学① 医学書院 奈良間美保他：系統看護学講座 専門分野 小児臨床看護各論 小児看護学② 医学書院							
評価方法 7 月終講試験（100 点満点）により評価する							

健康障害をもつ子どもと家族の看護				単 位 数	I	時 間 数	30
2 年次 4 月開講～9 月終講							
担当講師 吉田恵美 他							
科目目標 健康を障害された子どもとその家族への看護について理解する							
回数	学習 形態	学習目標	学習内容				
1・2	講義	健康を障害された子どもとその家族について理解できる	1. 病気の理解と発達に応じた説明 2. 病気や治療・入院が子どもに与える影響 3. 健康障害を持つ子どもの親・きょうだいへの支援				
3	講義	子どもの状況（環境）に特徴づけられる看護について理解できる	1. 入院中の子どもと家族の看護 2. 外来における子どもと家族の看護 3. 災害時の子どもと家族の看護				
4	講義	子どものアセスメントについて理解できる	1. 子どものアセスメントに必要な技術 コミュニケーション バイタルサイン 2. 身体的アセスメント				
5	講義	慢性期にある子どもと家族の看護が理解できる	1. 在宅療養中の子どもと家族の看護 2. 慢性期にある子どもと家族の看護 3. 在宅・地域で医療的ケアを必要とする子どもと家族への指導 気管支喘息をもつ子どもの家族の看護 糖尿病を持つ子どもと家族の看護				
6・7	講義	治療・処置に伴う苦痛が大きい子どもの看護が理解できる	1. 治療処置・検査を受ける子どもと家族の反応 2. 治療・処置におけるプレパレーション（採血、採尿、酸素療法、吸入、吸引）				
8・9	講義	急性症状のある子どもの看護が理解できる	1. 小児にみられる主な症状の特徴 発熱・嘔吐・下痢・脱水・けいれん 2. 急性リンパ性白血病の小児の看護 化学療法・腰椎穿刺・骨髄穿刺				
10	講義	周手術期にある子どもの看護が理解できる	1. 小児の手術の特徴 2. 周手術期の援助（プレパレーション） 3. 退院に向けての支援				
11	講義	低出生体重児の看護が理解できる	1. 低出生体重児の特徴 2. 低出生体重児と家族への援助（ファミリーケア）				
12	講義	先天性の障害をもつ子どもの看護が理解できる	1. 障害の子どもをもつ家族の受容過程 2. 先天異常の種類と特徴 3. 小児と家族の生活調整への支援				
13	講義	心身障害をもつ子どもの看護が理解できる	1. 重症心身障害とは 2. 重症児の主要な原因 3. 重症児心身障害児の看護				
14	講義	終末期にある子どもと家族への看護が理解できる	1. 死の概念の発達 2. 終末期の子どもと家族への援助				
15	講義	健康障害を持ち地域で暮らす子どもと家族の生活が理解できる	1. 聾話学校における教育 2. 聴覚障害をもつ子どもへの関わり				
使用テキスト 奈良間美保他：系統看護学講座 専門分野 小児看護学概論 小児臨床看護総論 小児看護学① 医学書院 奈良間美保他：系統看護学講座 専門分野 小児臨床看護各論 小児看護学② 医学書院							
評価方法 9 月終講試験（100 点満点）により評価する							

小児看護技術演習				単 位 数	1	時 間 数	15
2 年次 9 月開講～12 月終講講							
担当講師 吉田恵美 伊藤美鈴 他							
科目目標 1. 小児看護に必要な基礎的な援助技術を習得する 2. 小児看護に必要な看護過程の展開について学ぶ							
回数	学習 形態	学習目標	学習内容				
1	演習	年齢に応じたバイタルサイン測定 ができる	1. 子どものバイタルサイン測定 年齢に応じた方法と留意点 2. 呼吸・心拍・血圧・体温測定				
2	演習	年齢や症状に応じた清潔の援助が できる	1. 乳幼児の清拭 2. 衣服の着脱 3. 乳児の臀部浴				
3	作成 発表	発達段階、病態の安静度に応じた 遊びを企画し、玩具が作成できる	1. 健康障害を持つ子どもに応じた遊びの企画・ 玩具の作成 2. 健康障害、発達段階に応じた遊びの発表				
4	演習 ロール プレイ	子どもの状況に応じた与薬の援助 ができる	1. 子どもに経口与薬を行なうための方法 プレパレーション・内服の工夫 2. 点滴静脈内注射の固定方法と安全な環境				
5	演習	授乳・離乳食の援助ができる	1. 離乳食の献立の作成と試食 2. 授乳方法（準備と飲ませ方） 3. 小児の経管栄養				
6～8	演習 個人 ワーク	発達段階を踏まえた看護過程の展 開方法が理解できる	【小児の特徴を踏まえた看護過程の展開】 1. 子ども・家族の特徴を捉えた情報収集 2. 症状・成長発達の視点から考える情報の分析 3. 子ども・家族の看護目標 4. 子ども・家族の看護計画				
使用テキスト 奈良間美保他：系統看護学講座 専門分野 小児看護学概論 小児臨床看護総論 小児看護学① 医学書院 奈良間美保他：系統看護学講座 専門分野 小児臨床看護各論 小児看護学② 医学書院							
参考図書 東京都看護協会 会長 山元恵子 監修：写真でわかる小児看護技術アドバンス インターメディカ							
評価方法 出席時間、事前・事後学習の提出、看護過程の最終提出で評価する							

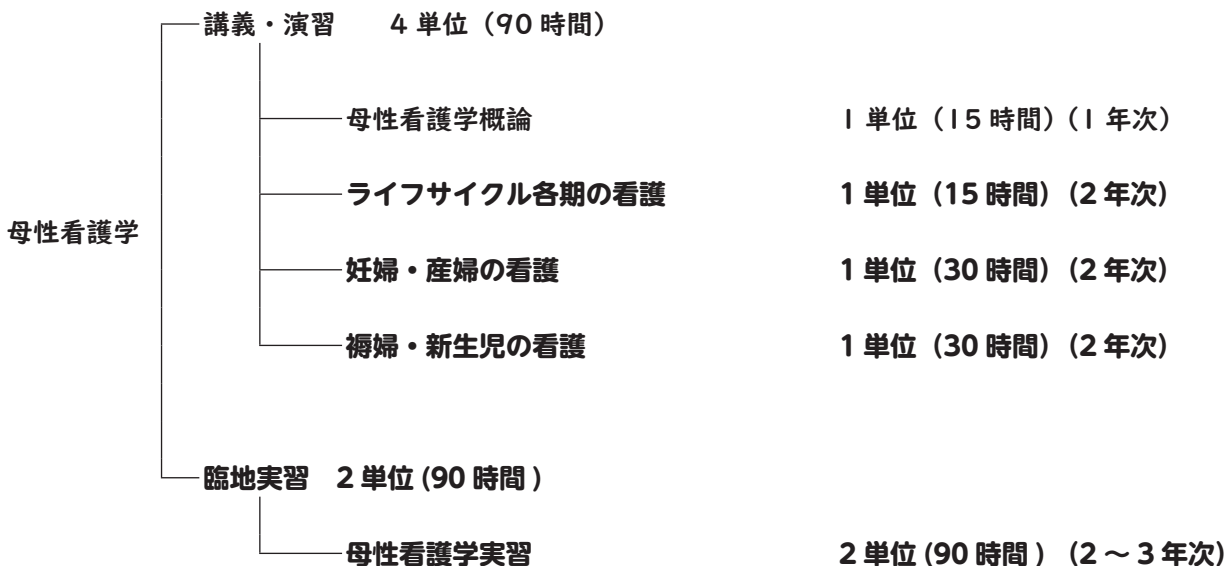
母性看護学

1. 目的 人のもつ種族保存の働き（生殖）とその意義、女性のライフサイクル各期における特徴と保健を理解するとともに、妊娠・分娩・産褥・新生児期にある人の看護を実践するための基礎的知識、技術、態度を養う。

2. 目標

- 1) 人の種族保存あるいは生殖の意義を理解すると共に、母性の概念および母性の特性を知り、母性看護の目的を理解する。
- 2) 母性看護の対象となる人のライフサイクルにおける特徴と看護を理解する。
- 3) 周産期の生理を理解し、周産期にある母性と胎児および新生児、そして家族を対象とし、健康問題を解決するための援助、および方法を理解する。
- 4) 周産期にある母性および新生児の特徴を理解し、対象に必要な看護と保健指導を行うための基礎的能力を養う。

3. 構成



ライフサイクル各期の看護				単 位 数	I	時 間 数	15
I 年次 4 月開講～7 月終講							
担当講師 柏倉宏美							
科目目標 1. 女性のライフサイクルにおける特徴と保健について理解する 2. ライフサイクルにおいて起こり得る女性の健康上の問題および看護について理解する							
回数	学習 形態	学習目標		学習内容			
1	講義	ライフサイクルにおける女性の健康と看護の必要性が理解できる		1. ライフサイクル各期における対象理解と健康管理 1) 女性のライフサイクルにおける形態・機能の変化 2) ライフサイクルにおける女性の健康と看護の必要性 3) ライフサイクル各期の健康問題と看護			
2	講義	思春期にある人の特徴が理解できる		2. 思春期の健康と看護 1) 思春期の特徴 (1) 身体的特徴 (2) 心理・社会的特徴			
3・4	講義	思春期にある人の健康問題と看護が理解できる		2) 思春期における健康問題と看護 (1) 月経異常 (2) 思春期貧血 (3) 性がもたらす問題の多様化 3) 思春期の健康教育 (1) 健やか親子 21 (2) 日常生活教育 (3) 月経に関する教育 (4) 性教育			
5	講義	成熟期にある人の看護が理解できる		3. 成熟期の健康と看護 1) 成熟期の特徴 (1) 身体的特徴 (2) 心理・社会的特徴			
6・7	講義	成熟期にある人の健康問題と看護が理解できる		2) 成熟期における健康問題と看護 (1) 月経前症候群 (2) 成熟期に起こりやすい健康障害 (3) 親になる選択の問題 (4) 性暴力・DV 3) 成熟期の健康教育 (1) 女性のセルフコントロールへの支援 (2) 子育てへの支援			
8	講義	更年期にある人の特徴と看護が理解できる		4. 更年期の健康と看護 1) 更年期女性の特徴 2) 更年期における健康問題と看護 3) 更年期女性の健康教育			
使用テキスト 森 恵美他 : 系統看護学講座 専門分野 母性看護学① 母性看護学概論 医学書院 森 恵美他 : 系統看護学講座 専門分野 母性看護学② 母性看護学各論 医学書院 参考図書 田中 栄他 : 系統看護学講座 専門分野 成人看護学⑨ 女性生殖器 医学書院 医療情報科学研究所編集: 病気がみえる Vol.9 婦人科・乳腺外科 メディックメディア							
授業を受ける際の留意点 母性に関連する最新情報や動向を新聞・雑誌・テレビ・インターネット等でキャッチしてください 自分の母性について認識し、日常生活の中で健康（性的健康含）が管理できるようにしましょう							
評価方法 7 月終講試験（100 点満点）により評価する							

妊婦・産婦の看護				単 位 数	I	時 間 数	30
2 年次 4 月開講～9 月終講							
担当講師 桶谷礼子 柏倉宏美							
科目目標 1. 妊娠の経過と看護について理解する 2. 分娩の経過と看護について理解する							
回数	学習 形態	学習目標	学習内容				
1	講義	妊娠の経過と胎児の発育について理解できる	1. 妊娠期の身体的特徴 1) 妊娠の生理 2) 胎児の発育とその生理 3) 母体の生理的变化				
2	講義	妊婦の心理について理解できる	1. 妊婦の心理的特徴 1) 妊娠への適応と心理 2) 妊娠各期の心理的特徴				
3～5	講義	妊婦の看護について理解できる	1. 妊婦と胎児のアセスメント 2. 母子の健康を保つための看護 1) 妊娠初期 2) 妊娠中期 3) 妊娠末期				
6	講義	ハイリスク妊娠の概念と異常の予防について理解できる 異常妊娠とその看護について理解できる	1. ハイリスク妊娠 1) ハイリスク妊娠とは 2. 妊娠の異常と看護 流産、早産、感染症、妊娠高血圧症候群 妊娠糖尿病				
7	講義	妊婦の看護について理解できる	1. 妊娠の経過と看護のまとめ				
8・9	演習	妊婦の看護の実際について理解できる	1. 妊婦体験 2. 妊婦の健康診査 腹囲・子宮底の測定 レオポルド触診法 心拍の聴取				
10	講義	分娩の経過と胎児の健康状態について理解できる	1. 分娩の生理と経過 2. 産婦の健康診査 1) 分娩の進行状態 2) 胎児の健康度				
11	講義	産婦と家族の心理について理解できる	1. 産婦の心理的特徴 1) 分娩経過と心理的变化 2) 家族の心理と支援				
12～14	講義	分娩の進行状態に合わせた看護について理解できる	1. 産婦・胎児のアセスメント 2. 分娩の経過と看護 1) 入院時の看護 2) 分娩第1期～第4期の看護				
15	講義	ハイリスクな状況にある産婦の看護について理解できる	1. 分娩の異常と看護 前期破水、産科出血、胎児機能不全、帝王切開術後				
使用テキスト 森 恵美 他：系統看護学講座 専門分野 母性看護学① 母性看護学概論 医学書院 森 恵美 他：系統看護学講座 専門分野 母性看護学② 母性看護学各論 医学書院 医療情報科学研究所編集：病気がみえる Vol.10 産科 メディックメディア							
評価方法 9 月終講試験（100 点満点）により評価する							

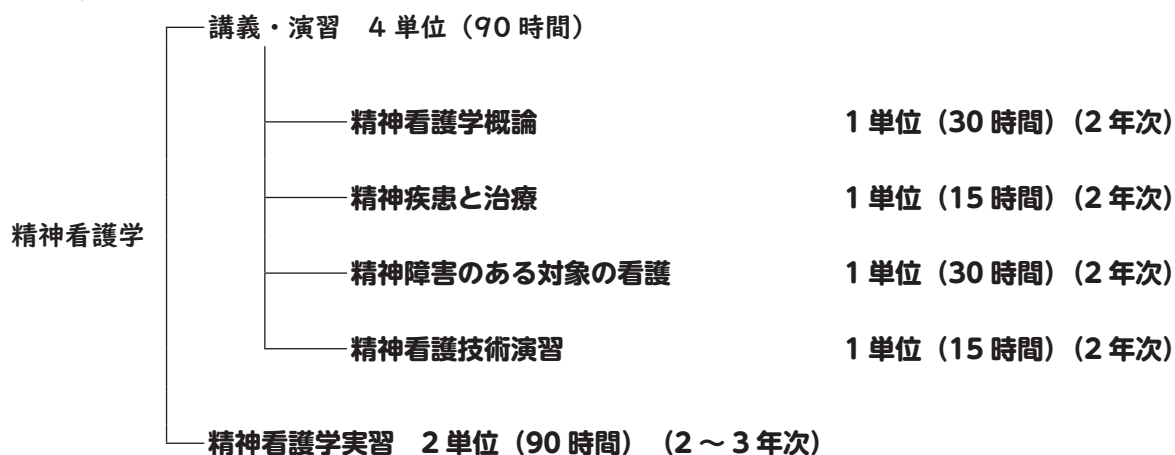
褥婦・新生児の看護				単 位 数	I	時 間 数	30
2 年次 10 月開講～12 月終講							
担当講師 柏倉宏美 前田聡子 他							
科目目標 1.産褥期の経過と看護について理解できる 2.新生児期の経過と看護について理解できる							
回数	学習 形態	学習目標		学習内容			
1	講義	産褥期の経過について理解できる		1.産褥の生理と経過 2.褥婦の健康診査			
2	講義	褥婦の心理について理解できる		1.褥婦の心理的特徴 2.家族の心理			
3・4	講義	褥婦の日常生活とセルフケアについて理解できる		1.褥婦のアセスメント 2.褥婦の健康を促す看護 1)産褥復古を促す看護 2)母乳育児を促す看護 3)育児技術習得のための援助 4)退院後の生活を円滑に進めるための援助			
5～8	演習	褥婦への看護過程の展開方法が理解できる		1.正常な経過をたどる褥婦の看護過程の展開			
9	講義	産褥の異常とその看護について理解できる		1.産褥の異常と看護 子宮復古不全、産褥熱、乳腺炎、産後うつ 帝王切開術、死産 2.児を亡くした褥婦、家族への看護			
10	演習	褥婦の看護の実際について理解できる		1.褥婦への看護 1)産褥復古状態の観察 2)授乳への援助			
11・12	講義	新生児期の経過について理解できる		1.新生児の生理と経過 1)新生児の健康と発育のアセスメント 2.新生児の日常生活の援助 1)保育環境			
13・14	講義	新生児の異常と看護について理解できる		1.新生児の異常と看護 新生児の健康逸脱、新生児仮死、早産児、 低出生体重児 2.児に健康上の問題がある時の家族への看護			
15	演習	新生児の看護の実際について理解できる		1.新生児への看護 1)新生児の観察 2)沐浴			
使用テキスト 森 恵美 他：系統看護学講座 専門分野 母性看護学② 母性看護学各論 医学書院 医療情報科学研究所編集：病気がみえる Vol.10 産科 メディックメディア							
参考図書 森 恵美 他：系統看護学講座 専門分野 母性看護学① 母性看護学概論 医学書院 馬場 一憲 編集：目でみる妊娠と出産 文光堂 平澤 美恵子 監修：写真でわかる母性看護技術アドバンス インターメディカ							
評価方法 「褥婦の看護過程の展開」の課題提出と12月終講試験により評価する							

精神看護学

1. 目的 人間の精神の健康を成長・発達と社会適応の面から捉え、精神の健康の保持・増進、予防および精神障害のある対象の看護を学ぶ。

2. 目標
- 1) 人間の心の発達と健康について多角的に学び、精神看護の対象についての理解を広げる。
 - 2) 精神保健・医療・福祉の動向を学び、現代社会に生きる人々に対する精神看護の意義と役割について理解する。
 - 3) 精神障害と治療について理解する。
 - 4) 精神障害がもたらす症状が対象に及ぼす影響を知り援助方法を理解する。
 - 5) 精神障害のある対象を理解し、その状態に応じた看護の実践を学ぶ。

3. 構成



精神看護学概論			単 位 数	I	時 間 数	30
2 年次 4 月開講～9 月終講						
担当講師 伴 美智子 松澤亜希子 他						
科目目標 1. 心の発達と健康について学び、精神看護の意義を理解する 2. 精神保健・医療・福祉の動向と課題について理解する 3. 精神看護の対象について学び、精神看護の機能と役割について理解する						
回数	学習 形態	学習目標	学習内容			
1	講義	精神看護学の目的と意義が理解できる	1. 「心のケア」と現代社会 2. 精神看護学とその課題 3. 精神障害のとらえ方			
2～4	講義	人間の心のはたらきについて理解できる	1. 人格と気質 2. 心の構造と働き ・脳の仕組みと神経伝達物質 ・精神機能と障害 3. 精神分析学的概念			
5	講義	人間の心の発達と健康について理解できる	1. ライフサイクルと心の発達 ・成長発達理論（ワトソン・ピアジェ） ・フロイトの自我の発達理論 ・エリクソンの漸成的発達理論			
6～8	講義		2. 人格形成と情緒体験 ・対象関係論の基本的な考え方 3. 心身の健康の相関関係 ・ストレスと不安 4. 危機状況と心の働き ・危機理論 嗜癖と依存			
9～11	講義	精神保健・医療・福祉の動向が理解できる	1. 精神医療と看護の変遷 2. 精神保健福祉活動と法制度 3. 精神看護の倫理と人権擁護			
12～14	講義	精神看護の役割と機能が理解できる	1. ケアにおける人間関係 2. リスクマネジメント コンサルテーション・リエゾン精神看護（CNS）			
15	演習	音楽療法の意義が理解できる	1. 音楽療法とは 心の健康と音楽（体験学習）			
使用テキスト 武井麻子：系統看護学講座 専門分野 精神看護学〔1〕 精神看護の基礎 医学書院 武井麻子：系統看護学講座 専門分野 精神看護学〔2〕 精神看護の展開 医学書院 参考図書 厚生統計協会：国民衛生の動向						
評価方法 9 月終講試験（100 点満点）により評価する						

精神疾患と治療				単 位 数	1	時 間 数	15
2 年次 4 月開講～ 6 月終講							
担当講師 阿部健太 中澤亜美 森 啓輔 山田洸大							
科目目標 精神障害と治療について理解する							
回数	学習 形態	学習目標	学習内容				
1～8	講義	精神障害のある対象を理解するために必要な基礎的知識が理解できる	1. 精神障害の理解 1) 精神障害の分類 2) 精神症状の理解 2. 精神疾患と治療 1) 統合失調症 2) 気分（感情）障害 3) 神経性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害 4) 生理的障害および身体要因に関連した行動障害 （摂食障害・睡眠障害・性同一性障害など） 5) パーソナリティ障害 6) 器質性精神障害 （認知症・精神作用物質使用による精神障害・症状精神病） 7) 児童精神領域の疾患 （てんかん・精神遅滞・心理発達障害・行動情緒障害・心身症など） *精神科治療と検査 ・薬物療法 ・精神療法・認知行動療法 ・修正型電気けいれん療法 ・検査（脳波・脳画像検査・心理性格検査）				
使用テキスト							
武井麻子：系統看護学講座 専門分野 精神看護学〔 1 〕 精神看護の基礎 医学書院							
武井麻子：系統看護学講座 専門分野 精神看護学〔 2 〕 精神看護の展開 医学書院							
評価方法							
7 月終講試験（100 点満点）により評価する							

精神障害のある対象の看護				単 位 数	I	時 間 数	30
2 年次 9 月開講～12 月終講							
担当講師 伴 美智子 阿部 一昭精神看護認定看護師・八峠 路子作業療法士 佐藤 孝紀看護師 小澤 美穂看護師 本間 紀子保健師							
科目目標 1. 精神障害のある対象を理解し、精神看護における看護の役割について学ぶ 2. 精神保健医療福祉チームにおける看護の役割を理解する							
回数	学習 形態	学習目標	学習内容				
1・2	講義	対象の観察の視点とアセスメントについて理解できる	1. 精神障害のある対象への援助の基本 1) 精神の健康を保持するためのセルフケア 2) 対象の観察とアセスメント 3) 入院環境と看護				
3～5	講義	精神科の治療を受ける対象の看護が理解できる	2. 治療を受ける対象の看護 1) 薬物療法・修正型電気痙攣療法（m-ECT）を受ける対象の援助 2) 作業療法を受ける対象の看護 3) SST・認知行動療法を受ける対象の援助				
6～8	講義	回復段階の特徴を知り、対象の看護が理解できる	3. 回復段階に応じた対象の看護 1) 急性期にある対象の援助 2) 回復期・慢性期にある対象の援助 3) 地域移行期にある対象の援助				
9	講義	対象の状態に合わせた看護が理解できる	4. 主な症状・状態にある対象の看護 1) 幻覚・妄想のある対象の援助				
10			2) うつ状態・躁状態にある対象の援助				
11～14			3) 強迫行為・解離・パニックのある対象の援助 4) 操作・試し行為・自傷行為のある対象の援助 5) 嗜癖・依存のある対象の援助 6) 児童・思春期における精神障害のある対象の援助				
15	講義	精神障害のある対象の地域生活支援における看護職の役割および職種間の連携を理解できる	5. 精神障害のある対象の地域生活支援 1) 市町村の保健師による精神保健活動 ・一次予防的活動・地域ケア体制づくり 2) 精神障害者の地域生活支援の実際 ・対応事例 ・地域その他機関・他職種との連携				
使用テキスト 武井麻子：系統看護学講座 専門分野 精神看護学〔1〕 精神看護の基礎 医学書院 武井麻子：系統看護学講座 専門分野 精神看護学〔2〕 精神看護の展開 医学書院 坂田三充：精神疾患・高齢者の精神障害の理解と看護 中央法規出版							
評価方法 12 月終講試験（100 点満点）により評価する							

精神看護技術演習				単 位 数	1	時 間 数	15
2 年次 9 月開講～12 月終講							
担当講師 伴美智子 松澤亜希子							
科目目標 1. 患者－看護師関係の発展に必要な技術について学ぶ 2. 精神障害のある対象の看護過程の展開について学ぶ							
回数	学習 形態	学習目標	学習内容				
1～4	講義 演習	看護場面の再構成について理解できる	1. 患者－看護師関係の理解（講義） 2. 看護場面における再構成の方法（講義） 3. ロールプレイによる再構成の実際（GW） *課題：「場面の再構成：様式 A・様式 B」 4. 精神看護学実習事例の検討（GW） 5. 当事者の体験から学ぶ ―幻聴かるた				
5～8	演習	精神障害のある対象の看護過程の展開方法が理解できる	1. 統合失調症患者の理解（講義） 1) 情報収集 2) 統合失調症患者の看護 3) 演習の導入 2. 障害された機能が全身に及ぼす影響（講義） 3. 日常生活の規制と患者・家族の反応から援助の方向性を導く *課題：GW と発表 4. 看護計画の立案 *課題：GW と発表 5. 当事者の体験から学ぶ（DVD 視聴）				
使用テキスト 武井麻子：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学〔1〕 精神看護の基礎 医学書院 武井麻子：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学〔2〕 精神看護の展開 医学書院 宮本真巳：改訂版 看護場面の再構成 日本看護協会 坂田三充：精神疾患・高齢者の精神障害の理解と看護 中央法規出版							
評価方法 出席時間、「看護場面の再構成」課題の提出状況、「看護過程の展開」課題内容、参加状況で評価する							

3 年次

(74 期生)

文化人類学		単 位 数	1	時 間 数	15
3 年次 4 月開講～12 月終講					
担当講師 杉井純一					
科目目標 さまざま文化を学び、多様な文化・社会・価値観があることを理解する					
講義内容		現代世界では、仕事や観光、あるいは移民や難民といった理由で多くの人が絶えず各地を移動しています。それゆえ、私たちは自分とは異なる言語、習慣を持ち、独自の信仰や価値観を持つ人々との出会いを経験します。異質な人々が行き交う世界に生きる私たちは以前にもましてコミュニケーションの困難に遭遇します。お互いが先入観や偏見にとらわれず、十分な意思疎通を図るためには、相互の民族的、文化的背景への理解が前提となるでしょう。文化人類学はフィールドワークという方法を用いて、異民族の生活に入り込み、日々の出来事や人間関係を詳細に記録します。そして、その民族誌をもとに、それぞれの民族の個性を明らかにすることで、「人間とは何か」という普遍的な問いに答えようとする学問なのです。講義予定は以下のとおりです。 1 人間と文化（文化人類学とは何か 文化とは何か） 2 文化人類学と質的研究（マリノフスキーとフィールドワーク） 3 個人・家族・コミュニティ（家族と親族 地域共同体） 4 人生と通過儀礼（儀礼の種類と構造 人生儀礼） 5 宗教と世界観（呪術と宗教 神話とコスモロジー） 6 健康・病気・医療（健康と病気 医療の文化的体系） 7 人間と死（医療と死 死者儀礼と不浄観念）			
使用テキスト 波平恵美子 他：系統看護学講座 基礎分野 文化人類学 医学書院 授業時にプリントを配布し、それに基づいて講義を進めます また、関連する映像を視聴し、その感想文を書きます					
評価方法 出席・課題等で総合的に評価します					

医療社会学		単 位 数	1	時 間 数	15
3 年次 4 月 開講～12 月終講					
担当講師 前田聡子 他					
科目目標 保健・医療・福祉に関する知見を広げ、専門職としての自らの考え方を深める					
講義内容 1. 自主選択活動（12 時間） さまざまな団体、組織が運営、企画する講演会や学習会、またはボランティア活動などを選択する。「参加計画書」を記載して参加し、参加後にレポートを作成する ・自分で参加する講演会や学習会、ボランティア活動などを検索し、選択する 2. 規定講演（4 時間） 学校が指定した保健・医療・福祉に関する講演会に参加し、学びについてレポートを提出する レポートは原則として学校指定用紙に記載する					
留意事項 1) 開講時、学習内容・学習方法についてオリエンテーションする 2) 「参加計画書」＊ は、開講時全員に配布する 3) 規定講演の日時・講演内容は、決定しだい提示する 4) 自主選択活動・規定講演のレポート提出場所・期日は別途指示する 5) 講義内容が変更になる場合がある					
評価方法 自主選択講演・規定講演の出席、レポートの内容を合わせて 100 点満点で評価する					

臨床倫理				単 位 数	1	時 間 数	15
3 年次 10 月開講～ 12 月終講							
担当講師 三浦靖彦 竹内千仙 稲川早苗 赤間美穂 佐藤孝紀 桶土井清美 前田聡子 柏倉宏美							
科目目標 1. 臨床倫理の考え方を理解する 2. 看護実践における倫理的問題について考え、解決法（アプローチ法）を理解する 3. 自己の倫理観を考える							
回数	学習 形態	学習目標	学習内容				
1	講義	臨床倫理の必要性、臨床倫理の原則・症例検討方法が理解できる	1. 臨床倫理とは 1) 現代の医療現場における臨床倫理の必要性 2) 臨床倫理の原則 （1）ビーチャムとチルドレス （2）清水哲郎 3) 臨床倫理の症例検討方法 （1）jonsen の 4 分割表 （2）臨床倫理検討シート				
2	講義	意思決定支援、アドバンス・ケア・プランニングにおける倫理がわかる。	2. 意思決定支援、アドバンス・ケア・プランニング 1) 意思決定能力とは 2) アドバンス・ケア・プランニングとは 3) 地域連携とアドバンス・ケア・プランニング				
3	講義	生命倫理について考えることができる	3. 遺伝子診療における倫理				
4	講義		4. 不妊治療における倫理				
5	講義	高齢者の倫理について考えることができる	5. 認知症患者の看護と倫理				
6	講義	精神障害者の倫理について考えることができる	6. 精神障害のある対象の看護と倫理				
7・8	GW	事例を通して、倫理的問題と看護の役割について考えることができる	1. 事例について倫理的観点から対応策を検討する				
使用テキスト 宮坂道夫他：系統看護学講座 別巻 看護倫理 医学書院							
評価方法 出席、取り組み、課題で総合的に評価する							

看護関係法令		単 位 数	1	時 間 数	15
3 年次 1 0 月開講～1 2 月終講					
担当講師 前田聡子 宗像 雄					
科目目標 看護を中心とする関係法令を学び、看護師としての責任と義務について理解する					
講義内容	1. 看護に必要な法令 対象に安全で質の高い看護を提供するために、また、医療者としての責任を果たし、自らの立場を理解して行動するためにも、専門職として必要な法律、条令、規則などを理解し、それらを遵守する姿勢が期待される。 この科目では、看護職の身分、業務などを規定した「保健師助産師看護師法」、「看護師等の人材確保の促進に関する法律」、医療チームとして協働する医師を規定した「医師法」、医療全体にかかわる「医療法」など、様々な法律と、実際に起きている問題などを例に挙げながら学習する これらの学習を通して、看護職の責務について各自が理解を深められるようにしたい。				
	1) 法律の沿革 2) 保健師助産師看護師法 3) 看護師等の人材確保の促進に関する法律 4) 医療法 5) 保健衛生法 6) 社会保険法 7) 福祉法 8) 労働法				

基礎看護学

1. 目的 人間のライフサイクルにおける健康の意義、保健・医療・福祉における看護の役割について理解し、看護実践の基礎となる知識・技術・態度を学ぶ。

2. 目標
- 1) 看護の対象である人間を理解し、保健・医療・福祉における看護の役割を理解する。
 - 2) 看護の歴史の変遷を理解し、専門職業人としての自覚を高める。
 - 3) 看護実践の基礎となる知識・技術・態度を習得する。
 - 4) 物事を科学的、論理的に見つめる考え方を養う。
 - 5) 対象に応じた援助技術を習得する。
 - 6) 対象に応じた看護過程の必要性を理解できる。
 - 7) 看護における臨床判断のプロセスを理解できる。

3. 構成

基礎看護学	講義・演習 11 単位 (315 時間)		
	看護学概論	1 単位 (30 時間)	(1 年次)
	看護基本技術	1 単位 (30 時間)	(1 年次)
	日常生活の援助技術	1 単位 (30 時間)	(1 年次)
	診療に伴う援助技術	1 単位 (30 時間)	(1 年次)
	日常生活の援助技術演習	1 単位 (45 時間)	(1 年次)
	診療に伴う援助技術演習	1 単位 (45 時間)	(1 年次)
	フィジカルアセスメント	1 単位 (15 時間)	(1 年次)
	看護過程の展開	1 単位 (15 時間)	(2 年次)
	看護における臨床判断 1	1 単位 (15 時間)	(2 年次)
	看護における臨床判断 2	1 単位 (15 時間)	(2 年次)
	看護の変遷	1 単位 (30 時間)	(3 年次)
	臨地実習 3 単位 (135 時間)		
	基礎看護学実習 1	1 単位 (45 時間)	(1 年次)
	基礎看護学実習 2	2 単位 (90 時間)	(2 年次)

看護の変遷				単 位 数	I	時 間 数	30
3 年次 4 月開講～1 月終講							
担当講師 蝦名總子 桶土井清美 他							
科目目標 看護の歴史の変遷や先人たちの看護を学ぶ							
回数	学習 形態	学習目標		学習内容			
1	講義	先人の看護理論を学び、看護観を深める		【看護理論】 関心ある看護理論家の著作、関連資料を用いて 討議および発表			
2～5	グループ ワーク						
6・7	講義	看護の歴史の変遷について理解できる		【看護の変遷】 1) ナイチンゲール以前の医療・看護 2) 近代看護の芽生え ・ナイチンゲールの功績 ・近代看護の変遷 ・アメリカの看護・看護教育の変遷 ・日本の看護・看護教育の変遷 3) 昭和の戦後から平成・令和までの看護制度			
8～11	講義	慈恵における看護の歴史を学び、看護の本質について考える		【慈恵における看護の歴史】 1) 慈恵史 2) 「看病の心得」平野 鎧 著 解説			
12～14	グループ ワーク			「看病の心得」平野 鎧 著 1) 抄読会 グループで選択した章について討議 2) 技術演習 討議内容の中から項目を選択して実施			
15	施設 見学	病に関する人間の偏見や差別が社会にもたらす影響、人間の尊厳の意義を理解し、看護のあり方を考える		【国立療養所多磨全生園・ハンセン病資料館見学】 1) ハンセン病に関する講義 2) 施設見学			
使用テキスト 平野 鎧 著：看病の心得 インフォレスト 慈恵看護教育 130 年史編集委員会 編：慈恵看護教育百三十年史 フローレンス・ナイチンゲール 著：看護覚え書きー看護であること、看護でないことー 現代社 ヴァージニア・ヘンダーソン 著：看護の基本となるもの 日本看護協会出版会 野嶋佐由美 編：看護学の概念と理論 日本看護協会出版会 小林富美栄 著：現代の看護の探究者たち 人と思想 日本看護協会出版会 必要時、文献を配布・提示する。							
参考図書／ビデオ 金井一薫 著：ナイチンゲール看護論・入門―看護であるものとなないもの―を見分ける眼 現代社白鳳選書 14 現代社 湯楨ます 監修 薄井坦子 他 訳：ナイチンゲール著作集 第一巻～第三巻 現代社 看護論シリーズ フローレンス・ナイチンゲール / 科学的看護論 / ヒルデガード・E・ペプロロー / ドロシア・E・オレム ビデオ・パック・ニッポン							
評価方法 出席、各レポートの内容、および 12 月終講試験で評価する							
留意事項 学習内容について使用テキスト等で予習をして授業に臨みましょう							

地域・在宅看護論

1. 目的

地域で生活する人々と生活しながら療養する人々及びその家族を理解し、在宅看護における必要な知識・技術・態度を習得する。
2. 目標

1) 在宅看護の意義と役割について理解する。

2) 在宅看護の対象を理解する。

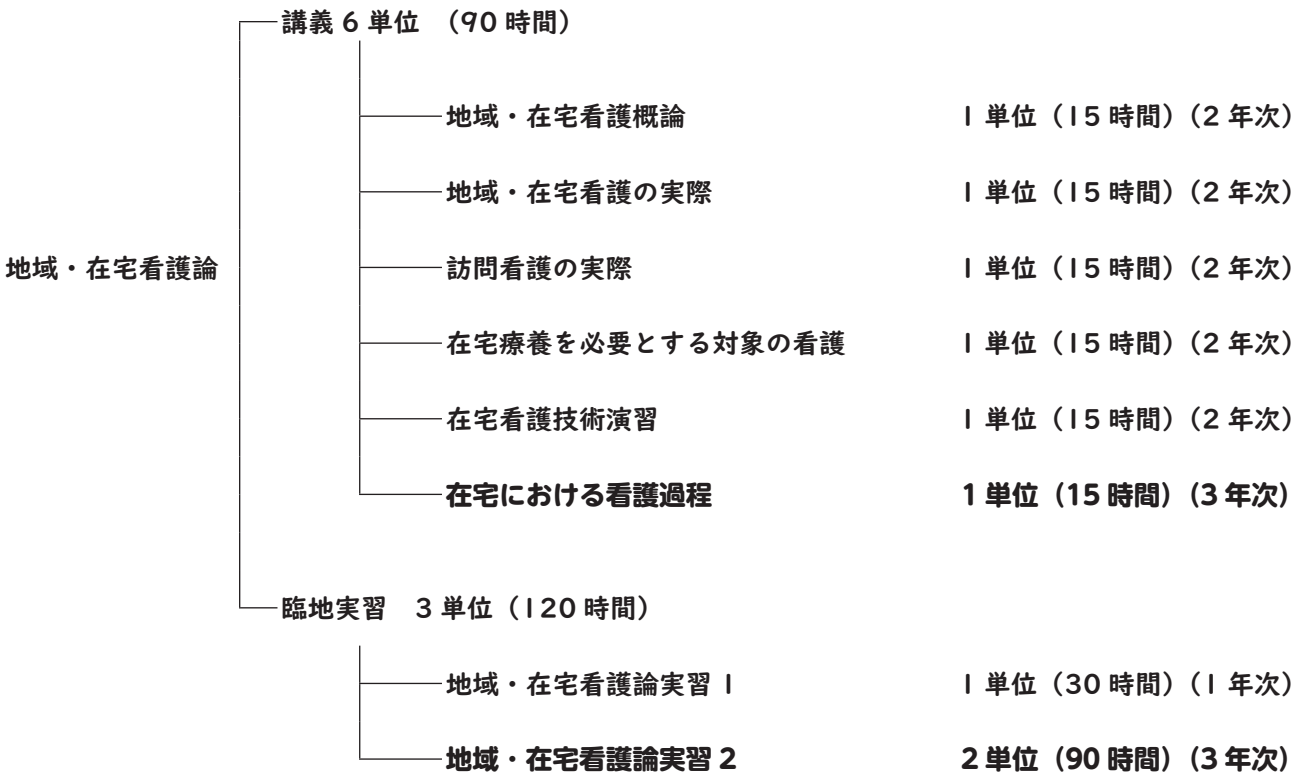
3) 在宅におけるケアシステムと看護活動について理解する。

4) 在宅看護における必要な技術を習得する。

5) 対象の社会資源の活用方法と関連機関・職種との連携・協働について理解する。

6) 地域で生活している人々及び療養している人と家族への看護を学ぶ。

3. 構成



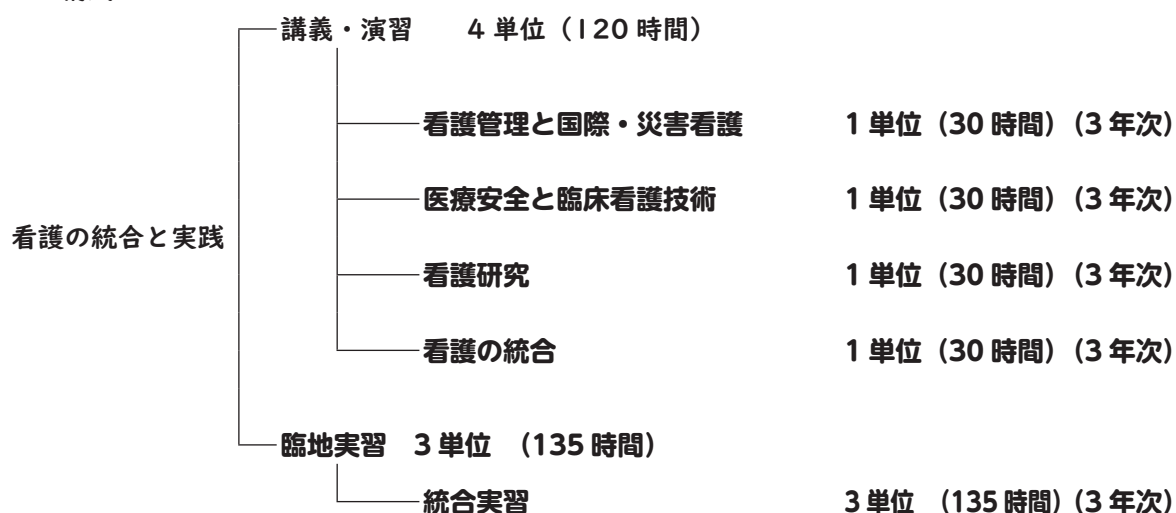
在宅看護における看護過程				単 位 数	I	時 間 数	15
3 年次 4 月開講～ 5 月終講							
担当講師 森美由紀 千葉早希子 初原由美子							
科目目標 1. 地域における社会資源の実際を理解する 2. 在宅療養者の看護過程の展開を通して在宅看護の特徴を理解する 3. 訪問場面における必要な技術を理解する							
回数	学習 形態	学習目標		学習内容			
1 ～ 3	自己 学習	1. 居住地における社会資源の 現状を知る		1. 在宅療養者に対する居住地域のサービス 現状の調査 ・介護保険に基づくサービス ・各自治体における高齢者福祉サービス ・在宅療養者のサービス利用に伴う諸経費			
4 ～ 7	講義 演習	1. 在宅療養者と家族への看護 が展開できる		1. 在宅看護における看護過程の展開 1) 看護過程展開の特徴と在宅看護の目指すもの 2. 看護過程の展開 1) 上位・中位目標にそった下位目標の立案および サービス利用料の算出			
8	演習	1. 訪問看護に必要な基本的 姿勢が理解できる 2. 訪問看護に必要な技術が 理解できる		1. 訪問看護の技術 1) 訪問看護師の基本的姿勢・訪問時の必要物品 2) 訪問場面のロールプレイ 3) 実施後のグループワーク			
使用テキスト 特に指示しない。 参考図書 河原加代子他：系統看護学講座 専門分野〔1〕 地域・在宅看護の基盤 医学書院 河原加代子他：系統看護学講座 専門分野〔2〕 地域・在宅看護の実践 医学書院							
授業を受ける際の留意点 提出物の期限、規定を守ること 介護保険、地域の社会資源に関するパンフレット・資料等必要と考えられるものを各自持参する							
学習課題 別紙にて提示する							
評価方法 課題の内容、課題提出期限、グループワーク参加状況、出席で評価する							

看護の統合と実践

1. 目的 既習の学習を統合し看護の実践力を向上できるような知識・技術・態度を学ぶ。

2. 目標
- 1) 看護のマネジメントの基礎的能力を習得する。
 - 2) より実践に即した技術を習得する。
 - 3) 質の高い安全な医療を提供できる能力を養う。
 - 4) 国際看護や災害看護の実情を知り専門職としての自覚を高める。
 - 5) 専門職業人として研究的姿勢と自己研鑽する姿勢を身に付ける。
 - 6) 看護の本質を探究し自己の看護観を深める。

3. 構成



看護管理と国際・災害看護				単 位 数	I	時 間 数	30
3 年次 4 月開講～12 月終講							
担当講師 桶土井清美 千葉早希子 樋口まち子 他							
科目目標 1. 医療を支える質の高い看護サービスを提供するための看護管理の必要性を学ぶ 2. 保健医療制度の中の看護制度について理解する 3. 国際化が進む社会における看護のあり方について理解を深める 4. 災害看護に関する基礎的理解を深める							
回数	学習 形態	学習目標	学習内容				
1～4	講義	1. 看護におけるマネジメントを理解する 2. 看護サービス管理を構成する要素を理解する 3. 保険医療の機能分化に伴う看護管理のあり方と他職種連携の重要性を理解する 2. 医療情報の活用と管理方法を理解する	1. 看護とマネジメント ・マネジメントとは ・看護におけるマネジメント ・組織経営と看護 2. 看護サービスの管理 1) 医療と看護の標準化と質保証 ・医療と看護の標準化 クリニカルパス ・病院機能評価 ・看護提供システム 重症度 看護必要度 ・看護業務基準、看護手順 ・看護業務管理、交替制勤務 ・看護サービスの質評価 3. 保険医療の機能分化と連携協働 ・看護独自の視点と他職種連携 ・病床機能評価と報告 ・継続看護と入退院調整 ・地域包括システムにおける看護の役割 4. 情報のマネジメント ・診療記録の電子化と医療情報の活用 ・個人情報の管理と診療情報公開				
5～7	講義	1. 看護政策について理解する 2. 看護制度を理解する 3. 看護管理における倫理課題を理解する	1. 政策とは ・政策過程とは ・看護政策の立案 ・政策実施における行政の役割 2. 看護制度とは ・看護制度を規定する法律 ・看護制度を理解するための視点 看護マンパワー確保と課題 看護教育制度、継続教育とキャリア 看護の対価と処遇 看護職の労働安全とリスク 3. 看護管理における倫理課題				

看護管理と国際・災害看護

8～10	講義	1. 看護と国際協力の必要性が理解できる 2. 多様な文化を考慮した看護について理解する 3. 国際看護活動の実際を理解する	1. グローバリゼーションの考え方 2. グローバリゼーションと看護 ・世界各地における健康問題とその現状 3. 国際看護活動を担う組織とその活動 ・WHO（世界保健機関）における取り組み ・ICN（国際看護師協会） ・政府開発援助（ODA） ・非営利組織（NPO） 4. 文化を考慮した看護 ・多文化と異文化看護・在日外国人への看護 5. 国際協力と看護 ・国際看護活動の実際 6. 国際看護活動の展望
11～14	講義	1. 災害・災害看護に関する基本的事項について理解する	1. 災害とは 1) 災害のさまざまな定義 2) 災害の種類 2. 災害医療とは 1) 災害医療と救急医療の違い 2) 災害サイクル各期と災害医療 3) 災害医療の3T 4) トリアージの目的と方法
	講義	2. 災害看護の特殊性について理解する	1. 災害看護の定義 2. 災害看護の特徴 3. 災害が人々の健康と生活に与える影響 4. 災害時の看護の役割 1) 災害サイクルに応じた看護 2) 活動の場に応じた看護
	講義	3. 被災者と救援者の心のケアについて学ぶ	1. 被災者のストレスと心のケア 1) 被災者のストレス 2) 被災者のこころのケア 2. 援助者のストレスとその対応
	講義	4. 災害発生時の対応を学ぶ 5. 災害時における慈恵医大の役割を学ぶ	1. 防災計画整備の必要性 1) 「災害拠点病院」としての計画 2) 看護部としての計画 2. 災害発生時の対応 1) 被災状況の把握、在院患者の避難・誘導、被災患者収容体制の確立 2) 各部門への連絡と対応 看護体制の確立 3) 医療救護所への救護班の派遣
15	演習	6. 災害時の救護活動に必要な技術を学ぶ	港区総合防災訓練参加 避難生活での健康体操指導（DVT 予防）
使用テキスト 上泉和子他：系統看護学講座 専門分野 看護管理 医学書院 竹下喜久子他：系統看護学講座 専門分野 災害看護学・国際看護学 医学書院			
評価方法 12月終講試験（100点満点）により評価する			

医療安全と臨床看護技術				単 位 数	I	時 間 数	30
3 年次 4 月開講～12 月終講							
担当講師 佐藤 千恵子 森美由紀 伊藤美鈴 松澤亜希子 柏倉宏美 初原由美子 山田久枝 田原裕美子 他							
科目目標 1. 安全を意識した看護実践が行えるよう医療安全の基礎的理解を深める 2. 臨床場面に応じた看護実践の能力を向上させる 3. 看護技術の総合的な評価を行い、より実践能力を強化する							
回数	学習 形態	学習目標	学習内容				
1	講義	1. 医療安全の必要性を理解する	1) 医療事故の概念 (1) 医療事故の概念 ①医療事故の現状とその要因 ・医療事故、アクシデント、医療過誤 インシデント、ヒヤリハット (2) 国の医療安全対策 ①医療安全推進の背景 ②医療機関における医療安全管理体制				
2	講義	2. 人間の行動とヒューマンエラーを理解する	1) 人間の行動特性 (1) ヒューマンエラーとは (2) エラーと違反（不安全行動） (3) 不安全行動の防止対策 ①リスク知覚（感覚）を高める ②危険予知トレーニング（KYT） ③エラー防止対策（危険予知活動）				
3	講義	3. 看護業務の特性と医療事故の実態を理解する	1) 看護業務の特性から見た医療事故 (1) 診療の補助業務に伴う医療事故 (2) 療養上の世話に伴う医療事故 (3) 業務の領域を超えて起こる医療事故 ①医療側者の要因 ②患者側要因 ③状況要因				
4	講義	4. 医療事故防止対策を理解する	1) リスクマネジメント（医療安全管理） (1) リスクマネジメントとは (2) 組織における安全管理システムの構築 (3) 医療事故発生時の対策 2) 医療安全対策の展望 (1) 医療の質向上のための取り組み ①組織として ②医療に携わる者として				

医療安全と臨床看護技術

5 ～ 15	演習	1. 複数事例の援助計画を優先度や安全に配慮して立案できる 2. 援助中に生じる問題に対処しながら援助計画が実施できる 3. 援助を振り返り、安全への配慮、対処行動・技術について検討する 4. 医療安全の視点から自己の課題を見出す	1) 複数事例の援助についてグループで討議し決定する (1) 複数事例の援助内容・方法・優先度を検討する ①援助中予測される問題を明確にする ②複数事例の援助計画を立案する ③実施上の留意点（患者の安全への配慮・メンバー間の協力、調整など）を挙げる ④複数事例の援助の優先度を判断する 2) 看護師役、患者役、観察者を実施する ①患者・観察者の役割を把握する ②看護師同士で、援助内容・留意点について打ち合わせを行う 3) 医療安全の視点（「状態のアセスメント」「援助の実施内容」「多職種・チームメンバーへの報告・相談」）から援助を振り返る ①患者・看護師・観察者の立場から援助計画・実施した内容を検討する ②グループ毎にデブリーフィングをする ③発表し、学びを共有する 4) 振り返った内容を活かし、医療安全の視点（「複数事例の状況判断」「安全への配慮」「問題への対処行動」「チームでの看護実践」）から自己の課題を明確にする
使用テキスト 川村 治子 著：系統看護学講座 専門分野 医療安全 医学書院			
評価方法 授業の出席・演習の課題内容・提出状況・演習の参加度・演習実施後のレポートで総合評価する			

看護研究				単 位 数	I	時 間 数	30
3 年次 4 月開講～11 月終講							
担当講師 齊藤真梨恵 全教員							
科目目標 1. 看護に必要な研究課題を見出し、基本的な研究のプロセスを実践する 2. 倫理的配慮を踏まえ、看護研究を進める 3. 研究の成果をまとめ、発表をする							
回数	学習 形態	学習目標	学習内容				
1	講義	看護研究の意義と重要性、研究のプロセスが理解できる	1. 看護における研究の意義と重要性 1) 研究とは 2) 看護研究とは 2. 研究のプロセス 1) 研究課題の選定～先行研究の検討 2) 研究デザインの選定 3) データの収集 4) 結果の解釈と考察 5) 研究成果の発表				
2	講義	研究テーマの選定方法が理解できる	3. 研究テーマの選定 1) リサーチクエストを立てる 2) 情報の探索と吟味（文献レビューとその方法） 3) 文献の読み方（クリティーク）				
3	講義	倫理的配慮を踏まえ、看護研究をすすめる必要性が理解できる	4. 看護研究における倫理 1) 人を対象とする研究の倫理 2) 研究の各段階における倫理的配慮 3) 研究倫理に関わる指針と考え方				
4・5	講義	量的研究および質的研究の基礎が理解できる	5. 量的研究の基礎 1) 量的研究とは 2) 主な量的研究方法 3) 調査研究 4) 介入研究 5) 量的研究のデータ分析 6. 質的研究の基礎 1) 質的研究とは 2) 質的研究の代表的なデザイン 3) 質的研究方法（文献研究） 4) 質的研究方法（事例研究）				
6	講義	研究計画書と研究論文の作成が理解できる	7. 研究計画書 1) 研究計画書とは 2) 研究計画書を書いてみよう 8. 論文成果のまとめ 1) 論文作成 2) 論文の構成と書き方				
7	演習 ゼミナール	研究テーマ・研究計画をプレゼンテーションし、ディスカッションができる	・看護研究希望用紙の提出 ・関心領域やテーマ、研究の進め方				
8	演習 個人ワーク	文献を検索し研究計画が立案できる	・文献検索 ・研究計画書と文献カードの提出				
9	演習 ゼミナール	研究背景・研究動機・研究目的・研究方法をプレゼンテーションし、ディスカッションができる	・論文を規定に従った作成 ・論文指導、今後の進め方				

看護研究

10～12	演習 個人ワーク	学術的な研究論文・抄録を作成できる	・研究論文の構成要素に則った研究論文・抄録の作成
13	講義	研究成果の公表の意義と学術的なプレゼンテーションが理解できる	9. 研究成果の公表 1) 研究成果の表現技法 2) 研究発表の形式
14	演習 ゼミナール	研究発表を行い、ディスカッションができる	・発表原稿の作成
15	発表	研究の成果をまとめ発表ができる	・学術的なプレゼンテーション
使用テキスト 坂下玲子編 系統看護学講座 別巻 看護研究 医学書院 高谷 修著 看護学生のためのレポート・論文の書き方 金芳堂			
評価方法 ・事前学習、研究のプロセス、研究論文の作成、研究遂行への姿勢・倫理的態度、発表で評価する ・最終提出された看護研究論文に、引用先を明記せずに、他人の論文、著作、レポート、ウェブサイト、インターネット投稿などの一部または全部の剽窃（コピー＆ペーストなど）があった場合には、無効（不合格）とする			
留意点 授業に出席し、指導を受けながら研究（事例研究または文献研究）論文を作成すること 事例研究：研究対象は、領域別実習において履修した事例とする 文献研究：研究対象は、公に発表された研究論文とする			

看護の統合				単 位 数	I	時 間 数	30
3 年次 4 月開講～ 3 月終講							
担当講師 桶土井清美 森美由紀 他							
科目目標 1. 看護におけるケアの意味の理解を深める 2. 自己のケアに対する考え方を深める 3. 自己の看護観を明らかにする							
回数	学習 形態	学習目標		学習内容			
1～4	演習 個別 学習	・ 指定図書「ケアの本質」を読み、 内容の要約・感想をまとめる ことができる ・ 領域別学習で考えたことや 学んだことを振り返ることが できる		1. 「ケアの本質」の本文の意味を理解し、要点をノート にまとめる 「ケアの本質」の内容に照らして実習 場面を振り返り、感想や考えたことを所定のノート に記載し提出する 期日は別に提示する 2. 指導を受けた内容について考えを深めるノートには 随時感想・意見を追記する グループワークで深めたい内容をノートに記載 する			
5～11	演習 学外グ ループ ワーク 発表	・ 援助のプロセスを振り返り、 「ケアの本質」を考えることが できる ・ グループワークを通して他者 の意見を聞き、自分の意見を 述べるができる ・ 「ケアの本質」について グループで発表できる ・ 「ケアの本質」について自分の 意見をまとめることができる		1. グループワークのテーマをグループごとに決定する 2. セミナー 「ケアの本質」について臨地実習での体験を通して グループで話し合う 3. グループで話し合った内容についてまとめ、発表、 意見交換する 4. ケアの本質について自己の考え、学びをまとめる			
12～15	演習 個別 学習 発表	【看護観】 ・ 3 年間の看護の学びを振り 返し自己の看護観を明らか にする ・ 「私の看護観」を発表すること ができる		1. 自己の3年間の学びを整理する 1) 看護観の作成に当たり必要な文献の検索 2) 看護観のレポートの作成 3) 発表原稿の作成 4) 看護観の発表			
使用テキスト ミルトン・メイヤロフ著 田村 真 他訳：ケアの本質 生きることの意味 ゆみる出版							
評価方法 課題内容・提出状況、グループワーク参加度、レポート内容・提出状況等により、総合的に評価する							
学習上の留意点 「ケアの本質」は、「3 年時の領域別実習 10 単位以上の出席」が履修要件となる 「私の看護観」は、「統合実習の出席」が履修要件となる							